新京日日新聞
朝刊
本紙定價 一部五錢 一ヶ月一圓 ／ 廣告料 普通一行一圓五十錢 特別同二圓五十錢
發行所 新京日日新聞社 新京永樂町四ノ一 電話三二五・三三〇〇
發行人 十河榮忠 編輯人 和波繁 印刷人 水越內之介

年頭の辭

新陽東に昇つて大陸に新しい年はめぐり來つた輝く皇紀二千六百年であり、滿洲國では康德七年である。遙かに東方を拜して日本皇室の御榮えを壽ぎ奉り、滿洲國帝宮の御慶を頌する。しかしてこの時、支那の南北に聖戰は進められつゝある。昨秋勃發した歐洲戰爭が破壞と頹廢の相を露呈してゐるのに比べて、これは東亞の新しい建設をめざす希望と光明に滿ちた進擊なのである。砲煙消ゆれば直ちに復興の響高鳴り文化の創建成りつゝあるのを見るがよい。われらは前線將士の勇健を祈るとともに戰後建設の大任に在る人々の健鬪を希ふのである。

滿洲國は愈よ建設の步武を推し進めるであらうその國際的地位は愈よ昂められ、國內諸部門は愈よ充實することであらう仰いで盟邦日本の悠遠なる史的發展の跡を思ひ、皇紀二千六百年の新春を滿洲國國民は衷心より慶賀するとともに、愈よ東亞新秩序の重要なる據點としての責任の重いことを自覺する。新しい時代の曙光はいままさにわれらの上に輝いてゐる、眉上げて使命を思ひ雄心欝勃たるを感ずるのである

肇國式年の新春
森嚴太古偲ぶ四方拜

【東京國通】仰ぎ奉る「天壤無窮」の神勅、「六合開都八紘一宇」の建國大詔のまにまに皇猷恢弘の二千六百年、皇統連綿として燦たる御稜威のもとに今日ぞ迎へた肇國式年の新春、光輝ある昭和十五年の元旦――國を擧げて寶祚の彌榮を壽ぎ奉り、紀元元年元旦（陽曆二月十一日）六合の中心と橿原に都を奠め給へる神武天皇の皇謨を欽仰し奉る佳辰である、畏くも天皇陛下には午前五時半より四方拜の御儀を行はせられ、伊勢神宮を始め奉り聖嶺天の八重雲たゞよへる邊り畝傍の御陵四方の神祇を御遙拜御親ら惟神の大義歷聖の御遺訓を仰がせられ皇室の御繁榮、國運の隆昌、四海の和平確立を御祈念あらせ給ふ、賢所神域神嘉殿の南庭御屛風で圍ひ奉り地上直に敷かれた眞薦の御座、燈火二基がほのかにゆらぎ、庭燎は曉の暗を低く照らす開闢の太古もかくやと偲ばれる森嚴の氣の中を畏くも陛下には午前五時過ぎ綾綺殿に渡御、黃櫨染御袍の御束帶を召され御姿神々しく、侍從奉仕の脂燭の明りに神嘉殿南庭に下御、御拜の御座に着御、諸員は遙かに平伏して伺ひ奉ることもなく萬籟寂として聞ゆるものもない裡に神宮を始め神武天皇、大正天皇の山陵四方の神祇を御遙拜遊ばすと承はるが、今猶神代の如くに、大和建國の如くに拜し奉る神嚴さと拜承する、この間七、八分、それより更に賢所に御參進、金鈴靜寂に流れる御鈴の儀の裡に御親拜更に皇靈殿神殿に御拜あらせられるが、いつ、いつ、いづくともなく白み初めて元旦の慶び浦々に迫る頃畏くも宮中にては肇國の式年に御意義を一入こめさせられて四方拜に次いで歲旦祭の御儀を終へさせられる

御稜威輝やく拜賀式

【東京國通】聖戰下三度迎へた新春、肇國欽仰の榮に未だ明けやらぬに奉祝の赤誠は既に二重橋前に滿ち充ち、更に津々浦々、遙か大陸の前線にまで洽く、かくて佳き日は淸らかにもおほらかに明けて瑞祥限りなし森嚴の裡に賢所の御儀を終へさせられた天皇陛下には御軍裝凛々しく御召替へ遊ばされ午前八時鳳凰間に出御、ひし葩の餠も芽出度く晴御膳の御儀を行はせられ、大奥には皇后陛下、皇子様方と佳き日を壽がせ給へば午前十時天皇、皇后兩陛下には御揃ひにて鳳凰間に再び出御、秩父宮同妃兩殿下を始め皇族方に御對面建國式年に輝く年頭の御祝詞を受けさせられる、それより皇族方を隨へさせられて正殿に出御、阿部首相以下謹然居並ぶ文武百官同夫人等に賜謁、次いで午前十一時よりは宮中席次第廿七以上の諸員其の他有資格者の拜賀を受けさせられ、大御光りに光ります大御稜威を群臣にも頒たせ給ひ、午後一時半よりはグルー米國大使以下各國大公使同夫人等の拜賀を受けさせられて元旦輝やく拜賀式を終へさせられる

三寒四温

皇紀二千六百年の新春を迎へ、めでたくもまた有り難きを思ふもの、願はくば一億四千萬でありたい▼日滿一心、全國民が心からこの新年を、うれしく、感謝して迎へるやうにありたい▼滿支の前線における將士その銃後留守宅における家族、ことにはみくにのために華と散つた勇士たちの遺家族、戰線で傷つきまたは病んだ白衣の勇士たち、さらに生產力擴充のために、汗にまみれて活動してゐるおほみたからのすべてが、けふのよき日を心から喜び迎へむことを▼だが遠く深く思ひをめぐらす迄もなく日滿一億四千萬人のおほみたからの中には、けふの一日をすら、ほがらかに、ゆたかに迎へ暮すことの出來ぬ者が何と多いことであらう▼さうしてそれは何も今年の元旦に限つたことではないし、また一月一日といふ年に一度のことに限らぬおよそ生きていく毎日が、めでたく有り難い人にはつねにめでたく有り難いのであると共に、惠まれぬ、惱める人には、常の日が苦しみであり或はのろひであるかも知れぬのだ▼おめでたう！といつて自分の生を喜び相手の生を祝ひ、みくにのいやさかをことほぐときいつたい自分は何故かくめぐまれてゐるのか？と反省し、世の中には、おほみたからの中には、はたして今日たゞいまの自分の如くにめでたく生きえない者はないだらうか？と考へてみる義務がありはしないか▼いや義務などゝいつては、ほんたうのことがあらはせないい▼われ〳〵は上御一人のみいづと、下一億同胞、四千萬同志の――おほみたからのたゆみなきいそしみのおかげで今日あることを心から感謝しなければならんのだ▼いつたい、米一粒もつくらず、羊一頭も飼はず、綿一本作らぬ人達が、大きな顏して洋服を着て、御馳走をたべてゐるといふことのは、何故かまた何のためか▼石炭一かたまり掘らず運ばず、さらにかまにくべもしない者が、ぬく〳〵と溫まり、やれ低溫生活がどうの、石炭節約がかうのといつてゐられるのはそもそも何のためか▼一等寢臺に大の字になつて、やれサアヴイスがどうのと文句たらだらのおえらがたは、夜の目もねずに、蒸汽機關を守つてゐる人達のことを果して考へてゐるだらうか▼非常時だ、總動員だ、堅忍持久だ、忍苦鍛錬だと、講演や、訓示をするだけで、自分は旅費つきで一等車、歡迎會、料理屋といふプログラムを、いとも平氣といふよりは、まさに當りまへのこととしてゐるやうな指導者(?)が自他共に何の不審もいだかれずに動いてゐる――むしろのさばつてゐるといふこの狀態は、はたしていつまで續くであらうか▼時局はます〳〵むづかしくなる▼それは單に國際關係や經濟問題だけではない▼社會の物心全體にわたつて、むかしからの制度や組織や考へ方を一新しなければならぬときが迫つてきたのだ▼「昭和維新」といふことばがはやつたことがあるが御一新の時機がきてゐるのにかゝはらず、世の指導者たち、現狀維持勢力がこの革新をはゞまうとしてゐるところに、今日の時局の眞の國難があるのだ▼政黨の墮落と不信、官僚の獨善と無力といふことがいはれるけれども、そんならどこに力と認識と信念と指導精神とがあるのだ？▼二千六百年來未曾有の國運の發展と共に、空前の大難局に立つてゐる今日、日本ははたして、これをのりきつて行く力にかけてゐるのか？▼斷じて否！▼國民の力、その精神が今日の如く充實しかつ旺盛なことは空前なのだ▼眼前の難局の如きはこの國民的實力の前には何でもないのだ▼それがあたかも非常に困難に見えあぶなく思はれるのは、要するに今日の指導者たちがグウタラで誠意と勇氣とにかけてゐるからだ▼國民は今眞に勇氣と誠意とを有する指導者を待望してゐるのだ。

御八歳の御正月
皇太子樣御降學の春

【東京國通】畏くも皇太子繼宮明仁親王殿下には御八歳の輝やかしい御正月を迎へさせられた、御活潑な日常の裡に日嗣の皇子としての御心身の御鍛錬を遊ばされてゐるが、天稟の御ひらめき愈畏く御身體御智能ともに御發育殊に御麗はしく涉らせられる、既に御學齡に在はす殿下には、愈よあと三ケ月の後には東宮假御所から赤坂離宮傳ひにすぐ隣りに近く竣工する學習院初等科の第一學年に御降學あらせられるが御机御椅子等は勿論御在學中は一生徒の御資格で一般御學友と何等變らせられることもない御豫定と拜承するは畏き次第である、殿下には今から四月の御降學を指折り御待ち兼ね遊ばすと承はるが、殿下を學園に迎へ奉る慶びに榮光は燦として全國學童の上に輝く春である

皇室の御繁榮

御寫眞右上から皇太子殿下、義宮正仁親王殿下、左上から照宮成子内親王殿下、孝宮和子内親王殿下、順宮厚子内親王殿下、淸宮貴子内親王殿下【宮内省寫眞部謹寫】

竹の園生の御榮

【東京國通】第二皇子にまします義宮樣には御機嫌麗しく御六歳を算へさせられた、皇太子殿下の御弟宮として御將來輝やかしい御身位であらせられるが、御發育優れさせられて繪本を御覽あらせられ童謠を歌はせられるにつけても御資性の程が拜され側近は御恐悅申上げて居る、女子學習院中期四年に御在學の照宮樣には御十六歳、同前期四年御在學の孝宮樣には御十二歳、同三年御在學の順宮樣には御十歳の御正月を葉山御用邸附屬邸で御迎へ遊ばされたが愈よ春四月からは後期一年に御進級遊ばされる照宮樣を御中心に内親王樣の御團欒一入御和やかに、樂しい新春を御祝ひ遊ばされた宮城に初の新年を迎へさせられ御二歳を算へさせられた淸宮樣には、天皇皇后兩陛下の御愛撫の御もとにすく〳〵と御發育あらせられ、御九ヶ月餘の十二月初めには御乳離れ遊ばして御兩親陛下の御優しい御言葉を早くも御理解、御喜びあらせられ、御日常は宮中大奥の御團欒の御中心であらせられると承はる

滿洲國皇帝陛下
再度日本御訪問
我皇室擧げてお待兼

【東京國通】善鄰滿洲國皇帝陛下には皇紀二千六百年の建國式年に際し悠久燦たる我が皇室の彌榮、四海無比の我が

國體の

精華を壽がせられて我が皇室に御祝意を表させ給ふ思召に依り、明春再び御來訪あらせられると承はるが日滿一德一心の思召畏く建國既に七年兩國の情誼を愈よ深めさせられつゝ日夜建國王業に御精勵あらせられる第一代皇帝陛下には我が肇國の式年に遭遇せられ御感殊に深く涉らせ給ふと承はる、昭和十年御來訪の御砌には大連御出港の翌四月三日神武天皇祭に皇帝には我が肇國の御鴻業を欽仰せられ、通常禮裝に御威容を正させられ御召艦上東方神武天皇の御英靈を御遙拜遊ばされたのであつたが、この度の御來訪に際しては伊勢神宮を始め橿原神宮畝傍山陵にも御參拜あらせられたき御內意の由である、先の御來訪に際しては朝野を擧げて奉迎申上げたが、殊に我が皇室の御厚誼に深く御感銘あらせられて居る由で毎朝天皇、皇后、皇太后三陛下の御健康を御祈念あらせられつゝ我が皇室の御聖德、限りなき恩威を御追憶遊ばされる、大宮御所裏洗心亭にて皇太后陛下と御對面の御砌には秩父宮殿下にも御同席遊ばされたが、御三方御揃ひにて

御散步

まで遊ばされた御和やかな御團欒で皇帝陛下には坂道等では皇太后陛下の御手を取らせられて御介添遊ばした程で其の際皇帝には「毎朝、朝日の昇るのを見る每に東天に向ひ兩陛下及皇太后陛下を憶ひ起して居ます」と御語らひあらせられたのであつた、又皇太后陛下には「今こゝで御別れ致したらまた何時陛下に御會ひが出來て御一緒に御散步が出來ませうか」と仰せられたのに、皇帝は「今回は公式でありますが何れ非公式の訪問も出來ませうから、どうか皇太后陛下には何時までも何時までも御壯健でいらせられますやうに」と御答へあらせられたのであつた、皇太后陛下には其の後皇帝の神戶御出港に先立つて、滿洲國皇帝に會見の折に讀める、との御題にて

若松の一本そへる心地して來たのもしき春の庭かな

御會見後の御感想を傳へきて、との御題にて

我れをしも御母の如くおほしつるその御心にしたしまれつゝ

と御歌を贈らせられたが、日滿兩國皇室の深き御交誼の程畏き極みでかく再度の

御來訪

を御約束遊ばれた皇帝陛下には又我が皇太子殿下にも彌よ御成育遊ばされ今春からは學習院初等科に御降學遊ばされるを壽がせられつゝ御來訪の時を御待ち兼ねあらせられると承はる

日夜の御精勵
畏し秩父宮殿下

【東京國通】光輝ある紀元二千六百年、一億待望の新春畏くも奉祝會總裁秩父宮殿下には御年卅九を數へさせられた、廣東攻略戰には作戰に御參加赫々たる御武勳を樹てさせられた他幾度か大陸各戰線を御親察、又參謀本部の御多端な御軍務に日夜御精勵各皇族方と共に畏き御身を以て興亞聖戰に御活躍遊ばされるは畏き極みである、昨秋の明治神宮國民體育大會には總裁宮と仰ぎ時局下光榮の銃後若人は感奮、愈よ銳氣を昂揚したのであつた、御日常は午前九時參謀本部に御出仕午後六時頃に至つて始めて御退廳遊ばされるが、御殿にても深更まで御軍務にいそしませ給ふことも再々の由に承はる

其の他は毎週木曜日の御晩餐の後、學術振興會の各委員等を召され各方面に亘つて權威の研究を御聽取遊ばされるが紀元二千六百年奉祝會に關しては特に御心を用ひさせられ祝典事務局の歌田幹事長等關係官に對しても隨時拜謁を賜ひ事務上のことに關しても御熱心に御聽取あらせられる、かかる際計畫や事務上に關し肇國の大義にまで立ちかへつての御批判心もとに畏き御下問や御言葉を賜ひ關係官が恐懼申上げたことも再々の由で殿下の深き御研究、又畝傍山陵を始め宮崎鹿兒島方面に至るまでの肇國聖蹟に御精通遊ばされて居るに一同感激申上げて居る

國を擧げて天壤無窮の皇運を壽ぎ奉り、悠久燦たる肇國の大道を宣揚し奉る時、今秋十一月天皇皇后兩陛下の行幸を仰ぎ催される奉祝式典並に奉祝會の盛儀を始め肇國記念のこの年總裁宮の御使命が彌が上にも輝やかしく、萬民齊しく敬慕し奉るところである

堂々、我空中艦隊蘭州空爆

長弓嶺の嶮を突破
鍋島部隊猛攻

【蓮江口卅日發國通】卅日早曉蓮江を渡河した右翼追擊隊鍋島部隊は午後早くも長弓嶺の嶮路を突破、また同部隊と相前後して蓮江上流を渡河、長梯山左側を大迂廻して猛進中の古賀、佐々木、野口の各部隊は北江右岸を進擊中の石田部隊と呼應し、三方面より神速果敢な攻擊を續けてをり、要衝○○の敵は不意をつかれ早くも逃走を開始した

對日無差別
米政府桑港關稅に通達

【サンフランシスコ卅日發國通】米國政府は既に日米通商條約の失效後も日本品に對し差別關稅を賦課せぬ旨聲明してゐるが、廿九日商務省よりサンフランシスコ稅關に對し正式に右の趣旨を通達した指令が到達した、指令內容次の通り

一八七二年九月のグラント大統領の布告がその後廢棄された事實なく、從つて右布告は依然效力を有すと認めるをもつて今後別段の指令なき限り日米通商條約失效後も日本船積載貨物に對する從價一割の差別關稅その他噸稅、燈臺稅等一切の差別待遇をなさず、從來同樣の取扱をなすべし

在上海ソ聯總領事館近く再開か

【上海三十一日發國通】ソ聯總領事代理コンスタヂワノフ氏が去る九月突如館員十餘名と共にウラジオ經由本國に引上げ上海總領事館を閉鎖同樣の運命に置いたことは歐洲戰爭勃發、ノモンハン停戰協定成立等世界情勢の目まぐるしき裡に種々の話題と臆測を提供してゐたが新年早々再び上海に歸ると言はれ多大の注目を惹いてゐる

卽ち情報によればソ聯外交官吏一行六十名は既にウラジオストックを出發日本に向ひつゝありと云はれ、これ等のうち何名が上海に向ふのかは未だ明かでないが右情報に對し現に上海のミルウエーソ聯總領事館內にある殘留ソ聯總領事館員は口を緘して語らず、ソ聯外交團に對する疑惑は依然殘つてゐる

元旦號 本日特輯グラフ共二十八頁

皇紀二千六百年の春を壽ぐ

興亞の使命遂行こそ　天與の時代的光榮

梅津關東軍司令官年頭の辭

茲に皇紀二千六百年の新春を迎へ悠久建國の古を仰ぎ皇恩東亞に洽く萬世一系、連綿たる皇統の尊嚴に額いて遙かに畏くも皇室の繁榮、皇國の隆昌を壽ぎ奉り、併せて滿洲國の興隆を祝し、更に新興支那の速かなる復興を祈念し、上下一體齊しく皇國享生の恵澤に感激するは、慶賀の情いよ／＼切に感慨實に限りなきものあるを禁じ得ない

時將に聖戰下第四年、曠古未曾有の鴻業東亞の新秩序建設は漸くその緒に就き興亞新政權の擡頭生誕を見んとする秋、滿洲國の建國は今國礎愈よ固く偉大なる業績を擧げ、之を東亞の建設に反映せしめつゝあるは皇國肇國の大理想顯現として洵に同慶に堪へないところである、而して今次事變勃發以來自任自重其の本分を全うせる關東軍將兵並に日滿不可分、日滿協同防衛の本義に立脚して克く其の實を發揮し物心兩方面に亘り皇國に協力せられたる滿洲國軍官民に滿腔の謝意を表する次第である

顧みて靜かに宇内の大勢を觀ずるに、世界は今や重大轉換期に直面し物質萬能、弱肉強食の覇道主義世界觀はその自からなる運命の下に相剋し、相喰み錯雜混沌として其の歸くところを知らず、遂に歐洲に於て動亂の惹起となり次第に其の餘波を全世界に波及せんとするに反し、東亞に於ては之に代うるに正義公道を中心とする道義世界觀樹立の大義に則り東亞永遠の大計が進められつゝあるは眞に至幸と稱すべきである、抑も東亞の新秩序建設はその

（×××××重要なる）契機を肇國の史實に徵することは多言を要せざるところにして、その淵源は所謂民をして各々その所を得せしめ生成化育協同大和の大精神に據る八紘一宇共存共榮の道義世界觀確立に他ならないのである

斯くて物質萬能、弱肉強食の西洋文明を一擲し、正義公道を中心とする明朗新世界觀の創建を確立し、道義的東洋文明を創造し、世界全民族の精神的動向に一大轉換を與へ、皇道宣布の民族的使命達成に邁進しなければならない、而もこの大使命遂行こそ史上未曾有の唯一無二なる天與の時代的光榮であり、我が肇國理想の達成生育期として重大意義を持つものである

皇政古に復つて明治聖代の大業一新を就けさせ給うてより、大正、昭和の聖代今正に國際躍進の秋に際し之が進展の使命を世界に負ふもの、任は愈よ重く且大なるものあるを感ずるのである、而して爾來身を皇國に挺し一死亦安きを顧みなかつた先進の努力と業績とに依り、今日この過程の招かれたるに思ひ至れば、自から新なる覺悟と不退轉の決意とを抱かざるを得ないのである

斯かる重大時局に直面し而も其の成果に有終の美を收めんが爲には日滿兩國民は上下を問はず愈よ（×××××堅固不拔）の決意の下に日滿不可分關係の眞義に徹し、滿洲國の全體的完成に總力を致し內、民生の振興産業の開發を圖り外、日滿共同防衛の重責を果し得る態勢を速に整へると同時に、日滿兩國民が一德一心益す一致團結民族協和の實を擧げ東洋禍亂の根源を拔本的に根絕するは勿論、進んで道義世界の建設に貢獻し以て全世界の福祉增進に邁進されんことを祈つて已まないのである

斯くて東亞の新秩序建設は、茲に皇國のゆかしくも又幽遠なる紀元二千六百年の悠遠に投合して愈よ光彩を八紘に放つを得べく、之が遂行に萬全を期することこそ上至尊の負託に應へ奉るばかりでなく、東亞恒久平和の確立を速かならしむる所以のものであり、且つは又この聖業に殉ぜられたる幾多の英靈に酬ゆる最高の道と信ずるのである

颯爽！馬上の梅津關東軍司令官

年頭の辭

滿協理事長　河本大作

皇紀二千六百年の新年を迎ふるに當り吾等在滿の同胞は八紘一宇の神勅を奉戴しつゝ大陸の第一線に立ちて活躍してゐることに無上の光榮を感ずるものである

當今日滿兩國の朝野を擧げて各種のスローガンが高調せられ實は吾々一般民衆として餘りにも盛り澤山で追從するところを知らずと謂つた貌である

そこで一體吾々在滿同胞は何事を眞先にやるべきかを考へさせられる次第だが小生の信ずる所に依れば我滿洲建國の偉業を一日も速かに完成することが最大緊急事であつて爾他の問題は第二義的だと思ふ、我滿洲國の建國後に於ける輝しき發展と躍進とは世界の驚異とするところなるがそれは基礎と外廓とが漸く出來上つた程度で其實質內容に至りては民治産業文化等未だ大に改善努力せねばならぬものが多々あつて殊に建國の要素たる五族協和の實績に想到せば慄然として心膽の寒きを覺える、王道樂土の語が宙に迷ふてゐる

此の際徒らに眼前の小利功や形式枝葉の末節に拘泥せず、宜しく建國の大精神を喚起し眞に官民一致和衷協力以て滿洲建國の偉業完成に邁進すべきである、斯くすることが八紘一宇の大精神に副ひ奉る所以ではなからうか、之を以て年頭の辭とする

日滿結合の實　愈よ強化せよ

駐滿大使館附武官　海軍少將　桑折英三郎

茲に皇紀二千六百年の新春を迎へ謹みて聖壽の萬歲と寶祚の無窮を壽ぎ奉り併せて國運の隆昌と聖戰目的達成の一日も速かならんことを祈願する次第である、滿洲國も建國既に九年、齡を重ねると共に國礎彌々固く萬般總て躍進的發展を遂げつゝあるは誠に慶賀に堪へざるところで、日滿不可分の關係も亦新東亞建設を基調として益す深まりつゝあるは御同慶の至りである

我が國が東洋永遠の平和確立の爲に暴支膺懲の師を進めてより茲に二年有半、皇軍の武威四百餘州を風靡し、國民政府は僅かに奧地重慶に逼塞して其の餘喘を保ちつゝある次第で、興亞の黎明期して待つべきものがある

□　□

顧みれば昭和十四年も決して無事な年ではなかつた、支那大陸に於ける我が聖戰の進展は勿論のこと、滿洲に於ても盛夏三ヶ月に亘る國境紛爭あり一方危機を孕みつゝありし歐洲は獨軍の波蘭進駐に端を發し遂に再び戰火の巷と化し去つたのである、我が國民の中には、今次歐洲大戰勃發に伴ひ列國の東亞に對する關心が輕減し支那事變處理が著しく容易になるものと思考し、或は徒らに戰爭景氣を謳歌して一攫千金を夢み、歐洲大戰を以て天祐視する者あるは大いに戒心を要する

□　□

歐米の情勢は決して斯の如き樂觀を許さるべきものでなく、殊に米國の東亞に對する態度が著しく積極且つ露骨になりつゝあるところを見ても吾人は益す軍備の充實、生産力の擴充等に力を注ぎ綜合國力の發揮に邁進すべきである、之がためにも日本と滿洲國とは益す一體の實を堅固にし精神的、物質的兩方面の結合を愈よ密接ならしむる必要を痛感する次第である

皇紀二千六百年の記念すべき年頭に際し聊か所懷を述べ日滿兩國の繁榮を祈念すると共に新東亞建設の犧牲となりし幾多英靈に對して萬腔の感謝を捧ぐるものである

大地回春

于靜遠

支那事變の意義と關東軍の役割

關東軍參謀長　飯村穰

支那事變はその本質に於て東亞の更生運動であり崇高なる新世界の建設運動である、新秩序の建設と謂ひ東方道義の確立と謂ひ畢竟東亞に於ける（×××××共同運命）の自覺であり更に之を俯瞰すれば覇道的舊秩序より道義的新秩序への警鐘である、而してその精神は乃ち畏くも神武天皇肇國の大詔に垂示し給へる八紘一宇の御聖旨に淵源し、同胞一億克く全力を擧げて事變處理に邁進し、依つて以てこの聖旨に副ひ奉らんとする已むに已まれぬ國民報恩運動の顯はれである、由來帝國臣民は父祖承繼して連綿三千六百年歷聖の鴻恩に浴し奉つて今日に及び緩急孰れの秋か一身を君國に捧げて毫も悔ゆるを聞かないのである、斯の如く億兆同心進みて殉國に赴く精神の大結合こそ正に東亞復興の核心的動力であらねばならない

皇師百萬支那に進み茲に四歲、今や事變は建設的段階に入り着々その目標に向つて實績をあげつゝあるは洵に同慶の極みである、抑々今次の事變が蔣政權の容共抗日並びに遠交近攻の政策に起因したことは今更說明の要もない、その結果は排日侮日の言動となり惡企邪謀の橫行となつて遂に東亞たるの本質を失ひ憂患交交到る情勢を招致するに至つたのである、偶々昭和十二年七月七日の蘆溝橋事件は斯る情勢下に醞釀せられたる必然の勢であつて彼蔣介石政權が我方の好意ある局地解決不擴大方針を背ぜず（×××××自ら事を）好みて泥沼に足を入るゝの暴擧を敢てしたのもこれ亦自然の數である、斯く深く禍根より發芽せる事變なればこそ遂に我をして拔本塞源的措置を執るの已むを得ざるに至らしめたのである

惟ふに彼我文化の交流は上古に屬し和親相睦びて同文同種の間に起居し東亞獨自の文化を共立し宛然一大集合國家の觀を呈し來り、その發展的過程に於て齊しく文化の恩惠に均霑し寧ろ西歐に先んずる嚴然たる文化を誇示し來つたこの間日本は神國として東亞の中心に位し能く東亞の安定勢力として東洋諸國を誘掖し來つたのである、然るに自ら好んでこの安定勢力を排し東亞の一大集成國家を破壞し去らんとするものあるに於ては日本は之を對岸の火災視しては居られないのである今にして剴切的確なる方途を講ずるに非ざれば東洋永劫の和平を失ふに至るは瞭然である、求むる所は正に東亞の更生である

今次事變は東亞の安泰を祈る大犧牲戰であり類例なき道義戰である、從つてその結構の壯大なるは未だ見ざるところであると共に前途遼遠なるも亦當然である今後聖業の翼贊遂行に幾多の困難が重疊起伏するを想ふ時國民は更に聖戰の意義を再思三考し國家の浮沈に一身に荷うて立つの覺悟が肝要である

翻つて現下における新興滿洲國の諸情勢を通觀すれば既に建國八周年を迎へて諸般の體制漸く整ひ日滿不可分關係は益す緊密の度を加へ國際的地位を昂揚確立して先驅的國家の本領を發揮しつゝあるが、滿洲國民は特に滿洲國が東亞新秩序の極めて重要なる一關節であり之が一擧手一投足は直ちに新興支那の發展に反映する所以をよく諒解し大國民の襟度を持して（×××××率先垂範）の實を示さなければならない、即ち滿洲國は世界防共陣營の一翼として世界新文化の建設に貢獻し民族協和の大理想を顯現して國利民福を圖り日滿支互助連環を基調として物心有無相通じ渾然一體となりて新秩序建設に協力し悠遠無窮なる皇謨を翼贊し奉らねばならぬのである

關東軍に於ては夙に大陸經營の先驅となり、過般滿洲事變の發生を見るや疾風迅雷常に果敢なる作戰行動に依り一擧に宿痾を根絕し滿洲建國の素地を固め爾來日滿共同防衛の本義に則り常に克く皇軍の威武を發揮して日滿兩國民の負託に應へ關東軍賴むべしの感を與ふるに至つた、偶々昨年勃發したるノモンハン事件に於ては僻陬の地にソ蒙軍を邀へて勇戰奮闘し本來の使命を達し得たるはこれ素より御稜威の然らしむる所なるも銃後國民不斷の支援に依るものと衷心感激に堪へざるところである

わが關東軍は帝國政府の根本方針に則り益す軍隊本然の訓練に精進して實力を涵養し事變處理に關し中央をして北方に顧慮することなく一路國策の遂行に邁進せしめんとするの決意を有するものである

從つて我を犯し神聖なる新秩序の建設を妨ぐるもののあるに於ては斷乎として之を覆滅芟除するの用意がある、斯る意味において支那聖戰に對する關東軍の役割は頗る重大にして更に銃後國民の支援を要望するや切である

（×××××茲に光輝）ある新春を迎ふるに當り聖壽の萬歲を祈り奉ると共に併せて大陸の建設に連なる皇軍將士の武運長久を祈り新興東亞實現の一日も速かならんことを庶幾して已まないのである

總力を動員　長期戰邁進

關東局總長　大津敏夫

茲に昭和十五年の新春を迎へ謹みて敬しく聖壽の萬歲を壽ぎ奉り國運の（×××××隆昌天地）と共に窮りなからんことを祈念し次に聖戰の完遂に身命を捧げ、寒風膚を劈く國境の守り嚴として寸毫の覬覦を容さざる皇軍將士の武運長久を心から祈る次第であります、皇紀二千六百年萬古不易の國礎愈々固く皇威中外に光被して同胞一億齊しく聖代を仰いで感激に堪へざる所であります

皇祖神武天皇橿原の宮に寶祚を踐み給ひてより正に二千六百年歷世の御仁慈御英圖國威世界に輝き盡忠報國、國民精神は愈よ揚せられて今日東亞安定の中心勢力たる地步を確立するに至る往古建國の大業を偲び奉り新春感銘更に深きを覺ゆる次第であります

現下聖戰茲に第四年長期建設の巨步を進むるとき昨夏歐洲第二次戰爭勃發して其の歸趨逆睹し難く國際情勢の變轉端倪すべからざるものある際茲に千載一遇紀念すべき年を迎へて國民は東西永遠の安定確保の爲め更に總力を動員して邁進する覺悟を新にしなければならぬのであります

東亞新秩序の建設は皇軍の（×××××勇戰奮闘）に依り支那重要都市は總て我が手に歸し物資豐饒なる版圖は大半我が領有下に在り北支中支、蒙疆各政權漸次其の體制を整備し治安の回復、産業の復興、交通機關の復舊等見るべきものあり、之に反して蔣政權は今や一地方政權に墮し西南支那の一隅に纔かに餘喘を保つに過ぎず中央新政權樹立の氣運頓に熟して事變は茲に新しき段階に入りたるを認むるのであります

然しながら第三國の援助に依存する蔣政權は頑迷今尚は抗戰を呼號し列國の在支權益は錯綜して國際情勢の變化に伴ひ一進一退あるも新秩序の建設を阻止せんとするもの比々皆然る有樣であります、我國は現下の國際情勢に處して歐洲戰爭に介入せず專ら事變處理に邁進する根本方針は曩に內外に闡明せられたる所でありますが吾人大陸の前線に在る者は國策の線に沿ひ邁進する一途あるのみであります

顧みて惟ふに關東州は帝國の大陸發展の據點であります、帝國の統治下に在ること三十年政治、文化、經濟、交通等各方面に成果を收め一方密接不可分の關係に在る滿洲國に對しては建國以來諸般の施策に協力して其の發達に寄與し來つたのでありますが（×××××時局下に）在ては總動員體勢を整備して銃後の守りを固くし延いては東亞新秩序建設の重要據點たらしめんことを期して居るのであります

茲に寔に紀念すべき新年を迎へ官民一途奉祝の赤誠を致す爲機宜に適したる諸企畫を樹つると共に州民百二十五萬時局下大陸建設に於ける關東州の使命達成に邁進せん事を期する次第であります、所懷の一端を敍して年頭の祝詞と致します

辰年に描く國都新春譜

黎明告げる大太鼓　初詣で賑ふ社頭　二千六百年を謳ふ

悠久二千六百年、世界に比ぶるなき神の國日本の迎春譜は神社から奏でられて行く、亞細亞自立の建設に大陸の山野を幾多同胞の尊い血に贖つた聖戰四年の春、而して平和の黎明を告げる躍進と希望に滿ちた新春は先づ元旦零時を期して聖地橿原の宮から打出した太鼓の音に明けた、曠古の盛典に輝く皇紀二千六百年の輝く新春をリズムに表象する一回を十年として二千六百に數へ二百六十回打ち鳴らす音はマイクに乘つて寒月凍る大陸の野にも鳴り渡つた、皇祖奠都の橿原に往古さながらの力強き響きは寢もやらず春を待つた人々に言ひ知れぬ感激と躍動を覺え和やかな春の息吹きを感じさせるのであつた、國都の巷は寂として新春の陽光にまだ覺めないでゐるが、篝火に映ゆる清淨な新京神社の神域は早くもどつと押し出した初詣の人々に賑ひ國都の新春譜を繰り展げた神社に於ける祭儀は三十一日午後三時から一ヶ年の罪穢を潔齋する大祓式が執り行はれ、次で同六時から除夜祭を擧行して目出度く掉尾の祭儀を終了した、この間神前にぬかづく赤子の群は絶え間なく續いたが、黎明を呼ぶ神篝が神苑の殘雪に映えて夜深まると共に初詣でのトップを目指す人々は神社の附近一帶に溢れて待機、元旦零時を期して雪だれの如くどつと參道に殺到し、續いて引きも切らず參詣者に賑ひつゝ燦爛たる陽光に明けた午前七時から迎春を壽ぐ元旦祭の儀が嚴肅に執り行はれ國運隆昌、皇軍の武運長久、一家安泰を祈願、國を擧げて待ちわびた戰捷四年の新玉は一億銃後國民の轟く萬歳裡にいと麗朗と明け放れた【寫眞は橿原神宮で打つ大太鼓】

主なる新年式典

輝く皇紀二千六百年の一入意義深き元旦を迎へこの國都の官廳各學校ではそれぞれ諸儀式が行はれるが重なるものは次の如く行はれる

▽新京神社の元旦祭は午前七時より
▽協和會首都本部主催市民式典は午前八時五十分より忠靈塔に於て
▽領事館の御眞影拜賀式は午前十時三十分から十一時半まで構內參事官々邸に於て

强盗現はる　とは僞の屆出

三十日午後十一時半頃四道街署南關派出所に飛び込んで來た順天公園雜役夫孫宗昇（二七）が「友人王成珍が通化路で三人組辻强盗に會つて現金三十圓を强奪されたうえ顏面を毆打され血まみれになつて歸つて來た」と申し立てたので、この旨本署に連絡非常手配を行ふ一方被害者順天公園雜役夫王成珍（四〇）の取調べを行つた所、同夜酒に醉つて十時頃通化路附近で滿人三名と酒の上から口論を始め顏面を强打され一時路上に昏倒、十一時頃自宅に歸りついたが、顏面血だらけなのを見た屆け人孫が辻强盗と早合點ある事無い事取り混ぜて虚僞の申告をした事が判明、同係官も折角はりつめた氣もゆるんで口あんぐりの態であつた

辰歳生れの姐さん

麗朗二千六百年の春「辰歳」は訪れた、この年はわが世の春とずらりと並んだは大新京檢番の辰年生れ姐さん達、何れも廿五歳油の乘り切つたところ、今年の運勢如何にと「三碧木星」を調べると「今年は忍耐年なり、牡丹の多籠りするもまた花咲く季節を待たんが爲なり、忍は一生の寶物、唯忍の一字を胸にして、誠實に家業を守られよ」とある、これに從ふと正に彼女達今年はお座敷大事にと勵む年である、さあ、春の裾捌きも輕く彼女達の進軍である【寫眞は右上から桃香（彌生）豐榮（豐醉）千成（千鳥）泰代（泰東）左上から清香（彌生）梅香（彌生）小政（天昇）】

神戸と新京で　同時刻電波結婚

大陸の花嫁一挿話

新春朗らかなニュースをお送りしませう＝これは寫眞結婚でもまだるつこいといふ超尖端的な電波結婚だ、花婿さんは滿洲生命社員、日本橋通り協和アパート十七號坂本新次郎君（三一）花嫁さんは東京農大助手石橋一郎氏令孃香澄さん（二九）で菊薫る昨秋十一月十六日、新京、神戸と海を隔てても愛情に變りはないと新郎が文金高島田初々しい香澄さんの寫眞を抱いて新京神社社前に進めば、時をたがへず新婦もまた見ぬ夫の寫眞を胸にこれも一生の晴れを飾つて神戸生田神社に參進、道は六百八十里の隔てをものともせず變らぬ愛の誓ひを電波に交驩し合つて互ひに嚴肅な神前結婚を行つたのであつた、まるで夢物語のやうだがお伽話ではなく粹にさばけた花婿の叔父さん東京市神田區和泉町元大朝文書課長大野德三氏から新次郎君宛に「一六ヒ一一ジシンケウジンジヤニサンパイセヨ」と電報して坂本さんを新京神社に急がせ、花嫁御も同樣生田神社で擧式の後直ちに大陸に急行して夫の懷に「アラ初めまして」と跳び込み今や前記アパートで鴛鴦もたゞならぬ新家庭を營んでゐるが、狹い乍らも樂しい三疊間を訪へば熱い新婚生活を語るのであつた

話は去る康德五年七月ごろからあつたのですが妻の郷里が秋田なので東京で話を進めたものです、勿論最初から別々に式を擧げやうなんて意識的な計畫は更になく叔父が一晩寢ずに考案した私達への好意がとんだ尖端的な始末となつたのです、電波による結婚も眞面目に面白いと思ひ、誰か介添人を頼んで新京神社に行けば好いと腹を決め何月何日新京神社にお詣りせよの命令に從つたわけです、全く叔父さんの思ひ付きで私たち夫婦がそんなにおハネといふわけではありません、御覽の通り平凡な二人です、ですから氣もちが眞面目だつたためか形式こそ突飛でしたがおかげで今は滿足し合つてゐます

ところで花嫁さんの御感想は……と傍の香澄さんにつめよるとこれはまた「何事も夫まかせです」と單身新京に乘込んだ勇敢さにも似ぬしとやかな答へであつた【寫眞は語る新夫婦】

官民新年互禮會　午後零時半白菊校で

彌榮え友邦大日本の皇紀二千六百年を迎へ東亞永遠の和平建設に邁進する大滿洲國の新春を壽ぐ恒例の國都に於ける官民合同新年互禮會は、首都協和會主催のもとに元旦午後零時半から白菊小學校講堂に於て盛大に行はれる、この日梅津關東軍司令官、張國務總理を始め日滿顯官名士約二千名が參集し、先づ式場正面に掲げられた日滿兩國旗に最敬禮、滿洲國軍樂隊の吹奏裡に日滿兩國歌を高らかに齊唱し次で于協和會本部長（滿語）松木同首都本部事務長（日語）の祝詞があつた後張總理の發聲で大日本帝國萬歳、梅津關東軍司令官の發聲で大滿洲帝國萬歳を三唱新年お芽出たうの交換に同一時頃意義ある新年互禮會が行はれる筈である

弘報關係の一員として（上）

關東軍報道班長　長谷川少佐

今日滿一億三千萬の兩國民が、現前の嚴乎たる事變として日本建國二千六百年目の元旦を迎へてゐる、特に盟邦滿洲國の首都に此の春を迎へつゝある我等は、唯例年のやうな御目出度うを繰りかへすには餘りに嚴肅な氣に打たれざるを得ない、況んやソ滿國境に或は北中南支の第一線に、銃を捧げて東天の旭日を拜んだ將兵は、何度か涙して二千六百年といふ言葉を繰りかへしたことであらう。勿體ない極みであるが。餘りに廣大な爲にその中に沒入し盡してゐる我等は、斯く年改まる秋に皇恩を泌々と感じ奉るのである。

從つて我々日滿人は、この元旦に當つて道義的にどうだといふことを一々意識せずして、此の皇紀二千六百年の意味を、又有難さを身體全體を以て感じ得るのであるが、日本の皇道、滿洲の王道は唯我れ一人樂しむ、我れ一人知るといふことを以て足れりとするものではない、之等の宣布こそ皇道の又王道の眞諦でなければなるまい「解らぬ奴は打ちやつて置け、事實は何より雄辯なる宣布だ、默つておいても今に解る時が來る」斯ういふ態度は一應理屈のやうであり、特にそのいつそう加減に茫漠とした所が如何にも東洋的らしく見えて人はともすると賛成しがちであるが、これは決して日本又は滿洲建國の精神ではなく、この理想をこちらから進んで宣布し、これを光被せしめる、こゝに日本の又滿洲の建國精神があつた筈である

□　□

故にこの歴史的な二千六百年を迎へるに方り、我々日滿人はこれを機會として日滿兩國の建國精神の宣布王道樂土の眞相宣傳に勇敢に出發すべきである、然し之には十分の準備を要する凡そ宣布といひ、宣傳といひ、これは他の人をして信ぜしめねばならぬものであるから、之には我々自身が極めて透徹せる理解、特に確乎たる信念を把持して始めて出來る相談である今まで日滿不可分といひ、一德一心と云ひ乍ら、ともすると小さな世界に立籠つて、私的の對立又は背離觀念を包藏してゐることはなかつたか

國策の名に便乘して、實は左右撞着、相排擠するつたか、又眞に統制の醍醐味に味到せずして、或は之が味到に努めずして唯他に形式的なる統制を强ひ、又は統制下といふ名に隱れて安易な道をのみ選ばなかつたか、斯ることを今茲でいふのは決して他人を責めたいからではない、我が身自身を顧みて忸怩たるものがあるからである。

□　□

仕事をする本人に微塵の私心があり、又は純乎たる信念のない時に、どうしてその宣布、その宣傳に生彩があるであらうか、斯る信念のない仕事の宣傳を承る宣傳機關こそはいゝ面の皮である、併し勿論如何に仕事をする側に信念があつても、その宣傳に携はる者にして信念がなかつたならばこれ又何の效果もあがるまい、先づ宣傳關係者をして信ぜしめずして相手だけを信ぜしめるといふやうなことは、お伽話でもない限り到底出來ぬことであるに拘らず、實際には斯うしたお伽話が隨所に要求されるのである

皇紀二千六百年を迎へ、之を一畫期として更に一大飛躍を豫約されてゐる日滿兩國に於て宣傳弘報を以て報國せんとする我等として先づ痛感するのは、此の實行者並に之が宣傳に任ずる者の信念の問題であり、之には兩方の側とも充分な反省と又條理な勉强を要するといふ點である。

□　□

次に二千六百年の元旦を迎へて今更ながら感ずることは、日本の凡有る部面に於ける太く逞しい一貫性である、表面的に見ると風土國民性等何處といつて一貫性などありさうに見えない日本が、よくもこんなに强く生き抜いて來たものと思ふのであるが、併し何といつても事實はかくも美事に發展し來り、又益す彌榮に發展しつゝあるのである。

何といふ賴もしき一貫性であらう、從つて我々は決して歐洲に散在する所謂獨裁國家の形態など、見向きもしたくないのであるが、唯宣傳關係の一員として羨しく思ふのはこれ等の國々における宣傳の太く押してやり抜く圖式的な一貫性である、組織的な宣傳の巧妙さ、緻密さ、或は又或る程度の一貫性は所謂自由主義的な國家群にも存在する併し彼等にはあの圖太い一貫性、特にその準備ならびに實施を思ふ時機に思ふ內容を思ふ手段でズバリとやつて退ける圖太さが少い。

外國のことは知らないが日滿に於けるこの一貫性缺如の主要なる一因は、宣傳とその母體たる仕事との關係を二元的に考へることにあるのではないかと思ふ、恰も宣傳は實際に行はんとする仕事から遊離した附隨的な勞作のやうに考へられ勝であつた、しかし宣傳は實は仕事の一部、否仕事そのものであり、仕事の實施はその儘仕事自身の宣傳である、それは恰も近代の戰爭觀としての國家總力戰が案外歪められて理解せれてゐるに等しい。

新京驛に巣食ふ　チンピラ掏摸

歳末警戒で捕まる

新京鐵道警護隊が鐵桶を誇る歳末特別警戒網に見事引ッ掛つた滿人少年八人組掏摸團＝三十日午後七時二十分頃新京待合驛室を密行警戒中の隊員は三號出札口で掏摸を働かんとしてゐる滿人二少年を發見尾行中、それとは知らず邦人婦人の外套右ポケットへ右手を差し入れた瞬間現行犯で引ッ捕へた、右は遼陽縣城內三道街生れ鐵北軍用路新立街七三號張貴榮（一五）瀋陽縣第八區小東城外三家子生れ同白忠信（一二）で、取調べに八人組掏摸團を組織して二日置に驛へ現れてはそれぞれ天才的手腕を振つてゐたこと自白したので、一味を捕へるべく新立街の家を襲つたところ遼陽縣城內二道街楊泰石（一六）遼陽縣北大營張景林（二〇）の兩名を檢擧したが、他は逸早く風を喰つて逃亡目下追跡しつゝあるが、彼等が自供するところによれば、今春頃奉天驛を根城に白忠信を頭目、楊を參謀格に逃亡した趙博頭（一六）朱古忠（二〇）李仁龍（二〇）王志禹（一一）＝何れも遼陽縣生れ＝ら八人で掏摸團を結成十二月末までにバス、郵政局、金泰、寶山、興銀、石炭小賣所等で雜沓を奇貨に前後二十六回約二千二、三百圓を稼いで分配、その金で城內新天地、歡樂地で遊興してゐたもので、十二歳の頭目白は係官に對し「僕は奉天市北市場署長の息子だ、早く釋放した方がいゝだらう」などと云ひ、その大膽不敵さに舌を捲いてゐるが、彼等は掏取つた財布の中革製のものは驛出入の靴直し瀋陽縣生れ曹老八（三二）に情を打明けて修繕用に一個五錢で拂下げてゐたこと判明、直ちに檢擧し贓物故買で嚴重取調べてゐる

留置場の越年

三十日午後八時頃富士町カフエー大新京へ入つた一人客が、同十一時卅分迄にビール二本、銚子二本、突き出し四個を飲み食ひしていざ勘定となるや「五錢しきや持つてゐないんだ、あとはマケトケ」とふら／＼逃走せんとするのを引ッ捕へて日本橋通派出所へ突き出した、右は日乃出町三ノ二同和クラブ深水增夫（二五）と云ひ係官が穩便に取圖らうと說諭したところ、逆上せて大憤慨のあまり暴れ喰つてかゝるので「留めるぞ」と威すと深水は「官費ぢやないか、喜んで入つてやる」とて遂に留置場へ納り鐵窓越年組の仲間入をした

空の初乘り客　何れも超滿員

大陸への貨客ラッシュは空陸海三者頭を絞つての對策も一向奏效せず遂に年頭に持ち越されたが、元旦新京驛發各列車は前年からのお客で超滿員いかにも興亞新春にふさはしい情景であつた列車が滿腹で走れば空の旅客も十二分以上の膨れ方午前七時に新京飛行場を飛び立つたAT型、ユンカー八六型は東京行三、福岡七京城一と初乘りの旅客を一杯詰め込んで一路內地へ、その他午前八時二十五分の牡丹江、午前九時のチチハル線、午後一時の佳木斯線これまた超滿員といかにも景氣のよい新春スタートであつた

朝鮮課長異動

在新京日本大使館朝鮮課長松島清氏は本月廿八日付をもつて京城地方專賣局長に轉任發令された、赴任の日取りは未定である、なほ後任には張家口朝鮮總督府出張所長森長文氏が決定した

七分搗

市公署槇田財務處長、皇紀二千六百年の新春を迎へてすこぶる有意義なる事業？が近く完成せられる▼そこで舟田庶務科長、今まで獨身者對妻帶者それからお顏の色が御兩人共少々違ふ事柄から舊年は兎角論爭の種となつてゐたが▼康德七年を迎へ、槇田さん本年は有意義なる事業にて獨身時代おさらばを告げるので、さて舟田さん、槇田さんを攻擊する急所が無くなると云ふ事で新春早々御兩人の論爭は如何なる方面より材料を捻出すかと市公署內の雀共の噂話となつてゐる

天氣と氣温

けふの天氣　北西の風稍強く晴一時曇
きのふの氣温　最高零下二度　最低零下十三度（午後二時まで）

賀正
皇紀二千六百年
賀正
滿洲国三業組合聯合會
新京三笠町三丁目十番地
御食事の店
扇芳亭直營
扇芳亭グリル
新京ダイヤ街
電話（3）五二九〇番
食道樂
青柳
祝町三丁目
電話（3）三〇六〇番
喫茶と御食事
白十字
祝町三丁目二
電話（3）六二三八番
天婦羅
國天
新京祝町三丁目一
電話（3）四三九五番
新京飲食店組合
割烹・おでん
雛菊
新京銀座新道
バー
豐樂
新京豐樂路
電話（2）一六三一番
割烹すし
あづますし
三笠町三丁目四
電話③二八一〇番
五七七五番
喫茶、食事
紫煙荘
大場露子
新京大經路
電話②六八二四番
喫茶と酒場
トイツペイト
割烹
邯鄲
新京豐樂路六一二
電話②二八八七番
生ビールのスタンド
ニユーシンキヨウ
新京東一條通（消防署横）
電話③六三六三番
サロン
春
新京ダイヤ街
電話②二六九四番
喫茶と菓子
アウヱチシヤン
日本橋通り二三
電話（3）四七八七番
バー
アロマ
新京豐樂路四一〇
電話（2）二四七二番
ダイヤ街
三好野
電話（3）三四三四番
四八八四番
割烹
活洲
祝町二丁目一四
電話（3）三一五六番
〔二〕二食堂
新京東二條通七〇
電話（3）六一四四番
合名會社
亞細亞タクシー
新京永樂町四丁目五
電話（3）二五五五番
二五二四番
和洋食、喫茶
青葉グリル
新京大同大街（大興ビル）
電話（2）四六二五番
割烹すし
京花
新京ダイヤ街
電話③五八〇七番
菜めし
おでん
ばか盛
銀座新道（消防署裏東入）
うな新
新京祝町三丁目
電話③三三四五番
鍋の店
魚力
新京祝町三丁目
電話③六八〇五番
新京旅館組合

新京日日新聞

短歌 年立つ 其二

石榑千亦

新らしく大き亞細亞も生れいでむかゞやきにみちて年たちかへる

美しく又美しく春は來ぬ翁を一人こゝにのこして

天の下武裝をときてなごやかに賀詞いひかはす春來れとく

戰雲はいまだも深し年とともにとく吹きおこれ伊勢の神風

大年の神にのむらくこの年はわかきおのこの血をまもりたまへ

王道の光陽春の氣象
國土に燦として輝く
東亞和平確立へ進む新春
仰ぐ宏大無邊の御聖德

畏し皇帝陛下の御精勵

康德七年元旦 宮內府大臣熙洽謹話

一陽來復條風改序康德ノ紀元モ最早六星霜ヲ見送ルコトトナリマシタ、此ノ新舊更正國ヲ擧ゲテ慶祝スル秋ニ當リマシテ過去一ケ年ヲ回顧シテ見マスルニ、時局ハ洵ニ艱難風雲幾度乎緊迫ヲ告ゲマシタコトハ我國建國以來稀ニ見ル所デアリマシテ、且又東亞並ニ西歐ノ天地ニトリマシテモ亦甚ダ重大ナル時期デアリマシタ

然ルニ我國民ハ終始其ノ居ニ安ンジ其ノ業ニ勉ムルヲ得マシテ、玆ニ康德七年ノ新生ヲ壽ギ迎ヘルコトヲ得マシタコトハ古語ニ「多難ハ邦ヲ興スノ所以、殷憂ハ聖ヲ啓クノ所以ナリ」ト申ス如ク我國民ノ均シク其ノ由ツテ來ル所以ニ思ヒヲ致サネバナリマセン

小職ハ宮府ニアリマシテ畏クモ側近ニ奉仕シ、我ガ皇帝陛下ガ如何ニ深ク國民ヲ愛シ給ヒ、日夜精勵恪勤遊サル御模樣ヲ仰ギ奉ツテ恐懼感激、其ノ宏大ナル聖德ハ記述申上グルダニ畏多キ極ミデアリマスガ、玆ニ新年ニアタリマシテ謹ンデ窺ヒ知レマシタ數事ヲ謹述シ、國民一同ニ御傳ヘ致度、勿論御聖德ノ萬一モ宣揚出來マセンコトハ申ス迄モアリマセン

陛下ニハ御日常洵ニ御規律正シクアラレマシテ、毎日午前中ハ勤民樓ニ出御遊サレ、親シク上奏諸政務ノ御裁見並ニ臣僚ヲ御召見遊サレ、時ニハ午後一、二時ニ及ンデ始メテ內殿ニ御還宮遊サルルコトモアリ、又定刻ヲ過ギマシタ時ニアリマシテモ、苟クモ政務ノ上奏ヲ申出デル場合ニアリマシテハ直チニ內殿ニ召サレテ聞召サル等、日夜萬機ヲ親裁シ御精勵一方ナラザル御有樣ハ唯々恐懼ノ極ミデアリマス、二月ニハ勤民樓ノ東ニ內殿ガ竣功致シマシタガ、日滿一德一心ノ御精神ニ基キ畏クモ同德殿ノ名ヲ賜ヒ、越エテ十日ニハ關東軍司令官以下各參謀並ニ國務總理大臣以下ノ特任官ニ對シマシテ特ニ新殿デ宴ヲ賜ヒ且ツ拜觀ヲ差聽サレマシタガ、建物ノ構造モ設備モ簡素質樸デ堅實本位ニ出來テ居リ、御日常ノ御儉素ナ程モ窺レマシテ一同恐惶感激シタ次第デアリマス

四月二十一日ノ植樹節ニ際シマシテ總務長官星野直樹產業部大臣呂榮寰等ガ樹木ヲ進獻シテ同德殿前苑ニ植樹致シマシタ時ニモ 陛下ニハ親シク一株ヲ御手植遊サレ、萬民ニ範ヲ垂レ遊サレマシタ、五月「ノモンハン」事件ガ勃發シテ國境ノ風雲日ニ緊迫ヲ告ゲマシタガ 陛下ニハ殊ノ外前線日滿將士ノ勞苦ニ御軫念ヲ垂レ給ヒ、特ニ侍從武官ヲ現地ニ御差遣相成御慰問遊サルルト共ニ御菓子料烟草等ヲ御下賜ニナリ、又各地ノ日滿軍病院ニモソレゾレ武官ヲ差遣遊サレ、親シク御見舞ノ趣キヲ傳ヘサセラレマシタ、幸ヒ九月中旬ニ至リソ聯政府トノ間ニ停戰協定ガ成立シ、國境ヲ蔽ツタ風雲モ無事ニ息リ事件モ一段落ヲ見タノデアリマスガ、適々歐洲方面ニ於テ獨波ノ紛糾激化シ遂ニ全歐ニ再ビ大動亂ノ勃發ヲ見ルコトトナリマシタ

陛下ニ於カセラレテハ國事多端ノ折柄歐西ノ戰禍ノ變遷ニモ深ク御心ヲ止メサセラレ、寢食ノ間ト雖モ御軫慮ヲ釋カセラレザル御有樣ハ拜スルダニ恐懼ノ極ミデアリマス

嘗テ國境多事ノ折 陛下ニハ東滿各省ノ重要性ト最近ニ於ケル諸般ノ施政實狀並ニ南滿地方ノ資源開發港灣建設ノ狀況等ニ御心ヲ掛ケサセラレ、親シク御視察ノ爲 御巡狩ヲ仰セ出サレマシタ

八月二十一日新京御發哈爾濱ヲ經テ三江、牡丹江、間島三省水陸一千八百粁ヲ御巡狩遊サレ同月二十九日御回鑾ニ相成、次イデ九月二十日ニハ錦州省地方ヘ五日間ニ亘リ往復八百餘粁ヲ御巡狩遊サレマシタ、御巡狩ノ先々ニ於キマシテハ各省長ノ政務奏上、各軍管區司令官ノ軍狀奏上、各市長縣長ノ都邑計畫ノ御説明ヲ始メ日本軍部隊長ヨリ各地戰史ノ御進講ヲ聞召サレ、一一熱心ニ御傾聽遊サレマシタ、コノ外輸榮ノ開拓農村、錦州ノ農事試驗場、吐呼魯ノ石油試掘、阜新ノ炭礦探掘、葫蘆島ノ港灣建設等何レモ我國重要ナル事業ニ對シマシテ親シク御巡覽遊サレ、當局者ノ説明ニ對シマシテ洵ニ詳シク種々ナル御下問アリマシテ御考究遊サレタ次第デアリマシタ、且ツ各地方ノ高齡者、孝子節婦ヤ各學校生徒ヲ始メ協和會、青少年團義勇奉公隊ノ奉迎並ニ御閲アリ、其ノ赤誠ヲ納レテ御滿足ノ趣キヲ拜シマシタコトハ畏キ極ミデアリマス、斯樣ニ酷暑滋雨ノ季節モ煩ハセラレズ畏クモ御身心ヲ勞苦遊サレマシタガ、御健康益々御安泰ニ亘ラセラレ各地ノ國民均シク日ノ當リ御姿ヲ拜シテ其ノ榮光ニ感淚禁ゼザルモノガアリマシタ

陛下ハ御平素カラ御手許萬端儉素ニ亘ラセラレマスガ非常時態ニ入リテヨリ一層冗費ヲ節シテ民力涵養ニ心ヲ用ヒサセ給ヒ、六年冬季政府機關ガ採煖期間ヲ十月二十六日ヨリト決定シテ其ノ短縮ヲ圖ルコトヲ聞召サルヤ、宮廷モ之ニ準ジテ率先シテ節約ノ範ヲ垂レ給ヒマシタ

之ヨリサキ九月三十日ニハ協和會中央本部ニ於イテ全國聯合協議會開催セラレマシタガ 陛下ニハ會場ニ御臨遊サレ畏クモ勅語ヲ賜ヒ、勗ムルニ惟信惟義體國公忠ノ要道ヲ以テセラレ、諄々乎トシテ訓誡セラレマシタ聖慮ノ深キニ唯々感激致シテ居リマス、十月ニハ西班牙特命全權公使ガ來京致シマシテ三十一日宮廷ニ於テ國書ノ捧呈式ヲ嚴カニ執行ハセラレ、公使ノ頌詞ニ對シテ懇篤ナル勅語ヲ賜リマシタガ斯クテ我國ト西班牙兩國ノ友誼ハ益々親睦ニナリマシタ

殊ニ日本皇室ト我帝室トノ御親交ハ申上グルダニ畏レ多キ極ミデアリマシテ、事アル毎ニ御親電ノ往復ガアリマスル等日滿一德一心ノ御精神益々濃カニ渡ラセラルル御有樣ハ拜スルダニ恐惶恐懼ノ極ミデアリマス

顧ミマスレバ康德六年ハ內外共ニ多事多端ナ一箇年デアリマシテ 陛下ノ御叡慮ヲ惱シ奉ルコト洵ニ尠カラザルモノガアリマシタ、玆ニ萬物更新ノ新年ヲ迎フルニ當リ仰ゲバ聖德ノ宏大無邊、王道ノ光陽春ノ氣象ハ我國土ニ燦爛トシテ輝キ渡ツテ居リマス

然リト雖モ時局ハ猶寸刻ノ懈怠安逸ヲ容サズ、盟邦日本ハ上下ヲ擧ゲテ東亞新秩序ノ建設ト永久和平ノ確立ニ邁進シテ居ル秋デアリマス、我等國民益々和衷協戮克ク非常ノ時態ヲ認識シ相誡メ相告ゲテ艱難ニ對處シ國步ノ進展ニ力ヲ致シ以テ陛下ノ御聖慮ニ副ヒ奉ランコトヲ期スベキデアリマス

使命を遂行して東亞興隆に邁進
張國務總理大臣談

萬象更新し玆に康德七年、建國第九年の新春を迎へ瑞光東亞の天地にあまねきを見る

畏くも上皇帝陛下には聖康彌勝れ乾德益々高く夙夜國政の綜攬に御精勵あらせられ、帝業日に進み國礎愈々鞏し、光輝ある此の年頭、謹みて四千萬**蒼生と**共に帝恩の鴻大を謝し帝壽の萬歲と國運の隆昌とを祝禱し併せて遙に東の方、悠久二千六百歲の盛典を迎へたる一德一心の盟邦日本皇室の彌榮を衷心より壽ぎ奉る、顧みるに西歐諸國は第二次戰亂の渦中にあり、民衆は塗炭の苦に呻吟し國際情勢の歸趨海に逆睹を許さず、一方東亞の時局亦彌重大となり盟邦日本の聖業進む時我滿洲國に課せられたる責務は益々重且大を加ふ、日本は玆に事變第四年を迎へて過去の戰史に比類なき戰果を集約し國家總力を擧げて不退轉の大建設に從ひ、今や砲煙立ち罩めし戰場に朗色漲ぎり、更生支那の機運隨所に動き又新支那中央政權の胎動を感得せしむるに至る、此の東亞の一大轉換期に直面して吾人の眞の使命は建國理想を愈々高く掲げ東亞新秩序建設の據點としての命を遂行し以て東亞興隆の礎石たるに在り、此の使命を達成せんが爲には我國官民は愈々建國精神を旺盛にし、各般の**建設を**遂行せんが爲め堅忍持久各自の本分を遂行するの決意を新にせざるべからず、天運玆に展開して大機賑々動き新陽希望を齎して東亞の天地を訪れたり、瑞光を仰ぎ協心一體、勇 艱難の念新なるを覺ゆ、玆に聊か所感を述べて年頭の辭とす

完成期の第一步へ
總務長官 星野直樹

有史以來の一大轉換期に況し旦を迎ふるに當つて我々は之を壽ぐと共にその意義を語り新しき年に對する覺悟と備へとを固うしなければならぬ、支那事變は既に**收束期**に入り新しき支那の誕生は近く、東亞の歷史は玆に急角度の轉回を示さんとしてゐる東亞國民族は西方勢力の壓迫より解放せられ萬象の晩に逢へるが如く本來の生命力を以て生成發展せんとしてゐる、皇紀二千六百年を迎へた大日本帝國は此の重大時局に即應し歷史轉回の指導力推進力を愈々強固にし、對內外各般の體制を整備強化し、肇國の壯業を完成し、以て光輝ある二千六百年の意義を全からしめんとしてゐる、眼を轉ずれば歐洲は混沌たる狀勢にあり、民族間國家間の鬪爭はいつ果つべしとも見えぬ、その戰爭の情況たるや恰も疫病の如く次第に永びき徐々に擴大し、歐洲諸民族を苦難の中に追ひやりつゝある、歐洲の情勢が暗黑に向つて轉落しつゝあるに反し、東亞の歷史は光明に向つて轉回しつゝある、我々は新しき年を迎へるに當り事實に直面し、西歐人の苦境に同情を禁じ得ないと共に、東亞人たるの幸福と誇りと喜びとを今更の如く感ぜざるを得ない、此の歷史の大轉換期に我滿洲國は建國第九年を迎へた我國建國は其の事實自體が歷史轉換の原動力であり東亞今日の狀勢を必然的なる**宿命と**して暗示してゐたしかしながら我國建設の急速、健實にしてその規模の雄大なりしことは、歷史の推移を一層速かならしめた

實に我が建國とその諸建設とは世界の大勢に大いなる影響を與へたのである

之と同時に四圍の情勢は又わが國建設に甚大なる影響を及ぼした、支那事件の擴大と歐洲戰爭の勃發とは建設計畫の變更を餘儀なくせしめ、殊に統制經濟の廣範圍にわたる強化は國民經濟の運營に一大變革を齎した、國民は古き滿洲の生活を脫して新しき國の經濟生活に入らなければならないのみならず、更に進んで未だ嘗て經驗せざりし統制經濟の下に生活を營まねばならなくなつた、國家の經營は人生の營みと同じく必ずしも豫定した通りには行かぬ、しかし國民の協力一致と強き意志とすぐれたる叡智とはよく周圍の環境に應じ、大いなる業をなし遂げしむる、わが國家經營の實績を顧みるに官民一體の努力、建設遂行の強固なる意志及びすぐれたる人材の叡智により環境の變化に處してこれに適應し或はこれを有利に用ひ、もつてその**成果を**あげ來つた、しかしながら新しき經濟體制を完全に運營するには尙一段の努力と工夫とを必要とする

惟ふに今日迄の建設は大いなる建設への準備であつた國家の基礎を築め、產業の施設を充實し、統制經濟運營の大綱を創定することが今日迄の仕事であつた、固うせられたる國礎の上に民生を安定せしめ充實せられた產業施設をもつて潤澤なる物資を生產し、創定せられたる統制經濟の運用を全からしめて、新しきしかもわが國情に即せる經濟倫理を國民生活の中に滲透せしむることこそ今後の事業である、これを完成した時樂土即ち道義世界は實現するのである、本年は政府、協和會官民一體となりこの事業遂行のため努力を致さなければならない、この事業の遂行は實に國家完成の第一步である、歷史の一大轉換期に立つ康德七年においてわが滿洲國はその完成期の第一步を踏み出さんとしてゐる、新春を迎ふるに當りわれわれは**國家の**輝かしき將來を祝福するとゝもに、日本を中心とする東亞建設途上における我が國の使命を自覺し四千萬國民とゝもに國力充實のために努力精進したいと思ふ

迅實

歐洲大戰と滿洲經濟

今年も戰爭の中に學ばねばならぬ

經濟部次長　松田令輔

戰爭は人に物を敎へる、戰爭は人に非凡の力を與へる、我々は今次事變に依つて如何に多くの事を學んだことか、軍人に付ては言ふ迄もなく、政治家は政治を、外交人は外交を、科學者は科學を、藝術家は藝術さへ戰爭の內に學んだ。

人類生活上の最も嚴肅にして深刻なる此の大事實の內に、何物をも學ばぬ者がありとしたら、誠に憫むべき人である、財政經濟に携はる者が其の分野に付て多くを事變に依り敎へられたこと亦當然である、現事變勃發の前と今日を比べ、經濟に關する國民の考へ方が如何に大きく變つたか、今更思うて驚くものがある、我々は此の僅か二年有半に曾て想像も及ばぬ大飛躍を思想の上にも又行動の上にも爲して居る、我々は生産と謂ふものゝ大切なこと、勞働と謂ふものゝ重要なことを感得した、我々は自給自足經濟の重大なる意義を知つた、と同時に計畫統制の必要なる所以も其の策定運用上注意すべき要點も悟つた、金に對する思想も變つた、蓄積に對する認識も深まつた、人間と謂ふものの大切なこと、資源と謂ふものゝ有難いことを今日程感じたことはない、人に限度があり土地に限度があることすら以前我々は充分に自覺しなかつたのである、併し今や國民の心眼は開いた、我々は深く自己を省みた、正しく周圍を見廻したと同時に將來に對する心構も出來た、意氣も湧いた、事變のお蔭で、我々は更に正しく强き聰明なる國民となつた。

滿洲には三千數百萬の勤勉なる國民がある、百三十萬平方粁に及ぶ廣大なる國土がある、而も地味は肥沃にして、地上地下には幾多豐富なる資源がある、此の事實に誰も無智であつた譯ではないが、日本經濟强化の上、堅固なる東亞經濟確立の上に之が持つ意義の重大さは今次事變に依つて始めて廣く正しき認識を得た、斯くて產業開發計畫と謂ふものは見直された、理解と支持とは倍加した

斯くて**開拓移民は**日滿不動の國策となつた、國民の自信と熱意とは昂揚した、鐵道建設擴充の計畫も亦同じく、此等滿洲の綜合飛躍的經濟建設に對する世の認識は今次事變を契機として著しく其の度を昂めたのである、併しながら其の意義は理解され其の必要は認められながら、事變が進展するにつれ、他面物資の需要は激增し資材の調達は窮屈になつた。

好い事許りはないものである、とは言へ、一方に於て未曾有の大事變を行ひつつ、多大の犧牲を敢へて忍び他方滿洲建設事業の爲め非常の援助を吝まざる日本官民の眞情に對しては、感激の念に堪へざるとともに日本の非凡なる力に對し、今更乍ら驚嘆を禁ぜざるものである、昨年に於ける日本の對滿投資は彼れ是れ十億に近く、對滿輸出は十四億を超え、而かも其の內容を見るに建設生産資材が半ばを占めて居る、蜿蜒全支に戰線を擴大しつゝ、これ程の力を日本は滿洲に割いてゐるのである、此の事實には滿洲國の官民感奮せざる者なく、共に同じ目標に向つてあらゆる忍耐と努力とを盡して居る、財政上の負擔に付ては言ふ迄もなく國民の直接間接の貯蓄も昨年の實績略々五億に上り、建設事業に注がれた、物價に對する心構も、根本は時局分擔突破の決心に置いてゐる、王道樂土、安居樂業の希望は決して棄てないが事變勃發以來持して渝らぬ國民の覺悟は、臥薪嘗膽の一語に盡きる。

時偶々起きたのが歐洲動亂である、之に因り四圍の情勢は又一大變轉を見た、滿洲國の受くる影響も尠少でない、例年二億に近い對歐特產の輸出は爾來停頓し、該方面よりする建設器材の輸入に障碍を來した、此の現象に逢着して前途に對する見透しに付一部悲觀的の論を生じ、建設開發の計畫に對し、懷疑的の說を爲すものあるを聞く、併も私見を以てするならば極端なる樂觀固より禁物であるが極端なる悲觀も亦當らぬ、假に最惡の場合を想像して既往に於ける對獨貿易乃至對歐輸出が皆無になつたとしても、滿洲國の建設計畫は必ずしも全然實行不能に陷る譯はない、現實滿洲國の貿易就中輸入の內約八割は對日關係であり、對支關係も逐年增加しつゝある、第三國關係は僅かに殘りの二割に過ぎぬ、我々は滿洲經濟の建設が日滿兩國國民の自力に依る部分に對し過小の評價をしてはならぬ、若し兩國の一體協力を强化して重點主義を徹底し、計畫に前後按配を加へれば、時日の長短は別として、實行は決して不能でない。

殊に大きな戰爭動亂の當初には、諸事暫く混亂は餘儀なきも、時の經過するにつれかゝる事態には又かゝる事態に應じた打開の途も拓ける、今直ちに對外貿易を絕望するは早計である、況んや戰爭は最大の消費であり、非常の需要を伴ふものなるに於てをや。

かく謂ふも、他面極端な樂觀は又大いに禁物である、世界大戰當時の頭で今日物を考へることは甚しい錯誤である、歐洲動亂が海外需要を喚起增大し、海外物價の昂騰を招來すればとて直ちに

好景氣到來を夢み統制の緩和放棄を期待することは許されぬ、歐洲にも動亂が起つたが、我々は既に戰爭を行つてゐるのである、例へば先方で欲しいものは、多く我々も必要とするものである、只買ふからと謂つて無暗に賣る譯には行かぬ、賣るは我々の欲しいものではない、個人の欲しいもの—國家の必要とする所のものが得られる場合に限るべきである、また國內需給を考へて出し得る場合、出してよい場合でなければならぬ、貿易爲替の統制は强化されても緩和される氣遣ひはない。

物價の統制も亦同樣である、之に關する滿洲國の目標は戰時適正價格の維持に在り、初めより平時國際水準への引下は意圖して居らぬ、從つて又國際水準が戰時化して暴騰を演じ樣とも、之に追隨して國內適正水準を失ふ考はない、滿洲には滿洲の國民所得の水準もあり物價に付ても獨自の水準が保たれねばならぬ、要は民心を安定振興して勞働生産を促進し節約蓄積を助長するに在る、斯くて事變遂行に寄與し建設開發に精進するのである、賴むべきものは結局己である、國民の努力と忍耐とが最後の力である、此の意味に於て勞務技術の動員と所得消費の統制とは今後の重要課題となる、而して如何なる統制に付ても同一なれど今後特に念とすべきは公平である、今日の統制は時局の要請に基き國民に犧牲を求むるものなれば其の配分は努めて公平でなければならぬ、滿洲に於ても統制自體に付ては最早や何人も異議はない、只統制が公平に適切に行はるゝ樣其の完成運用を求むる所に國民の希望がある。

事變以來二年半、生產配給各部門に付統制の機構制度は相當進んで來た、之が完成も遠くはない、官民の經驗も日に加はつて居る、運用も次第に改善する、斯くて官民一心となり、日滿一體を强化して進めば時局の突破は疑ない、否禍を轉じて福と爲し、此の滿洲の地に見違へる程優れた經濟を產み出すことも可能である、我々は希望を以て强く今年を生きねばならぬ、今年も戰爭の內に學ばねばならぬ、非凡の力を得なければならぬ。

酷寒の滿ソ國境警備隊

漁村迎春

島田青峰

椿咲くこの浦に來て年を迎へ
枯萱のきりぎしを染め海の初日
初凪に色めく漁舟の旗さしもの
輪飾の廚の裏戸は浪も晴れ
門松にバスが下ろせし年賀人

軍國の春

吉田冬葉

初鷄や闇にそばだつ神路山
陣に國にこゝろひとつに年立ちぬ
勝栗や蔭膳すゑし床の上

新京日日新聞

其三

客舍不寢　首警　井ノ口甲山

宿心不遂事頻發。一夢難成聽鷄鳴。流泊多年久爲客。

自嘆

奔馳南北復東西。宿昔願難遂。萍遊南北涯。光陰如矢走。鏡裏鬢驚霜。

地方行政の向上へ 心の政治の滲透

滿洲國政治の新動向

聖戰下第四年の春

康德七年度の展望

兄齢にたとへるならば滿洲國はとつて九ツの發育盛りだ、十年一昔とは云ふが指折り數へて生兒の成長を待つてゐるうちに滿洲國を繞る世界の形勢もまた驚くべき變轉を遂げてしまつた滿洲國の生誕を阻まんとし新國家の成立を否認せんと無益な勢力を費した國際聯盟、またそれとゝもに世界の平和的秩序と稱せられたヴェルサイユ體制は今日根柢から崩壞し歐洲は戰亂の渦中に捲込まれたばかりではない、東亞における白人勢力の支配體制もまた聖戰支那事變の發展に伴つて凋落の一途を辿りつゝある、老衰期の歐洲は衰退し、若き東亞は逞しい成育を遂げつゝある、恰も皇國日本は紀元二千六百年の歷史的曆年に際會してをり一方支那中央新政權はまさに颯々の蹄を高らかにあげんとしてゐる、旭日東天に輝くの感一入なるものがある。

□　□

康德七年度における滿洲國の新政治動向は從つてまたこの歷史的世界的規模のもとに發展すべく約束されてゐるといへる、まづ第一に東亞新情勢の發展と歐洲戰亂の推移に伴つて滿洲國の有する國際的地位乃至意義は大いなる質的變化を來すであらう、サルヴァドル承認に引續いて獨伊波等の防共諸國家が滿洲國を承認し滿洲國の生存と矛盾するヴェルサイユ體制の否定滿洲國建國の本義としての防共精神の顯揚に力強き相互協力の狼火をあげたことは日滿外交の大いなる成功であつた、しかしこれを以て滿洲國もまた世界外交の檜舞臺に乘出したなどと夢見心地になるほどのことでもなかつた、歐米のいづれの國が滿洲國を承認するか否とは滿洲國にとつてさほど大いなる問題ではない、滿洲國とは血肉を分つた兄弟ともいふべき中華民國は宿世の因緣といふべきか滿洲國とは最も仲の惡い兄弟であつた、長兄日本の一再ならぬ親善提議を蹴飛ばして歐米依存、聯ソ容共に趨いて揚句の果てが支那事變の悲劇となつてしまつた、事變第四年を迎へて新支那中央政權の樹立、汪兆銘を首班とする防共、親日新政權の誕生も確固たる基礎を築くに至つた宿世の因緣を棄し、骨肉の兄弟としての滿支兩國が改めて兄弟の盃をくみかはす日も遠くはないであらう、滿支兩國の相互承認、外交使臣の交換に伴ふ兩國の親善提携この日こそ滿洲國生誕以來の劃期的歷史的事件であり世界歷史上に輝ける金字塔を打ち建てる日といはねばならない、歐米依存聯ソ容共の蔣政權を抹消して東亞の東亞を具顯せんとする世界史上の一エポックを劃することにほかならない、康德七年皇紀二千六百年の光輝ある年を迎へて滿洲國は日滿の堅き契りのもとに東亞新秩序下の燦々たる春光に惠まれんとしてゐる。

□　□

眼を北西に轉ずれば滿ソ蒙國境五千キロを隔てゝ赤色ロシヤ、赤色外蒙古共和國がある、昨年夏より初秋にかけてのノモンハン事件は幾多の示唆をわれわれに與へた、ことに近代科學戰の精粹ともいふべき戰車、飛行機による激烈火花を散らす戰鬪行爲の結果彼我の損害は甚大であつて稀有の激戰と稱せられるヴェルダンの戰役も遠くこれに及ばぬ狀況であつた、張鼓峰、ノモンハンの兩事件を通じてわが方の對ソ作戰に關する認識も大なる試煉を經驗したと云へる、また恰もその時歐洲戰亂の推移に伴ふソ聯ポーランド進駐、租界問題を中心とする日英會談の進行並に俄然局面は展開してノモンハンにおける日ソ停戰協定の成立を見たのみならずモスクワにおける東鄕モロトフ會談の進行につれてノモンハン一帶における滿蒙國境確定に關するチタ會議の開催が決定せられ滿ソ間における和平的雰圍氣は頓に釀成せられるに至つた、チタ會議における滿蒙國境確定交涉の圓滿なる進行はもとよりわれわれの希つてやまざるところでありでき得るならば滿ソ蒙五千キロに亘る國境の確定も結構である、滿ソ間における國境紛爭事件は枚擧のいとまがなくその第一の原因が國境の不明確なことにある以上この不明確を明確にし滿ソ國交の正常化を招來せんとすることは極めて妥當な處といはねばならない

しかしながらわれわれはまたこれとゝもに今更にまた「防共」の眞精神について最も徹底せる理解と認識を持つ事が必要であらう、昨年度の協和會全聯合協議會それに續く全國省長會議における張國務總理並に星野總務長官の施政演說中には「今改めて申上げますが防共の精神は建國の國是であつて滿洲國不動の精神であります」と明瞭に防共の大義が闡明されてゐる、われわれはまた滿洲國のこの確固不拔の方針と共に支那事變の聖戰によつて生誕した蒙疆新政權あるひはまた近く生誕すべき汪兆銘氏を中心とする全支新政權が共に高く掲げた「防共」の旗幟に思ひ及ばねばならない、滿洲國をして蹶起獨立せしめた最も大いなる契機がソ聯の東亞赤化であつたやうに支那事變を誘發せしめた契機もまたソ聯の支那赤化であつたことを思へば防共は實に東亞新秩序建設の最大の標識であることに疑ひはない。たまたまノモンハン事件を轉期として日滿ソ間に濃化し來つた日滿ソ國交調整のごときはこの點においてはつきりとした限界の存することを知らなければならない、いはんやソ聯は現在新疆、甘肅、陝西一帶にわたる支那西北地區をその權力下に掌握せるのみならず第三インタナショナルは戰後の動亂期にある支那民衆の間に不斷に赤化の手を伸べつゝあるをみては東亞新秩序の大先達として防共の大義に徹する滿洲國は極めて愼重なる考慮を拂はねばならない、東亞新秩序の大先達たる滿洲國はさらに一層しつかりと腰を落附けてかゝる必要が大いにある、何よりもまづ「善き政治」を實現することによつて東亞の範たる地歩を明確に示すことだ、產業五ケ年計畫、開拓政策、北邊振興政策の三大國策に呼應して「民生政策」が康德七年度の國政の重要目標として浮び上つて來た國防國家の完成をめざす國家總動員體制の急速なる確立、青史に類例なき建設の大進軍ではあるが、廣義國防の觀點からみても民生の問題は忽せにすべきではない、國民厚生、保健、教育文化の諸問題はもちろん農業滿洲國の眞姿を示顯すべく原始產業の振興工作が思ひ切つて講ぜられようとしてゐる康德七年度はこの意味において滿洲國政治の一里標を打ち立てたことになる、ソヴイエト・ロシヤはかつて國民を塗炭の苦しみに投げこむことによつて第一次五ケ年計畫を完成した續く五ケ年計畫遂行の途次スターリンは「今や生活は樂しくなつた」と民生漸く豐かならんとするを誇示したものである、滿洲國工業建設の斷乎たる遂行と併行して民生振興工作の遂行に萬全を期せんとる新生活動向を眼の邊りみて道義國家滿洲國の優れたる性格に感慨なきを得ない。

民生の問題と關聯して特に康德七年に期待されるのは地方行政の一段の向上である、物の政治から心の政治への轉換が刻下の著しい特徵である、心の政治が達せられない限りの物の政治もまた圓滑を缺くであらうことは疑ひない、政府が相當の意氣込を以て地方行政に對しつゝあるは極めて理由あるところであらう、地方行政の滲透について協和會の活動に大いに期待せねばならぬであらう、元來協和會の存在自體は世界に比類なき政治の第三形式を創造するものとして期待されたのであつたが今日未だかゝるものとしてこれをみるまでに至つてゐるわけではない、しかしながらわれわれはむしろ協和會の現實の逞しき成長とその大なる存在意義について透徹せる認識を持たねばならぬ、康德七年度における會運動方針としての國體明徵、國防國家の完成、民生振興等々企圖する處は所謂政府と表裏一體の王道國家樹立運動であるが、國防國家の完成のための國民組織の樹立、民生政策滲透のための隣保共愛制度の確立その他あらゆる問題に關して協和會運動の全面的展開による協力が刻下の急務であつて政府と表裏一體といふ意味もかゝる點において最も明瞭に把握せられる、康德七年度は協和會として益す多事といふきべであらう

外交はとまれ何等か新生面を開くことゝならう、對支國交の樹立によつて支那中央政權はいふまでもなく、特殊地域としての北支とは極めて密接なる關係に入る事とならう、さらにまた東亞防共壁の一環として滿洲國と接壤する蒙疆政權とはさらに親善の度を加へることゝならう。

□　□

滿洲國政治の新動向としての對外關係の展望に續いて國內問題の動向も極めて重視すべき點が多い、大きくいつて支那事變の處理もまた國內問題に直ちに大いなる波紋を投げかけるであらう、

東亞重光

康德七年元旦　呂榮寰

建國創業　文展無鑑査　岩田正巳

第一線の元旦　滿洲國軍の萬歲三唱

北京北海公園九龍壁の龍

一元復始 萬象更新

孫其昌

年頭の辭

奉天市長　鄭禹

茲に康德七年の新春を迎ふるに當り恭しく皇帝陛下の聖壽無窮を壽ぎ奉ると共に東天を拜し謹んで一德一心の盟邦日本皇室の御繁榮を奉祝申上げる次第である。顧みれば我が大滿洲國は建國以來既に九年國礎愈々鞏固に王道の慈光は邊土に遍く輝やかしき樂土の建設を目指して諸政の躍進を見つゝあることは洵に慶賀に堪へぬ處であるこの比類なき國勢の伸暢に伴ひさきに國民總服役制の制定を見日滿共同防衛の大原則に一段の光彩を添へ搖ぎなき一體不可分關係は國防の充實と相俟つて益々强化せられ產業開發計畫の進捗と文化諸施設の擴充に依り國力は日々增進し世紀に輝く國威は益々宣揚せらるに至つた

我が奉天市は建國後國內經濟交通文化の中心都市として躍進の一途を辿り市制實施以來五年、治外法權撤廢に伴ふ市政一元化より既に二ケ年、都市の膨脹は實に驚異的なものあり人口も遂に百萬を突破するに至つたが、尙大都市計畫の線に沿ひ更に一段の飛躍的發展を目指し巨歩を進めつゝあるのであつて、奉天市に與へられたる商工都市としての使命は興亞の新情勢と共に益々重大性を與へつゝあり今後共百萬市民一致協力この大使命達成のため獻身的努力を致さねばならぬと思ふ次第である、今や世界の情勢は多事多難宿命的な歐洲の戰亂は日增に禍紋を擴大し複雜怪奇の樣相は愈々深刻化しつゝあるが我が東亞においては支那事變後既に四歲、日滿支を連環とする新東亞建設の偉業は着々と成り東方道德の眞髓は燦として顯揚せられ更に意義ある盟邦日本の皇紀二千六百年を迎へ八紘一宇の大精神に基き東洋永遠の平和は今將に確立の域に達せんとしてゐる、我が滿洲國はこの興亞の一翼としての任務を遂行すべく益々民心を振作し時艱を克服し聖なる目的達成へ勇躍奮起せねばならぬのであるが茲に意義深き新春を迎ふるに當り官民一致協心戮力以て市政の發展と王道理想の顯揚に努め東亞新秩序建設の大目的貫徹に邁進せんとするの覺悟を新にする次第である

年頭所感

滿洲土建協會會長　榊谷仙次郎

東洋の聖戰、歐洲の戰亂により世界各國の嚴然たる裡に光輝ある紀元二千六百年並に康德七年の新春を迎へ日鮮滿一億二千萬同胞は日滿兩帝國の世界に冠たる躍進を祝福すると共に新なる用意と眞劍なる覺悟を以て勇往邁進すべき年なりと信ず。對支聖戰三ケ年を迎ふると雖も、蔣軍閥は未だ全滅に至らず、汪氏の支那中央政府の樹立も亦容易ならず、英米蘇との國交調整も迂餘曲折樂觀を許し難き情勢にあり、興亞建設の前途尙多事多難なるを思惟せらる、此の重大時局に當り日滿兩國民は一層親善を强化し、不退轉の覺悟を以て國家空前の大業を完遂し東亞の一大紀元を永劫に頌すべき年頭に際會せるを思へば吾人亦血沸き肉躍るの感に堪へないのである。滿洲建國以來土木建築事業に投ぜられたる國帑は二十有餘億の巨額に上り、尙將來益す斯業の勃興を來すや明なるも、之に要する物資、勞力の需給調整は內外の現狀に鑑み甚だ困難を來すべきにより政府は之が對策として大量に全滿各種事業の統制を斷行せらる。又木協會の統制力を强化せられ請負業者の指導統制も近く其の實現を見んとす、茲に於て滿洲土木建築業協會三十有餘年の歷史は新年と共に革新せられ、興亞大建設に對する協會又は協會員の使命更に重且つ大を加ふるに至る、吾人は此の土木非常時に當り國策に順應し新協會の傘下に於て協力一致最善を盡し、以て帝國の赤誠を捧げんことを欲す

坂本龍馬

（禁無斷轉載）

笹原紫朗

（一）

慶應二年七月三日の早曉朝霧の模糊と立ちこめる萩城下の港をしづかに船出してゆく三隻の西洋式の軍艦があつた、それは長州藩が新たに外國から購入して、ひそかに今日あるに備へておいた、いはゞ秘藏の虎の子軍艦であつた。

先頭に進む一隻、帆柱に長州藩の幟をへんぽんとひるがへした鐵甲艦の甲板には西洋合羽を羽織つて、右手に長刀を杖に構へて、ぢつと曉霧の海上を遠眼鏡で睥睨してゐる偉丈夫の黒影が見える。

「取舵いつぱい！」

振返つてさう叫ぶと、水夫頭がよう候と答へて、直ちに水夫達に下知を傳へる三隻の艦は、漸く明るくなつて怒濤の吼へる海上をまつしぐらに北の方へ目ざして進んでゆく。

「隊長、幕艦はまだ見えませぬか？」

船長らしい一人の武士がつかつかと隊長と呼ぶその男に近寄つて聲をかける。

「ほう、お待遠ちやのう、まア、ゆつくり腹ごしらへでもして待つてござらつしやい。いまにこの龍馬が見事幕艦を料理して進ぜるから、ワッハヽヽヽ」

悠揚迫らず嘯いて、隊長はまたも水平線にヂッと見入るのであつた。

萩を出てから早くも二刻あまり明け放れた海上遠くに、相島や尾島が墨繪の如く見えたかと思ふとまた、濃い霧に遮ぎられてゆく。勿論幕府の軍艦は未だ影も形も見えない。

（二）

安政五年十一月、初めて土佐へ勤王の遊說に來た水戸藩士住谷寅之助によつて初めて烈々たる尊王思想の洗禮を受けて、愛國の熱火を點ぜられた坂本龍馬は、率先して同志を集めて國事に奔走し、遂に土佐勤王黨を組織してその盟主となつたが、王政復古の大業を完成するには、どうしても薩長と緊密な提携をする必要があると痛感して、先づ文久二年、長藩の久坂玄瑞等と相談して、事を擧げようとしたが、禍の藩主に及ぶのを恐れて、遂に脱藩して才谷桂太郎と變名して、その年の八月にひそかに江戸へ下つた。江戸では勝海舟の門に入つて航海、水戰術の蘊奥を極め、横井小楠、由利公正等と交つて、いよいよ勤王の志を深くしたがその中勝海舟は彼の人物を深く囑望して、その脱藩の罪を許さるゝやう藩主山内豐信に懇請したので、遂に藩主の許しを得て郷里へ歸つた。すると、間もなく慶應元年、幕府の長州征伐が行はれる事になつたので、龍馬は時機到れりとばかり喜んで、中岡愼太郎と共に九州、長州、京都の間を往來して、遂に薩長聯合の陰謀に成功したのだつた。かくして翌年正月、木戸、大久保、西郷の間に薩長の盟約は成立したが、これは實に龍馬の蔭に於ける大きな働きによるのだつた。その爲に龍馬は幕府方からは極度に惡くまれた。

慶應二年正月二十三日の夜、龍馬は中岡愼太郎、宮部鼎藏、眞木和泉等の同志と京都寺田屋で密議中、幕吏の襲撃を受けて、血戰の修羅場を演じたが、幸ふじて龍馬は九死一生逃れることが出來た。この時には既に幕府の征長軍は長藩に向つて進軍してゐたので、龍馬はどうかして薩藩を動かして長藩を助けなければならぬと思つて小松帶刀にこれを懇請する一方、自分は急遽密かに長州へ潜入して奇兵隊の隊長高杉晉作と會つて、助力を申入れた。

孤軍奮闘の立場にあつた高杉晉作は、水軍の雄坂本龍馬の救援と聞いて、百萬の味方を得た心地で喜んだ

「貴公の御援助はこの晉作死すとも忘却仕らぬ。幸ひ當藩には外國軍艦三隻購入しあれど、馴れざる水軍の事とて轉た寶の持腐れの怨みをかこち申したが、水軍の練達深き貴公と見込んで敢てお願ひがござる、如何でござらう、貴公、わが水軍を一手に御引受け下さるまいか？」

高杉は渡りに舟とばかり早速龍馬に水軍の指揮を依頼した。

「いや、御依頼までもなく某勿論その所存で參つた。水軍は及ばず乍らこの龍馬が確かと御引受いたす」

龍馬は莞爾として金石の如き一言で引受けた。

「それと聞いて漸く安堵仕つた。陸戰の方はこの晉作十分の成算あれば御安心下されい。いや忝い忝い、貴公がこの時に參られたといふのは全くこれ天佑と申すものぢや、貴公が水軍御指揮と決まれば、長藩の勝利は目前に見えも同然ぢや。晉作更めて厚く御禮仕る」

さすが千軍をも恐れぬ晉作も涙をうかべて感謝するのだつた。

「いや、その御禮は却つて痛み入る。同じ皇天に竭す御奉公、義を見て爲すは男兒當然の義務でござる。晉作殿お互ひに馬骨を捧げて王政御一新の人柱とならうではござらぬか」

かくて兩雄は肝膽相照しその夜は徹宵して萬端作戰の謀議に耽つたのだつた。

（三）

龍馬の率ゐる長州艦隊が大島沖にさしかゝつた頃だつた。物見の兵が帆柱の上から「隊長、怪しい船が辰巳の方に見えまするぞッ」と慌しく注進した。

「おゝ」

龍馬が望遠鏡を取上げて見ると果して辰巳の方、霧の霽れ間に、紛ふ方なき西洋式の軍艦が四五隻黒々と見えた。

「フム、いよいよ幕艦に相違はない、皆の者彈丸撰め用意ッ！」

龍馬の下知が下るや、帆柱の上からは旗を振つてこれを僚艦に知らせる。船内は俄然ざわめきたつて各々その部署についた。

天佑とも言はうか、未だに霧が霽れ切つてゐないので、味方はこれに遮蔽されて敵艦はまだ氣がつかぬらしい。

かねての打合せの如く、この時三艦は三方に分れて幕艦を包圍する形をとつた

漸く霧を透して味方の艦がはつきり目に入るやうになると、幕艦は急に狼狽しはじめた。數へて見ると敵はどうやら四隻らしい。忽ち右往左往して逃げやうとする。そこへ、味方の三隻は三方から突入して、一齊に火蓋を切つた、彼我の砲聲は時ならぬ雷の如く海上の靜寂を破つて殷々と轟き渡り、艦の近くには白い水柱がいくつも立ちのぼつた

「あせるな〳〵。照準はかねて教へた如く正しく定めて一發ムダ彈丸を撃つな」

龍馬は初めての實戰に臨んで手並を見せるのはこの時とばかり、その蘊蓄を餘さず傾けて、必死となつて指揮をした。果して長藩側の彈丸はつゞけ樣に命中したが、幕艦は盲撃ちをするばかりで早くも支離滅裂となつてしまつた。

かくて幕艦一隻を撃沈、他の艦にも多大の損害を與へたが、夜の帷が降りたので、一先づ最寄りの大島の島蔭へ碇泊した。長藩側は死傷若干と艦を小破した程度で、先づ幸先は頗るよかつた。

ところがその夜幕艦へ將軍家茂の薨去した報が入つたので、最早全く戰意を失つて、そのまゝ何處へか姿をくらましてしまつた。

かくして龍馬は高杉と共に幕軍を大いに敗つて遂に休戰の餘儀なきに至らしめたが、これより大に海防の緊要な事を痛感し、藩主を說いて、海兵を養ふために海援隊を組織して、自らその隊長となつて指導に當つたが、待望の王政復古の大業成つて幾何もなく、慶應三年十一月十五日京都河原町の旅宿で、中岡愼太郎等と密議中、幕吏に襲はれて三十三を一期として兇刄に仆れたことは何人も知るところである。

家庭

今も變らぬ民間行事緣起
新年の常識講座

萬歳 年の初に、立烏帽子、大黑頭巾を着て、人の門を訪れ、新年の賀詞を述べ、家の繁榮を祝す、鼓を打ち立舞ふなどする烏帽子を着けたのが太夫、頭巾の方を萬歳といふ、萬歳とは元來千秋萬歳と云つたのだが後世略して唯萬歳と呼んだ、その起源は明らかではないが、雅樂に千秋萬樂と云ふのがある。之は踏歌から出たものであつて、踏歌は持統天皇の御代、漢人が奏したのが始まりで、それ以後朝廷の儀式となつたものである。德川時代には毎年正月四日に紫宸殿の庭で舞ひ、裝束は三位烏帽子に大紋を着て小刀を帶し、萬歳は萬歳烏帽子素襖を着て、刀脇差を帶びてゐたといふ。關東では三河の萬歳作太夫が毎年江戶に來て、正月の十一日には勘定所で萬歳を勸め、金子を拜領する、昔は淺草御藏で勸め米十五俵を賜つたと云ふ事である。

猿曳 猿曳き又は猿廻しとか、狙公とか云つて、猿に色々の技を敎へて舞はせ、錢を乞ひ歩くもので、別に正月と限つた譯ではないが、多く松の內に人の家に立つもので、正月行事の一に數へられてゐる。近來は盛んでなく土地に依り稀に見る位だが、三河の地方には今尙多く行はれてゐるやうである。

書初 試筆とか吉書とか試毫、試春などと云ふ、今日では元旦試筆と云つてゐるが、實は多く二日に書くやうである。元旦に行ふべきものだと云ふ說、二日に行ふべきだと云ふ說、更に新年中最初に筆をとるを書初と云ふ說と三說あつて一定して居らぬ所を以て見れば、これは公には行はれなかつた事で、全く民間に生じた行事の一であると想像される。書初の時は筆硯、墨、紙等凡て新品、水も汲みたてのものを用ひ、書き上げたものは、巧拙を問はず壁間に掲げる。書初の外に讀初、謡初、彈初などと云つてやはり二日の朝の行事がある。

初荷 初荷は賣初又は初商などと云つて正月の二日に初めて商品を賣ることこれは商賣の景氣をつけ、繁昌を祈る意味で、都會でも田舍でも賑かな街頭所見を呈する。

初寅 一月の初めての寅の日に大毘沙門天に參詣するのを初寅參りと云ふ。元來初寅參は京都の鞍馬寺に參詣する事を云つたので福播と云ふものを買つて福德を播き集めようとした、東京では芝の正傳寺、牛込の善國寺、品川の蓮國寺が非常に賑かである。此日に毘沙門の寺院で百足小判と守札を出すのは鞍馬寺に倣つたものであると云ふ。

藪入 正月十六日、俗にやどさがり、やどなりなどと云つてゐる。此日嫁したるもの、或は他家に雇はれてゐる者が、一日の暇を得て實家に歸る。藪入は支那から傳はつたもので、齊や魯の人達が一月十六日に寺に遊んだのを、走百病と云つたと云ふ事がある、走百病と云ふのは遊山して元氣を養ひ、百病を走らすと云ふ意味なのである。

七草粥の藥効（七日）

正月の七日は七草正月といつて、七味のお粥をこしらへ、一年中の萬病を除き邪氣を拂ひ、春の氣病、夏の疫病、秋の痢病、冬の黃病を防ぐといふのであるが、今日では七草を揃へずに芹あるひはなづなに菜類の二三種で略して居る、七草粥を食べるのは、一種の迷信の如く思はれ勝ちであるが、矢張り一つの意味を持つてゐて、雜煮などで一杯になつた胃腸には藥的効能があるのである

◇せり 水濕りの多い田や川のほとりに自生して良い香を持つてゐる、酒の毒を消し、黃疸に特効がある

◇なづな ペンペン草または三味線草といつて春小さな白い花をつけ、三味線の撥の樣な形の實を結ぶ、これは止瀉藥とされ、腸カタル、赤痢などに効があり、眼を明かにして風邪を去るとも云はれてゐる

◇ごぎやう 母子草よもぎと云はれ、咳や喘鳴を治し、氣管支カタル、喘息に効がある

◇はこべ これは淨血藥として分娩後にもちひられ、また瘡を治す効がある

◇ほとけのざ 七草の佛の座とは違つて、これはタビラコのことで、やはり野生で、この燒灰と鹽とを混ぜて食べると齒を丈夫にして齒痛を治すと云はれてゐる

◇すずな 唐菜のことで、いまは蕪靑とされてゐる、咳を止め、喀痰をよくし下痢に効果がある

◇すずしろ 大根のことで、おろして食べれば食物の消化を助け、種子は健胃劑とされ、葉は藥湯として妊婦の入浴などに用ひられてゐる

寳船と初夢
一富士二鷹三茄子

初夢は元旦の夜に見るのを指して云ふのであるといふ說と、これに反して二日の夜の夢だといふ說とがある今日では二日說が一般に行はれるやうであるが、我が國で初夢を以てその年の運勢の吉凶を判斷する習慣となつたのは、鎌倉時代からであるらしい。然しながら此の當時からその初夢を祝福する寳船があつたかといふと、まだ當時においては寳船は工夫されてゐなかつた、寳船は枕の下に敷いて寢ると必ず吉夢をみる、若し惡夢を見た場合には寳の帆に書いてある貘といふ獸物が、その夢を食つてしまふから凶事は免がれるといふ俗信を生んだのは、如何に古く見積つても今から五百年ばかり前の足利時代の中期より以前に溯らせることは出來ない、故實學者の研究したところによると足利八代の將軍義政の頃の着物に戴つたのが初見であるといふ、そしてこの頃には正月の初夢に用ひたものではなく、專ら節分の夜に枕の下に敷いたとある。

×　×

寳船を初めて用ひたのは古書の示すところによると宮中である。大晦日になると各宮家を初め身近く仕へてゐる月卿雲客に賜はることになつてゐて、是等の人々は更に自分のところに居る者に、その寳船の模樣を寫して分けて與へて惡夢を避けるまじなひとしたのである。それが次第に世を變へ年を經るに從つて、國民の間に盛んに行はれるやうになり、宮中の方は却て行はれないやうになつてしまつた、大昔から行はれた寳船の繪を丹精に集めた人の話によると約三十種も變つたのがあるといふ、二日の夜になると「寳船、寳船」と町中を呼びながら賣つて歩いたが、この賣手は廿五か四十二の厄年に當つた男子が厄落しの意味で賣つて歩くので、中には相當に門地のある資産家の者もやつたと聞いてゐる。

×　×

寳船の繪模樣も時代によつて大へん相違してゐる。古いものほど極めて簡單な粗末なものであつて、それがおひ〳〵と時代が新しくなるにつれて繪模樣が複雜となり帆の紋所に貘の字を書き入れたり、寳の字を書いたりしてゐる。更に鶴だの龜だのを景物に添へるやうになつた。それから初夢の中で最も吉夢であるといはれてゐる一富士二鷹三茄子といふことは、何時頃から行はれて何を意味してゐるかといふに、これは全くの民間に行はれた俗言であつて、書物の上からは取りとめたものがない、茄子が我國へ船來したのは、古いこととは思はれず、且つそれが全國に移植されて一般の食物となつたのは、餘り遠い昔のことではないので、三百年この方の俗言として差支へなからう。

龍の傳說

弘法大師と龍 或時弘法大師が川の畔を通ると、一人の童子が來て「大師は大層字が上手だと承りましたが、どうか私の爲めに空中に字を現はして下さい」と頻りに賴むので大師は「よろしい、書いて見よう」と直ちに童子の望み通り虚空に字を現はすと童子は笑ひ乍ら「では私も書いて見ませう」と同じ樣に字を現はした。童子は又「では今度は文字を流水に現はして見せて下さい」と云ふ。大師も即座に「よろしい」と承知して流るゝ水の面に詩を書かれたが、文字は少しも亂れず、水のまに〳〵流れ去つた。童子は之を見て「おもしろし、おもしろし、私も書いて見よう」と早くも龍の一字を書けば、これも亂れずに流れ去らうとした。けれども童子は何を思つたか、わざと龍の一點を省き、その點をば自分で打たうともせずに却つて大師に打つてくれと云ふので大師は直ちに其一點をづけ加へると、不思議や其の字は忽ち本當の龍と成り雲を起して空高く舞ひ上つて仕舞つた。其の時大師は童子に向つて「童子は一體誰であるか」ときかれると、童子は「われこそは五髻の童子と申す者である」と云ふかと思へば、もう其の姿は消え失せて仕舞つた。恐らくこれは大聖文珠の大師を試さうとして來たのであらうと云ひ傳へられてゐる。

空海上人の雨乞 天長元年に天下一般に大旱魃があり、朝廷におかせられては僧空海に勅令を下して神泉苑に雨乞の經法を修せしめられた。時に守敏法師と云ふ者が此の事を聞き急ぎ奏聞するには「吾は年齒に於ても、法力に於ても空海に優つて居ります、先づ吾に勅を下させ給へ。即座に雨を降らせるでありませう」と。そこで詮議の上一旦空海に下した勅令を今度は守敏法師に仰せつけ七日を以て一期と定められたが、案の定晴天に雲おこり忽ち暗夜の如き景色となり電光雷鳴、雨は車軸を流すばかりに注いだので、役人達も皆々守敏の法力に感服した。そして勅して雨の爲めに霑つた地方を檢分させた所が、それは僅かに東西京の間ばかりで他の地方には少しも降つて居らぬので守敏の法力は信用がなくなり、今度は改めて空海に勅が下つた。空海は勅を奉じ一心に祈念したが、七日過ぎても雨は降らない、空海は不思議に思ひながらそつと守敏の樣子を見させにやつたところ、案の定守敏は多くの神々を捕へて一つの瓶中に封じておいた。空海はそれとはなしに弟子に告げるには「池中に善女と名附くる龍が居る。之こそは阿耨達池の龍王の親族である。これさへ形を現はすならばきつと天下に雨を降らせることが出來よう」と云ひ終るか終らぬ中に金色の龍はいつか悠々とその姿を現はしてゐた。龍は長さ約九尺、唯七人の弟子の目に見えるばかりで他の者にはその片鱗さへも見られなかつた。空海は早速この事を奏上すると、朝廷から龍神に幣物を供へられたが間もなく全國に雨の降り續くこと三日に及んだ。勅して空海に優賞を下されたといふ

日滿婦人仲良く初詣で（新京神社）

家庭遊戯
新年の集ひ

創作家

集つた人達で一つのストーリーを作つてゆく遊びです。例へば最初の人が「フランスの片田舍にポールといふ男の子が居ました」とかいふ風にお話を始め「或る日いつもの樣に森の中へ入つてゆきますと突然妙なものを見つけました、一體何でせう」といふ樣に切るのです、と次の人がすぐ受けついで「それは白い鬚と赤い三角帽子を持つた小人でした」などと續け、順々にお話を發展させてから最後の人はしつかりとしめくゝりをつけねばなりません、冬の夜暖かな煖爐の前や、炬燵の中に集つてするにふさわしい遊びです

名前さし

トランプを人數だけに分けます、分けられた札は裏向きに各自の前におきます、最初の人から順々に札をめくり、もし誰か自分と同じ數又は繪の札を開いてゐる人があつたらその人の名前をよんで、早く云つた人が自分の札を相手にやりますかうして早く自分の札を無くした人が勝ちです、お互ひの名前は動物、或は植物の名などを用ひますと一層面白くなります

チエスチユア

全體を二組に分け、各組から一人づつ選手を出します選手は敵方から渡された問題を身振り手似で味方に敎へます、例へば、魚屋さんといふ題が出たとします、盤台をかついでゆく所、下す所、魚を出す所、切る所などで表現出來ませう、選ばれた本人は大眞面目ですが、傍で見てゐるとお腹を抱へるやうな珍藝も演ぜられます、出す問題もあまり抽象的なのは困りますが、出來るだけ中々わからない難しいのを考へて下さい

賀正　皇紀二千六百年

一月二日より一月五日まで四日間

入場料二圓　軍人小供半額

於 西廣場社員倶樂部

康德七年度のスポーツ界

大滿洲帝國體育聯盟主事　鈴木良德

昨年の四大競技

昨年度のスポーツ界における最も大きな行事として四つを擧げることが出來る即ち新年早々に日本スケート界の有力選手が來滿したこと、七月にはカナダ籃球チームを迎へての對戰、八月に京城で行はれた第二回滿鮮對抗綜合競技大會、他の一つは新秋首都新京で開催した日滿華交驩競技大會この四大競技會である。

▼日本スケート團の來滿は滿鐵の記念事業の一つとして同社の特別な協力の下に行はれたのであつたが、對等以上の成績を收めたことは十分に滿洲軍の實力を發揮したもので從前とも滿洲の氷上が日本のスケート界に地歩を確保してゐた證左として誇るべき榮譽を得たものとすべきである、ともすれば滿洲の競技界が日本に太刀打することの難きを痛感してゐる際にこの一角が斷然たる頭角を現はしたことは特筆すべきで、特に滿洲の長い冬季期間の善用として氷上界の普及發展は國民體位向上の見地からしても喜ぶべき現象としなければならない

▼カナダの籃球隊は偶々日本外務省の斡旋の下に、渡日したものであるが、滿洲で非常に普及されてゐる球技を第三國と比較するには絶好の機會と考へてこれを我國に招聘したのである、實際に滿洲として大洋を越えて來朝したチームと一戰を交へるのは建國以來最初の企てであつた、嘗つてアメリカの陸上チームが滿洲に足跡を印したことがあつたが、これは正式な試合として成立したものではなかつた、この二つの意味からこの大會は注目すべきものであつたがその結果は相手方選手に遠征の疲勞があつたとはいへ善戰して今一息の處まで押した滿洲のチームは賞讃されるのに充分であつた。

▼滿鮮競技には二百數十名の多數を京城に送つたがこれはわが國として有史以來未曾有の大デレゲーションで競技會の發展を如實に示したものである從つて尚幾多の不完備な點をあげることが出來、或は尚統制など考慮の餘地があるとは思ふが、一つの壯擧として數ふべきである、丁度この代表團の編成に當つて國政の上から忽にすべからざる事情があり、滿洲の全實力を選出することが出來なかつたが、之又諒とすべきである。

▼最後の日滿華競技は日華より二百名の第一線の代表團を迎へた數の上の劃期的企てであるばかりでなく東亞青年が文化部門としてのスポーツを通じて交驩を遂げたことを銘記すべきである、不幸にして大會の大部分を通じて惡天候に災されて幾多不滿足な點もあつたが、この最初の日滿華の青年達の交驩が東亞新秩序建設の據點である滿洲で結成されたことは我々として最も慶賀すべき大事業であつた。

このほかに軟式庭球の日本遠征團が覇權を滿洲に持歸つたことも綜合競技ではないが一行の勞苦を多としなければならない。

官民の協力

すべての事業が官民一致の協力によつてのみ成功すべきは論を俟たないが、特に運動競技の如く啻に肉體の天賦といふ基礎條件以外に精神力が大きな影響を持つものにあつては、特にその感を深くするのである、この點において何れも官民各機關の熱烈なる支援を得て空前の大計畫が一つ一つ結實したことは唯々感謝の外ない、又この精神的なる指示と同時にこれを遂行するに要する物質的な方面もあるが、幸にして理解ある各方面の協力を得て所期の事業を完了したことも特筆すべきである。

更に我々が將來の滿洲國民の體位向上の觀點から多謝しなければならないのは國都建設局の英斷によつて南嶺綜合運動場が改設されて、世界に誇るべき施設を持つた運動場を得たことである、屢々筆にしたやうにこの運動場は日本より一歩先に全コースをアンツーカーで舗裝し、その通報機關も伯林の國立競技場に範を採つて工事を進められたもので、第二期工事が完了すれば東洋における最善の設備を持つ運動場となり、ここを母體として我が國の青年の體位は大いに增進されるのである。

威容を誇る南嶺綜合運動場

無形の効果

斯うした綜合的な表面上の競技會がその性質上目立つてはゐたが、必ずしも地方啓發を疎略にしたのではなかつた、もつとも滿洲のシーズンが短いのと、大會が大都市中心主義であつたから多少我々として不滿の點はあつたが、これは前述の何れの大會も滿洲では空前のものであつたことを考へて、それに我々が力を注いだのであつたと大目に見て戴きたい、又例へば綜合的なものゝほかに卓球とか自轉車、拉式足球、學生拳鬪、體操の講習などにも日本から精鋭が來滿して我々を大いに刺戟してゐる、それらは何れも相關聯して有形、無形の效果を潜在せしめてゐると信ずる。

特に無形の力を遺憾なく發揮したものとして、第十回明治神宮國民大會に參加し、全國第三位の成績を獲得した關東州選手團の中には前記大會に參加した多數の選手を含んでゐて、何れも最優秀の成績を收めたことを知つてもらへば足りる、我々はこの無形の效果について充分に認識して尊重しなければならない、有形の效果が歡迎さるべき派手な英雄的なものであるとすれば前者は廣く一般に喰ひ入つた膠狀の強靱なものである、世界のスポーツ界の動きは既にこの膠狀の潜在的全體力を求めて營々としてゐる、一人の英雄的選手を求めることでなくして百人の平等なる強い肉體の選手を養成することが現在のスポーツの目的であらう

この點では國際陸上競技聯盟加盟によつて國際的な多年の宿望を達した滿洲國としては舊套依然たるスポーツ界を打破する國際的波調に乘じて獨自の權威を確立するとゝもに東亞ブロック青年の眞のスポーツ道を兄弟の國々と提携して驀進すべきである、膠狀な強い肉體としての榮養を與へることである。

不滅の精神

實際において世界のスポーツ界は最早昨日のそれではない、その國の榮養劑であり、貯藏されたる資源素である、尤もさうしたスポーツを、或は運動といつた方が妥當かもしれないが既に前世紀から或る民族によつては實行して來てゐたのである、しかしそれは依然として運動であり、一つの肉體の自己滿足でしかなかつた、それにはその民族なり國家なりへの義務がなかつたし、さうした風には考へてゐなかつた、であるから、一朝國家民族が危急に直面しても普段肉體の鍛錬に勵んでゐた筈の力が一向に發揮出來なくて崩壞してしまふのである、例へば世界的に有名であるソコール運動の發生地であるボシミア、即ちチエッコスロヴアキアにしても體操をもつて鳴る北歐スウエーデンにしてもその國家實力からすれば大剛の前には風前の燈火に等しいではないか。

換言すればその運動は華やかではあつたかも知れないが、不滅の精神が存在しなかつたのである、そして夫等の民族が單に國家總力の弱さを示してゐるばかりでなくスポーツ界からさへ既に第三流第四流の國に墮して永久に眠れる獅子の支那と軌を一にしてゐるのであるそれに比較すると民族不滅の精神をもつて、華々しくはないが、烈しい實踐の裡に盛り上げた肉體の力はその國家を隆盛に導き、延いてはスポーツ界においてすら第一線に躍進しつゝある、日本にしても獨逸にしても伊太利にしてもアメリカにしてもその訓練目的に相違こそあれ、ソヴエット聯邦にしてもその範疇に屬するのである。

かくてわれわれも亦新しく展開せられたるこのスポーツの分野に投合して國家の榮養劑となり、資源素となるべく不滅の建國精神に則つて果敢なる道を進まなければならない。

豫定事業

最後に本年度の豫定事業を述べれば一月十四日に京城で行はれる第二回滿鮮對抗の冬季大會を皮切りに、スケヂユールを統制し、且地方強化の建前から大會の地方分散を企圖して各種競技の都市對抗が行はれる、但し高專大會や選手權大會は冬季競技を除いては新京で開催される

その間に第三回滿鮮對抗競技の夏季大會が八月下旬首都で、續いて體育週間を經驗して來た選手によつて第九回全滿大會が行はれてシーズンは冬を迎へるが、今年からは明治神宮國民大會に滿洲地區が獨立したから前記の大會によつて充分に訓練された代表者が派遣されることゝなるだらう、これは新設された皇紀二千六百年奉祝委員會の事業となつてゐる。

又昨年はじめて開催された日滿華交驩競技會は大日本體育協會の手によつてより廣汎に擴大され、建國の大典を奉祝するため六月頃を期して大阪或は東京に擧行されるが、これは往年の極東大會、即ち開店休業中の東洋大會に合流されるもので、日本で考へてゐるのはもつと廣く汎太平洋的なものであるらしい。

とも角この大會が六月に開かれるとすれば冬季の長い滿洲にとつては相當苦痛であるが、それだけに今年は滿洲スポーツの夜明けを早めたいものである。

浅春胡同【三】

工　清定
白崎海紀（繪）

黒眼鏡（5）

（あいつは百さんにちがひない！今度こそごまかされぬぞ！）黒田はオーヴァの襟を立てて注意ぶかく尾行しはじめた。

五六間先きの黒眼鏡の男は前かがみになつて、小刻みに辷るやうにあるいてゐる。黒田は哲也の思惑などにかかはつてゐられなかつた。たゞもう（何といつても百さんは怪しい。こいつをつきとめて、村崎はじめみんなの鼻を明かしてやるんだ！）と、はやり立つと黒田の瞳は、もはやあとかたもなくさめてしまつた。

（アルメニヤの方へ行くんぢやないか。俺が蹤けてゐることに氣づかないらしいぞ！）二十分もたつて、道順に漸く見當がつけられるやうになると、彼の胸は高鳴りをはじめた。

（今晩こそ正體をあばいてやる。そして明日の夕刊の特ダネだ！）何も氣づかない風に、黒眼鏡の男は五馬路の辻の煙草屋へ、つかつかとはいつて行つた。

——はつと小暗い物蔭へ身を潜ませると、その黒田をそこに以前から待受けてゐたやうな女の聲におどろかされた。

「あら黒田さんぢやない？」

ふりむくと暗がりの中にルミの顔が浮んでゐた。

「何だ、ヌカルミか？びつくりさせるぢやないか、何してるんだ？」

喚鳴りつけられるのを、豫め覺悟してゐたといつた風に、ルミがわざとらしくすねて、

「あんたこそ何してるのよ。酔狂ねえ、こんな暗がりにそんな恰好してると、饂馬がくしやみひつかけるわ。」と、早口にまくし立てた。

黒田の苛立たしい聲が、それに闘投詞を入れた。

「あ、忘れてた！こないだのギザ一枚返すから、さつさと行つてくれ、うるさくつて仕様がない。俺は用事があるからここにゐるんだ。」

「ひどいわ、黒田さん。邪慳に追拂つたりすると、千ちやんを奪られても知らないことよ。あたしといふ出雲の神様をないがしろにすると、神罰、目の前であたるわよ。」

「……。」

だまつて睨みかへした黒田は、氣が氣でなかつた。男が店から出て來た。

「ルミ！失敬する。その話はまたあとで聞くよ。」

思ひがけないことには、その男が今來た道を戻り出した。（はてな、變だぞ、氣づいたのかも知れぬぞ。）

いままでとちがつて、ひどく大股に歩き出したので黒田は適當の間隔を保つことに、相當骨が折れた。

（驛へ行くんだな。）と悟つた黒田の神經は、すぐに大連行急行の發車時刻に間のないことにも、すぐ氣づいた。

（それだつたら、馬車にも洋車にも乘らないなんて變だぞ！）

すると、その男がつと立ちどまつた。瞬間、面喰つた黒田は、物蔭を求めようとしたが、生憎、そこは街路に凍りついた馬糞も數へられる位明るい街燈の下だつた。

光に射すくめられた黒田の方へ、その男がつかつかと寄つて來た。

大太鼓に明ける紀元二千六百年
慶祝プロの數々

輝かしき皇紀二千六百年の黎明は太鼓の音より明ける例年は除夜の鐘が送られるのであるが、本年は官幣大社橿原神宮の太鼓を打ち鳴らす、午前零時を期して大爺主典のかゝげる淨灯のもとに菟田宮司自ら撥をとり御垣内御饌殿に安置された大太鼓を打つのである、カット寫眞がその大太鼓であるが、之は今から十五年前同神宮神域擴張事業の記念に全國民から獻納されたもので直徑三尺、欅の刳拔銅製で例年元旦黎明に年號の數だけ鳴らしてゐたものだが、本年は特に紀元の年數二千六百回を十年一日として約三十分間に二百六十回打續けることになり、建國の聖地橿原からの大太鼓でほのぼのとこの意義ある年は明けるのである、續いて午前六時から國運隆昌、武運長久祈願祭を伊勢皇大神宮内宮神樂殿より中繼、七時三十分より安東の初鶯、大連の「初春の小鳥」か何れも初春を壽ぎ八時より旅順關東神宮御造營地で皇紀二千六百年の初日の出を拜して實況放送が行はれる、八時三十分廣瀬電々總裁の年頭の辭、九時より國民奉祝の時間、九時十分から別項の如き阿部首相を最初に講演挨拶がある、夜は七時三十分近衛公の講演、後は元旦に因んだ「紀元二千六百年記念の夕」が華やかに展かれる、二日は午前七時神社巡り明治神宮、十時三十分講演橋本虎之助、午後一時彈き初め、六時二十五分「年頭に當りて」森田弘報協會理事長、七時三十分「二千六百年所感」金子堅太郎伯、次いで三日は午後六時二十五分錦州入城回顧として錦州城東門よりの放送と座談會、七時三十分永田鐵相の講演等がある

地元の先陣
鈴木光童師

地元勢の先陣を承つてマイクに立つは元旦午後六時一分お晝の演藝に鈴木光童師が尺八獨奏「哈龍虚空」に一

彈初め
地元社中の、新日本音樂
以下二日分

二日の午後は彈初めで新京の新日本音樂、東京の大薩摩、ピアノ獨奏が送られます、地元勢の演奏曲は「榮えゆく御代」箏は小松雅容及びその社中、尺八は山本繞山と渡上廟山の三師【寫眞は（右）山本繞山師（左）小松雅容師】

何時に變らぬ見事な吹奏振りを見せられます

日滿支繋ぐ握手
五首腦者の挨拶放送

待望の二千六百年を慶賀する元旦午前九時國民奉祝の時間が終ると、同十分より二十分間阿部總理大臣の講演「紀元二千六百年を迎へて」を最初に梅津關東軍司令官、西尾支那派遣軍總司令官、岩村上海在勤海軍武官が各十分間づゝ新東亞建設の朝にふさはしい挨拶を日本、滿洲、支那リレー放送で送られる、これに晩の六時二十五分の星野總務長官の講演「年頭所感」を加へると日滿支がガッチリと年頭に結ぶ握手といふことになり元旦を飾るにふさはしいものである【寫眞は右上より阿部首相、梅津司令官、左上より西尾總司令官、岩村武官、星野長官】

一日のプロ

〇、〇〇（大阪）紀元二千六百年の黎明を告げる大太鼓＝橿原神宮より中繼＝

六、〇〇（名古屋）國運隆昌武運長久祈願＝伊勢皇大神宮内宮神樂殿より中繼＝

七、三〇（安東）初鶯

七、四〇（大連）初春の小鳥

七、五〇（新京）ニュース

八、〇〇（大連）皇紀二千六百年の初日の出を拜す＝旅順關東神宮御造營地より中繼＝アナウンサー金子蒔

八、二五（新京）挨拶「年頭の辭」滿洲電信電話株式會社總裁廣瀬壽助

八、三〇（新京）氣象通報

九、〇〇（新京）國民奉祝の時間（新京放送合唱團）一、君ケ代　二、滿洲國國歌　三、宮城並帝宮遙拜・四、紀元節二千六百年頌歌

九、一〇（東京）講演＝首相官邸より中繼＝「紀元二千六百年を迎へて」内閣總理大臣阿部信行

九、三〇（新京）挨拶＝關東軍司令部より中繼＝關東軍司令官、陸軍中將梅津美治郎

九、四〇（南京）挨拶、支那派遣軍總司令官、陸軍大將西尾壽造

九、五〇（上海）挨拶、上海在勤海軍武官、海軍中將岩村清一

一〇、〇〇（東京）雅樂一、萬歳樂　二、春楊柳　三、鶏徳

一一、五九（東京）時報

〇、〇一（新京）晝の演藝尺八獨奏「吟龍虚空」鈴木光童

〇、三〇（東・新）ニュース

一、〇〇（東京）謡曲「迎年新世・他」梅若萬三郎觀世鐵之丞

一、五〇（東京）箏曲「尾上の松」箏宮城道雄、三絃牧瀬喜代子、牧瀬數子

二、一〇（大阪）義太夫「御祝儀三番叟」文樂座連中

二、五九（東京）北米西部向海外放送＝吹奏樂（陸海軍軍樂隊合同、指揮陸軍軍樂長大沼哲、海軍軍樂長内藤清五（紀元二千六百年記念懸賞吹奏樂行進曲入選三篇（序曲祝ひ歌、行進曲太平洋、行進曲紀元二千六百年）

四、〇〇（東・新）ニュース氣象通報

五、三〇（新京）名曲鑑賞（レコード）ブランデンブルグコンチエルト第一番へ長調（ブッシュ室内樂團）

六、〇〇（東京）子供の時間、物語「君のみめぐみ」（與田準一作）安部季雄他、合唱みどり會、箏富崎富美代他、伴奏東京放送管絃樂團、編曲並指揮山田榮一

六、二五（新京）講演「年頭所感」國務院總務長官星野直樹

七、〇〇（東・新）ニュース、告知事項

七、三〇（東京）講演「紀元二千六百年を壽ぎ奉りて」公爵近衛文麿

七、五〇（東京）管絃樂一、越天樂（近衛秀麿編曲）二、交響長唄曲「鶴龜」（山田耕筰編曲）日本放送交響樂團、唄吉住小三藏他三名、三味線稀音家和三郎他三名、他囃子連中、指揮山田耕筰

八、二〇（東京）詩吟一、紀元二千六百年新春（蘇峰德富猪一郎謹作）山田積善　二、庚辰元旦讀神武紀恭賦（胥匡國分高胤謹作）伊藤長四郎他二名

八、三五（東京）國史劇（第一回）肇國（吉田絃二郎作）松本幸四郎外

九、三九（東・新）時報、ニュース、氣象通報、告知事項、明日の番組

一〇、三〇（新京）今日のニュース

一〇、四〇（哈爾濱）北滿の時間（露語）

二日のプロ

七、〇〇（東京）神社巡り明治神宮＝明治神宮舊殿並に第三鳥居脇より中繼＝

七、三五（安東）初鶯

七、四二（大連）初春の小鳥

七、四八（大連）入港船のお知らせ

七、五〇（新京）ニュース

八、二五（新京）氣象通報

八、三〇（新京）朝の音樂（レコード）新日本音樂一、君ケ代變奏曲（宮城道雄作曲）宮城道雄他　二、春の訪れ（宮城道雄作曲）箏宮城道雄、尺八吉田晴風　三、飛躍（久本玄智作曲）尺八倉川瀟山琴久本玄智　四、輝く陽（久本玄智作曲）尺八倉川瀟山琴久本玄智

一〇、〇〇（東京）講演「皇國を讃へたる歌」文學博士佐々木信綱

一〇、三〇（新京）講演「康德七年を迎ふるに當りて」協和會中央本部長橋本虎之助

一一、五九（東京）時報

〇、〇一（新京）晝の演藝喜多流謡曲「繪馬」笠井改

〇、三〇（東・新）ニュース

一、〇〇（新京）新日本音樂「榮えゆく御代」箏小松雅容社中、尺八山本繞山、渡上廟山

一、二〇（東京）大薩摩（一）五郎（二）牛若、唄大薩摩左近太夫他、三味線大薩摩文太夫他、笛堅田喜三郎、小鼓望月太左衛門他

一、四〇（東京）ピアノ獨奏（藤田晴子）一、春の囁き（ジンディング作曲）二、即興曲變ホ長調作品九〇ノ二（シューベルト作曲）三、紡ぐ女（ラフ作曲）他二曲

二、〇〇（東京）ラヂオ風景、ルミコチャンとお正月、第一話おばあちやん上京の巻（伊馬鵜平作）第二話初詣での巻（川島順平作）第三話田舎の巻（乾伸一郎作）第四話ひとり旅の巻（横山隆一作）中村メイコ、山縣直代、左卜全他

二、五九（東京）北米西部向海外放送＝歌謡組曲、初春のうた

四、〇〇（東・新）ニュース、氣象通報

五、三〇（新京）レコード

六、〇〇（東京）子供の時間、御民われ

六、二五（新京）講演「年頭に當りて」弘報協會理事長森田久

七、〇〇（東・新）ニュース、告知事項

七、三〇（東京）講演＝神奈川縣葉山金子伯爵邸より中繼＝「皇紀二千六百年所感」伯爵金子堅太郎

八、一〇（東京）講談「津田近江守」一龍齋貞山

八、四〇（東京）箏曲「松竹梅」唄上原眞佐喜、山勢松韻、箏今井慶松、中能島欣一、三絃宮崎春昇、山登松和、野榮松

九、〇〇（東京）浪花節、越後獅子祭（長谷川伸原作、畑喜代司脚色）春日井梅鶯

九、三九（東・新）時報、ニュース、氣象通報、告知事項、明日の番組

一〇、三〇（新京）今日のニュース

一〇、四〇（哈爾濱）北滿の時間（露語）

子供の時間　午後六時
御民われ

原作　安部季雄
出演　加藤光・他
合唱　長妻童謡音樂會
伴奏　東京放送管絃樂團
編曲指揮　長妻完至

御民われ生けるしるしあり天地の榮ゆる時にあへらく思へば

天地の榮える此の大御代に生れ合せたのを思ふと私たちはしみじみと生きがひを感じますといふ意味を詠んだうたです、私達はさういふよいお國に生れたのですから常に忠君愛國のまことをいたし、お國のために立派な御奉公をしなければなりません、この放送は私たちが日本に生れたよろこびを織り込んだラヂオヴアラエテイであります

4 長唄「小鍛冶」
5 合唱「元日」（相馬御風作詞、弘田龍太郎作曲）
ひふみよいむな、こゝのとを、いくどついても地におちぬ、私の羽子の行儀よさよきかな、おとのよきかな
6 合唱「手まりうた」
7 合奏「數へうた」（民謠）
一つとや、ひと夜明くればにぎやかで、おかざり立てたり松かざり
8 合唱「高い山から」（弘田龍太郎作曲）
高い山から谷底見れば瓜やなすびの花ざかり
9 合奏「大漁ぶし」（民謠）
一つトセ一番船に積みたてて川口おしこむ大矢聲この大漁ぶねア、コリヤコリヤ
10 合唱「愛國行進曲」内閣情報部選定

講談　津田近江守
一龍齋貞山
【後八・一〇】

淺野内匠頭の家來に岡島八十右衛門と云ふ人が居た、或る一日御前に於て軍學兵法の問答が行はれた、議論なかばに大野九郎兵衛が色色と口を入れるので岡島は怒つて九郎兵衛をたしなめた、これを根に持つた大野は八十右衛門が粗末な刀を帶びて居るのを見て滿座で恥をかゝす、夫れを知つた岡島の下僕直助は大いに口惜しがり、八十右衛門に立派な刀を作り大野をへこまさうと考へ、其の夜主人八十右衛門に書置きをして赤穗を出發大阪へ向つた、當時鍛冶として大阪で一と云はれた津田越前守宅を訪ね懇願の末弟子入をする、主人の恥辱をすゝがうとする直助の一心は他の弟子と比べものにならない程の熱心さ、寢食を忘れて修業し僅かなうちに立派な腕前になつた、餘りの上達振りに越前守より色々と尋ねられ今は直助は總ての事情を打明ける、越前守は今日此頃義理人情が薄れて居る世に主人の殘念を晴らし恩を返さんとするのは立派な心掛けであると感激し、これからはミッチリと仕込む、いよいよ腕は上達し越前守の向槌で一刀を仕上げ、名も津田近江守となり赤穗に歸り、八十右衛門に獻じ首尾よく仇を討つと云ふ津田近江守出世の一席

北米西部向放送
歌謠組曲　初春のうた
構成指揮　弘田龍太郎
【後二・五九】

合唱　ヴオーカル・フオア
管絃樂　東京放送管絃樂團
箏曲　秋元登喜井・他
長唄　杵屋佐潮・他

1 合唱國民奉祝歌「紀元二千六百年」（紀元二千六百年奉祝會、日本放送協會制定、高階哲夫編曲）
金鵄輝く日本の、榮ある光身にうけて、今こそ祝へこの朝、紀元は二千六百年、あゝ一億の胸はなる
歡喜あふるゝこの土を、しつかと我ら踏みしめて、遙かに仰ぐ大御言、紀元は二千六百年、あゝ肇國の雲青し
荒ぶ世界に唯一つ、ゆるがぬ御世に生ひ立ちし、感謝は清き火と燃えて、紀元は二千六百年、あゝ報國の血は勇む
潮ゆたけき海原に、櫻と富士の影織りて、世紀の文化また新た、紀元は二千六百年、あゝ燦爛のこの國威
正義凛たる旗の下、明朗アジアうち建てん、力と意氣を示せ今、紀元は二千六百年、あゝ彌榮の日はのぼる
2 箏曲「八千代獅子」
3 合唱「たからぶね」（本居長豫作曲）ながきよのとほのねむりのみなめざめなみかりふむのおとの

東京・本郷・神誠館

火曜　舊十一月二十三日　甲辰　先負　定　翼宿

●一白の人　殺氣充ちて時に或は口論を生ずることあり　巽と甲と癸が吉
●二黒の人　手心掛け引きの六ケ敷き日商事は殊に然り　乾と丁と東が吉
●三碧の人　文書の交換契約事には深き注意を拂ふべし　丁と甲と癸が吉
●四緑の人　自我の念を抑へ人に逆はずば無事なるべし　西と丁と癸が吉
●五黄の人　初めは捗らざれど追々と順調に進み行くべし　丁と辛と東が吉
●六白の人　次第に來る幸運を取逃さぬ樣に努力すべし　巽と甲と癸が吉
●七赤の人　己が欲する所に追々と近付き來る欣びの日　東と西と辛が吉
●八白の人　約束事は當てにならぬ日後日に讓るがよし
●九紫の人　淸淨を旨とし慾心を去り自然任せに動くべし　南と丁と北が吉

東京・本郷・神誠館

月曜　舊十一月二十二日　癸卯　友引　平　張宿

●一白の人　活氣滿ちたる天運日にて開店事業始め皆吉　庚と丙と甲が吉
●二黒の人　自由行動の執れる日引込思案は却て損あり　丙と丁と庚か吉
●三碧の人　暗がりに物を探るが如く思ふ樣にならぬ日　坤と丙と壬か吉
●四緑の人　依頼心を去り自力を本位として精勵すべし　丙と壬と甲が吉
●五黄の人　脇線せざるやうに本業を大切に守るべき日　丙と丁と乾か吉
●六白の人　仕入れと縁談は注意すべきも他の事は皆吉　丙と壬と艮か吉
●七赤の人　我意を通さんとするときは意外の失敗あり　乾と南と艮か吉
●八白の人　運氣次第に挽回し行く、日秩序正しく進べし　丙と丁と壬か吉
●九紫の人　人の事に口を出す時は爭を背負ひ込むべし　南と北と坤が吉

賀正　皇紀二千六百年

グレート赤玉
新京東一條通り
電話③四八五〇番
六七八一番

喫茶と食事 中央
新京吉野町二丁目
電話③三七六一番

カフエー亞細亞會館
新京東二條通り
電話③五七一五番
三五八四番

グランドカフエー大新京
新京富士町三丁目
電話③三四五六番
三六四七番

新京舞踏場組合
新京會館
モンテカルロ
扇芳會館

階下 カフエーモンテカルロ
階上 モンテカルロ舞踏場
新京特別市豊樂路七〇九

松竹
新京三笠町二丁目九
電話③五七三五番

大陸の龍宮 ミス東洋
新京南廣場
電話③三八二八番
五八二〇番

割烹 山茶寮
長春座前(電話③六七〇〇番)

すきやき専門 萩の茶屋
東二條通り(電話③六三三八番)

ノーブルサロン 新世界
ダイヤ街
電話③六一四八番

食道樂 かほる
大經路一二
電話(3)一二六二番

ランチと喫茶 美松
祝町(新キネ前)
電話(3)三五八八番

割烹 溫泉閣
新京ダイヤ街
電話(3)六二八五番
五二八五番

青葉
新京三笠町二丁目八
電話(3)二九四二番
五一六〇番

サロン 銀水
ダイヤ街
電話(3)三三七八番

ミユージックテイールーム 銀座茶苑
新京吉野町(銀座)
電話(3)二三四六番

喫茶・御食事 ミユージック
新京南廣場
電話(3)二八八〇番

カフエー 銀波
ダイヤ街
電話(3)三四七四番

香蘭
康德味覺
國都グリル
房產味覺
青葉グリル
野田市太郎經營

カフエー港
新京日本橋通六五
電話③五九一四番

土木建築請負 沖組工務所
沖城吉
電話③五六二九番
五九一四番
三〇九三番

グランド 銀パレス
大喫茶サロン 東京
日本調喫茶 ハリウッド
コーヒーサロン ニユウ銀座

カフエー精養軒

料亭千鳥

新京日日新聞　其五

新年文藝入選發表

恒例により本社が募集した新年文藝は滿洲文學興隆の機運と日本より滿洲國に寄する文化的關心の深さを反映して曾て見ざるまでの旺んなる應募を見、次に發表する如く優秀なる成果を見ることを得たこれはまた本紙に寄せられる支援の表示に外ならないと考へられ、われらは更にこの募集に參加された諸氏の熱意に感謝しなほ今後の渝らざる支援を賜らんことを希ふものである（本社編輯局）

新年川柳

何もかも改める氣のお元日

年賀狀羨子に行つた事が知れ

金のある顏して禮者やつて來る

バッサリと第一便は層舖へ來る

餅の數乾度食ふかと念を押し

創作（小說・戲曲）

一等　隣室（二十圓）　新京特別市永長路六號康泰莊七號　最上つかさ

二等　康吉の立志（十圓）　新京清明胡同三〇七ノ六　簡豐子

同　きれはし（同）　新京興安大路三三三第一盛滿ビル十一號　伊藤正次

選外佳作（各本紙三ヶ月分購讀券）

護滿始末の記　新京南嶺　濱泡六

流れ　新京興仁大路　伊達英明

時代の風のなか　齊々哈爾　河利致

うきぐさ　間島省延吉街　吉河總

交番のある風景　新京蓬萊町一丁目　神田林造

泥沼　梨樹縣新立屯　小松若人

（創作一等は本日附五ノ三に發表、以下は順次本紙學藝欄に掲載します）

新京建和街二〇二ノ七　山口千枝

（詩の選外佳作は順次本紙學藝欄に發表します）

詩

一等　粧（十圓）　靜岡縣濱松市高林町三一　巖土夫

二等　冬眠（五圓）　新京中央通　中原銳彥

三等　春遠からじ（三圓）　熊本縣阿蘇郡南小國村大字滿願寺七一三〇番地　北里悅雄

（以下一等五圓、二等各三圓、三等各一圓、選外佳作本紙一ヶ月分購讀券）

選外佳作

大陸と女　新京吉野町二ノ八　貫名津彌子

森の中で　新京東四道街立法院胡同八號馬公館內　佐々木豐子

よき支那の兄弟達よ　臺灣基隆市玉田町二連鳳方高山新晃

ながれ　宮崎縣仙臺市二十人町一五ノ一（山田德朗）マキ・桂月

靑年　秋田縣雄勝郡仙道村中泉　花岡復

蘇へる感情　新京興樂胡同二〇一　久留島テル

白樺よ

粧　巖土夫

夢の中にわたしはみました
花香を慕ふ蜜蜂を
含章閣の御殿の
うらゝかな柱の光澤のてり翳り
麗はしい公主壽陽姬　額にはらはら落ちかゝる
梅の花を
美しい十八の切髪のその飾を。

夢の中にわたしはみました
簪子のやうに煌くのは
白いあぎとの肉に動く鏡、あの歡び
水晶の屏風の
稜に夜來姬の額の血のにじむ——文帝の魏宮の
晩霞の粧を。

夢の中にわたしはみました
老母の教へ
死花をいだく悲しい地上の夕べが
壽光先生の上に明日訪れようとも
粧の手につねに光は遠く
心の襞れも消しいやす初春の紅い刷毛が走るのを
嗚呼みました
若い娘のあの珠のやうな頰に。

桃源の城

幾千里の平原の上に新しい大桃樹は立つ
大小の龍幹は旭の珠を抱き
いま、天地卓に祖を祭る
白銀にむせぶ赤蠟のうからの列は、雛のやうにいきほひ
帝德乾坤大　皇恩雨露深　と
紅紙の蝙蝠がまぶ
爆竹が音の輪を波紋のやうに展げてゆく
天の滿月——
地の紅燈——
十二支のわれらの眷族は風雲のやうに市や野に
黎明の氣流を流してゆく
みよ、盤旋する黃色の龍の尾を
桃源の城に五彩の長旆の生命を孕み歌ふ彼を。

鄂博

陸の燈臺ははてしなく砂海をひろげ
歩みくる船のなつかしげな眸に
泉のかはきを知りそれに應へる
一線の沙浪の界境を守るもの
彼の眼のあたゝかく半圓に死の思想はゐない
アルタイ・キルギスの民
轉生の彼方、天界へ躍りあがる星座に
巨大な遺骸のかげを風の砦にさらす今
背は堆く昨日の沙丘を負ひ
はてしなく杖をひく一日の太陽に牛羊と遊ぶだれか
汴舞するもの、こゝに何を高らかに歌はう
一彈のとゞきたつて土に突きささる空氣を
その魄を
鄂博ははるかな創造の地の流轉に瞼をあげてゐるのだ。

冬眠（外二篇）　中原銳彥

光の射さぬ　この都會の裏二階に
時代の濁流に　朽木求めて
疲れた肉體の怠性のまゝに
多眠の生活をすてきらぬ廢園か
あゝ　季節を忘れた渡り鳥の巣よ。
混濁の畑の中に　滅びゆく理想の光
凍れる鑵詰をつゝき　酒をあふる
壞れたギターに　挽歌を唄ふ
あゝ　埋沒への悲慘なる聲と聲。
今年はくと　その訪れさえ消えて
今日も　屋根の切窓に降る雪よ
失くした青い蕾よ　冷き口唇の夢
あゝ　靜に改悔の花が散る
遠き國へと　心躍らせ
飛び去つた鳥に　あこがれる私か
來る日も　來る日も、鎖された檻に
あゝ　懐疑を唄ふ鳩時計のごとく。

爪

そのうらにかくされた、れきしがあつた。
そして、ひめられた＿わたしのうんめいが——。
なにか、わびしい、ひさめのよる。
よごれた、つめを、つんでみる。
もゝいろのみかづき、それもやがてなくなるだらうに……と。
とほくはない、このあめのあすにと、さゝやくものがゐた。
つめ、それは、わたしのひさんなせいちやうでしかなかつた。
うつくしい、かひがらのやうなつめ。
わかれたをんなの、つめをみがくげんえいが……。
にぶいひかりのなかに、わたしをわらつてきえた。
そのうらに、かくされた、れきしがあつた。

雪雲

汚れたパステル畫を懐に入れて
さて　凍てついた町を歩いた
冬空に飛ぶ白い雲に　湧き出る哀情をどうしようかと
ぽつねんと愚念の中に　朱と緑の風車が
廻つてゐるだけ　苦惱の時が流れた心
唯一つ　煤煙深き町に向つて
呼んで見たい追憶とてなかつた
白い季節の感覺に　塗り變へられた廣告板　かた眼の
ブルドック　町の子の蒼い歌
町は明日の表情に暗い
どれも　これも新しい悲哀を想はせる
燻ぶり續けた流の中に　總てを燒き捨た私　さうだ
私は行かねばならぬ　新しき地殼を求め　信じられぬ海霧を衝いて。

春遠からじ　北里悅雄

眞珠のやうな水星と木星とは私の望遠鏡から遠ざかつた。
然し私は希望の春を待つ。
朝は金星の瞬きに眠覺め
夜は土星の可愛らしい假裝眼鏡を覗き乍ら
私は新らしい明日を迎へようとしてゐる。
沈み行く秋の星星、ペガソスの思ひも昨日の唄の一つとなつた、
私の眼に甦るその唄の數々よ。
雪を被く山岳の幾何學的稜線上にペガソスの理知の唄だけがまだ佗しく私を呼んでゐる。
私は永い間それを求め乍ら歩いてゐたのではなかつたか、
だが私は昨日のやうな理知の唄をもう歌ふまい、そして
春へ向ふ十二月の唄を、
北天のカシオペヤの不可思議の情熱の唄を、
永遠に易らぬ人間性の情熱の唄を、
名も知らぬ母のかざしのやうな北十字架を仰ぎ乍ら、
オリオン十二月の光の中に果てもない希望をつなぎ乍ら、
私は明日を歌ふのだ。（完）

短歌

一等　巨き太陽七星礑子（ちいしんらーづ）に輝きて三江省は晴れわたるなり　樺川縣彌榮村現地訓練所　大瀨宵雨樓

二等　新らしき力興りて新年とともに生れむ國をこそ思へ（汪政權）　豐中市麻田町刀根山病院中三號館二號室　杉山平

同　午前二時巡邏終りてかへりきし分署の門に初鷄をきく　新京憲兵分隊　小池馥雄

三等　大亞細亞興さむ心燃やしつつ年のはじめに祈ること多し　北海道岩見澤町六ノ七細田方　三ヶ島潤一

同　今年こそ母說きふせて移民せん望みに燃えて初日を拜ぐ　新潟縣刈羽郡中里村二本柳　竹部英郎

同　木麻童の獅かなる實の散る庭を見と驚ひつゝ拾ひたのしむ　臺灣臺中州彰化女子公學校　鄭嶺雪

選外佳作

大君に召されし夫の御寫眞二千百九十回の飯たてまつる　新京蓬萊町一ノ官舍一三笠森方　旭敏子

み召されし馬がこぼせし麥種のこゝだく生えて春立ちにけり　東京市外東村山局私書函二號　尾加保夫

雪あかる宿直室の暖かくけさの目醒めに小竹の鳴る音　島根縣松江市雜賀西田中　神西哲夫

いたつきの心やすらはず暁に雀の聲を我がききて居り　新京通化路七六九　岡木志室

天放るひなの乙女の腕太く銃後の田畑安らけくあり　羅津府須川町平尾分　桑原シナ子

大陸に今し發ち行く初移民新村人の名を語り合ふ　山口縣玖珂郡米川村上代　河口宏美

ひむがしの空を仰ぎつ拓士らが凍土に揚ぐる國のみ旗を　吉林大吉林社　楠南木

新しき亞細亞を摘る年明けぬ地平の涯の巨き日輪　東京市日本橋區通三ノ七吉田方　渡邊あき子

おもひつゝ死にけむ夫が遺兒守りて聖恩のもと敎諭拜命す　福岡市外箱崎町東今宿二、三一五　宗多美子

川柳

一等　萬歳を聞くたび祖國遠くなり　島根縣松江市寺町　黑目大鳥

二等　空襲のない正月の灯へ坐り　東京市葛飾區小菅町八〇一　吉田松菊

同　七分搗三分は口と腹でつき　新京新發屯　暗象

三等　國策へ古外套の氣の强さ　吉林市大吉林社　楠南木

同　應召にひげの型をば先づ思ひ　羅津府顯川町平尾方　桑原シナ子

同　七合の餅を分けたい慰問なり　新京梅ヶ枝町三ノ一〇ノ二　鈴木タヱ

選外佳作

見返してやる氣であつた露路に住み　岡山縣兒島郡福田村　板谷章平

國策をうなづいて食ふ七分米　小倉市香春口松竹館　中川猛夫

髮だけは課長位の形になり　橫須賀市追濱一五六　伊藤正次

これだけは信じて欲しい女泣き　樺川縣彌榮村現地訓練所　大瀨宵雨樓

大陸へ次男三男控へ居る　宮城縣玉造郡忠首村岩入六六五　高橋長行

正月をせめて子供の國に住み　京都市烏丸八條下ル一四　石橋渡

滿洲の廣さへ初日みな屆き　東京市王子區東十條一ノ五ノ二　門井斗人

俳句

一等　みいくさははるけく海の星凍る　三重縣度令郡豐濱村　蒲原一明

二等　雲凍みて望樓にほそき月ありぬ　新京北安路三〇二號　筧柿青

同　雪かけば青空ありぬ明り窓　千葉縣銚子外川町一丁目小林方　吹井朝男

三等　彈痕の径みさびしき霜夜かな　愛媛縣東宇和郡中川村　三好喜代馬

同　聖戰やまろき銃後の初日かげ　新京室町二ノ七　尾代菊江

同　草萠ゆる砲座しづかに焔を吐かず　三重縣度令郡豐濱村　土生豐

選外佳作

元日の凍てし野を征く兵ありぬ　島根縣ヶ川郡知井宮村本郷五七六　弓田いづも

初日影ひきつゝ詣で船發ちぬ　東京市下谷區豐住町一一平村信夫方　志摩百合子

大淸朝起りし古都に居蘇祝ふ　新京興安大路興安ビル二階十號　井上野洲

枯草の日向に想ひのせて居る　東京市向島區吾嬬町西二ノ一〇一顧問淸作方　風間蕩子

初空や銃座に鈍き番明り　香川縣木田郡庵治村六〇三四ノ一　森ヨシ子

凍てる夜を夜光の針の動くあり　新京金輝路△寮　中野洋一

運勢判断　あなたの今年

◎一白水星

興亜日本躍進の新年ではありますが、あなたの今年は進取よりも退嬰がよく、總て油斷は禁物、しつかりと心を締めて、日本國民としての奉公にいそしむべきです。表面平穏、内實頗る不和、本命生氣の特長ですから附和なさい。親戚友人に不和を生ぜぬやう充分戒心して、家事に精勵するより外ありません。

運勢判断　あなたの今年

◎四綠木星

波瀾の多い今年の運勢を活用して、七轉び八起き、たとへ躓き倒れても、只は起き上らぬほどの勇氣と努力とを失はねば、あなたの今年は決して凶運ではありません、超非常時局の今日ですから、如何なる場合も決してヤケを起してはならない、百折不撓の勇猛心を起して、荒れ狂ふ波を乗り切る覺悟が肝要

運勢判断　あなたの今年

◎七赤金星

幸運の年です、眞面目に出精すれば、望みは總て成就します 若し今年あなたが幸運でなければ、それはあなた自身が、幸運を振つてノックアウトしてゐるのです。至誠、堅實、精勵、無慾であれば、あなたの一身にどんな不測の災厄がふりかゝらうとしても、運氣旺盛、決して惡魔に取付かれる隙はありません

堂々・興亜日本の初日の出

今年から屠蘇にも酔はず奉公日

興亜奉公日

お雑煮の餅を母親統制し

運勢判断　あなたの今年

◎二黒土星

盛運の年ですが、決して氣を許してはなりません、常住座臥も飽くまで沈着肝要、辛抱大事、この興亜新年に處して自分を大きくする爲には 刻苦精勵、どんな不自由でも忍んで國策に順應し、滅私奉公に一身を捧げる覺悟がなければなりません、一家の和合と健康に留意し、一時の屈從を忍びなさい。

運勢判断　あなたの今年

◎五黄土星

平運の年だが、よく堅忍自重すれば運氣好轉して希望を達成することが出來る。然し若しも眼前の利慾に迷ひ、我儘勝手の振舞多ければ失敗損失、一家不和、思はぬ悲運を招くことになるから、國策に殉ずる覺悟で滅私奉公が何より肝要、欲を出さずに働けば、平凡ながら大過なき一年を過す事が出來ませう。

運勢判断　あなたの今年

◎八白土星

思ふこと成らざるなき盛運の年です、今年こそあなたは思ひ切つて事業を擴張し、希望を實現しなさい。必ず好結果を得られます。だが然し、慢心、油斷の生じ易い爲に、折角の盛運を自分で追ひ返す譏がある。盛んなれば滅ぶといふ語を心に刻んで、決して今年の運氣を取逃してはなりません。

運勢判断　あなたの今年

◎三碧木星

運氣不良、あなたは今年不安と疑心と困惑とに閉されて、進むことも退くことも出來ますまい。面白からぬ事ばかりに周圍を包まれても、くよ〳〵せずに興亜日本の國民として至誠奉實を旨とし、奮勵努力なさい。一身を慎しみ、奉公にいそしめば、たとへ運氣は不良でも大過なき一年を過し得られませう。

運勢判断　あなたの今年

◎六白金星

起伏あり、變化あり、喜悲交々到る今年です、それだけにあなたの運勢をあなたの力で吉凶いづれにも轉換し得る譯です、自分の運命を自分で開拓する決心で、邪心を去り、急がず焦らず、誠實以て事に當り、一身一家を治める自戒自勵が肝要です 國家非常の秋、あなたの一身も非常時だと心得なさい。

吉

凶

運勢判断　あなたの今年

◎九紫火星

まだ〳〵運氣が開けない、事を欲すれば九に控へ、總て用心堅固に自戒するが肝要、着實に努力すれば、運氣を開いて次第に目的達成の曙光を認めることが出來る。自ら禍を招くが如きことなく、飽まで慎重に萬事に當り他日に成功を期して、今年は基礎を固めるつもりで努力しなさい。

新年文藝　創作入選

隣室（二等）

最上つかさ

十一月から十二月いつぱい、この二ヶ月間。年末繁忙期應援のため、社命に依つて新京へ出張して來た私は先づ何よりも驚いた事は住宅難の豫想以外な事であつた。現在私が居るこの部屋を心配してくれた新京の同僚の話ではないが、時によると、人殺しのあつた直後まだ生々しい血痕が壁や疊に附着してゐて後片づけも何もするまもない、大騷ぎの最中でさへ、くだんの部屋の借用を申込む者がある位だと云うた事があつたが、私はその餘りの誇張さに、思はず彼の話に調子を合せるのも忘れて、たゞ呆然と彼の顏を見つめたものだつた。

しかし今になつて考へれば彼の話も案外、人驚がせな誇張ではなかつた樣に思へる。で、この部屋へ私を連れて來た時も、まあ汚いが我慢するんだナ、何、二ヶ月位だから辛抱出來るだらう――實際、新京ぢや贅澤は云へんからナ、と彼は得意げに云ひながら呵々と大笑したものだつた。

もつとも彼としては子供の多い私の經濟狀態を深く考慮に入れての計らひには違ひないけれども、私にしてみれば、僅か二ヶ月の間でもある事だし、それ相當の日當も頂いて來て居る事でもあるのだから、少々位値を張つても小綺麗な部屋が欲しかつたのだが、萬止むを得ず借用することに決した。

元來、私は部屋のなかを明るく賑やかにして置きたい方なのだが、私に當がはれた部屋と云ふのは、凡そ私のかうした希望や趣味を全く無視した、云はゞ何ら取柄のない六疊で、妙に薄暗くうつかりすると妄想にとりつかれさうな部屋である。私は仕方なくあり合せの雜誌から、二・三枚の口繪を切りとつて壁のあたりを飾つたりしてみた。が、然しそんな事で私の氣持が滿される道理はなかつた。

――二、三日ほど經つて、私は自分の部屋の隣室に、十五・六歲の少年が下宿してゐるのを知り、もと／＼少年に對して特に好感を抱いてゐる私は、ホッと救はれたやうな思ひになり譯もなく、內心、かの少年をよき話相手にもと一人ぎめに決めこんで機會でもあらばと思つてゐた。

實際、變に世間ずれのした大人よりも人生の觀方や物の考へ方などは、勿論、幼稚でもあらうし、現實に即しない點もあらうが、或る場合などは、むしろ少年の方の觀察が鋭く、大人の胸を衝くものすらあるのだが、私は何よりも、少年の玉の如き純眞さを愛するのであつて、つまり私は少年に接近しながら今は遙かに過ぎ去つてしまつた私の幼い圓やかな魂の響に耳を傾けようと試みるに過ぎない譯である。人はローマンチツクな奴だと笑ふかも知れないけれど、幼い者の魂は大人の魂を一時にもせよ淸らかに洗つてくれる事は確かである。

其後、私は彼に接近すべくかなり努力を拂つた。しかし何ら好果はみられなく、例へば、朝に顏を合した時など、私に朝の挨拶をされるのを恐れてかこそこそと逃げるやうにして行つてしまふ。その後姿をやゝ暫く私は馬鹿みたいにぽんやりと、見送るより外はなかつた。たまに、私が、早いね　とか　寒いね　とか簡單な言葉をかけると、ええ　と煮え切らない返事はするものゝ、それも私に言葉をかけられて仕方なしにすると云つたふうの態度には、いくら少年好きの私でも、むつとしない譯にはゆかなかつた。私の狹い量見かも知れぬが、全く彼のために砂を嚙まされた心地になり、いかに性格の相違とは云へ情けなく思つた。止むなく私は彼に對する接近を斷念する事にした。しかし時折私は彼の部屋と私の部屋の境界にたてられた古すゝけた唐紙の松葉模樣を空しく眺めるのであつた。

私はこゝで、本篇の筋を運ぶ都合上、さほど重要な事でもないがこの家の女主人――おかみさんのことを少々書いて見ようと思ふ。

彼女は滿洲事變勃發二年前、夫と息と橫濱から遙るばる渡つて來たのださうだが彼女の夫は非常に多忙な仕事を持つてゐて、ひと月として家庭に居つあたゝまる暇もなく、現在も北支の方へ出向いてゐるさうである。

初め私はうつかり彼女の話に相槌を打つゝもりで、それぢや奥さん淋しいですねと云つた處が、急に彼女は、女優でも出來まいと思ふほど深刻な表情になり、見る目も氣の毒な位、淋しい顏付をしながら際限もなくのべつ、遠い昔話から、ほじくり出して來ては彼女の夫の事を話すのであつた。これには流石の私も、如何とも仕樣がなかつた。

しかし彼女の表情は正に堂に入つたものだが、その話す言葉には何んら技巧がないために、聽く方の私にはすこしも實のある話としては受取れない許りか、却つて、ペラ／＼と息を吸ふ暇もなく動く滑らかな唇を見てゐると、何かゼンマイ仕掛の玩具の動きに似てゐて、時々こみ上げて來る笑ひに苦しむ事さへあつた。それでも彼女の夫の話の間は我慢も出來るが、一旦息子の話に轉換したとなれば大變である。大體私の見る目では彼女は四十一か二であらうと思ふてゐた處ひとり息子の彰が卅二だと云はれて吃驚りしたが、案の條、實子ではなく養子なのだつた。彼女の話の順序は必らず、彰も獨り身の時分には全く孝行者で、殊に家には本當の親にだつて出來ない位親切な子だつたんですがね、ホヽヽ、出來るものが出來ると、かうも變るもんですか！と次第々々に惡口となり、結局現在の息子の蔭口となり、嫁さんの惡口と化し、果ては彼女自身がまくしたてた、おのれの提言にぐんにやりと醉ひつぶれてしまふのであつた。それでも、彰が勤めて居る會社の話になると、『なんと云ふても滿洲一の大會社ですから、そりや給料だつて、ボーナスだつていゝですからね、本當に他の處なんかとは比較にならないでせうよ、同じ勤めるんでしたら大きいとこネ　それに彰は相當、古株で、あれでも隨分信用があるらしいんですつて、ホヽヽ』と笑ふときもあるが、實によく感心するほど快よく彼女は笑ふのだ。

彰夫婦は私が來る一週間前に、內地へ、實母の病氣見舞ひのため發つたのであつたが、實母の病勢は快方に向つてゐるので結局は實母の家で正月を迎へる豫定で歸國した譯であつた。おかみさんの話もそろ／＼鼻について來た頃、私は計らずも隣室の少年の話を耳にする事が出來た。

おかみさんは彼女にしては珍らしく案外落付いた話ぶりをしながら、カンさんは內の彰が世話をして彰の會社へ給仕に入れてやつたのだけれど、何しろ滿人ですからお給料も知れたものでせう、それに臨時採用だから猶更駄目なのね、せめて本採用になれゝば大分違ふさうですけれども、でもあの子は感心に家へはキチン／＼入れてるし、その外にも時々、親の所へお金を送つてゐるらしいのよ。本當に不思議な位ですわ、どう云ふ字を書くかは知れないが、カン少年が、部屋に閉ぢこもつて懸命になつてゐるのも、本採用試驗のパスを目的としたもので、つまりは臨時採用の不安定な足場と、そしてそれ故の薄給と、又それ故の忍從と焦躁と沈默から脫出しようとしてゐるのだつた。

おかみさんは自分の身につまされるやうな表情で、しんみりと、うまくゆけば結構ですけれど、前の時のカンさんの落膽振りを思ふと、試驗なんか止してしまつてその代り眞面目にうんと働けばいゝぢやないの、わたしならその方が一番安全で間違ひのないところだと思ひますわ、そりやいくら滿人だからつて、勤め次第で昇つて行けると思ふけどね！　第一あんなに無理をしたんぢや、いくら若い者だつて――生身のからだですから。

私は內儀さんの言葉に一も二もなくうなづいた。

――或晩、それは記憶すべき晩であつた。カン君と私の部屋の境界線――鐵の唐紙が靜かに開いたのにはやたらに煙草を喫み乍ら、無聊に苦しんでゐた私も少からず驚かされた。カン君の蒼白な顏には焦悴の跡があり／＼と浮んでゐた。無口な彼から試驗は昨日濟んだと聞いて私もホッとしたが、あたら靑春にそむいての苦鬪を了へた彼の疲れ切つたやせ細つた姿を見てゐると、何故か私は自分の背骨が急にさわ／＼つと寒氣だつて來てならなかつた。

彼が去つてしまつてからも、今まで座つてゐた彼の姿が唐紙に黑々と見えたり、彼の自嘲にも似た妙に甲高い笑ひ聲が耳の底から聞えてきたりして仕樣がなかつた。

カン君が私の部屋を訪れてから五・六日も經つたらうか、私がＷＣへ階下に降りて行つた時配達の聲がして一通の封筒が私の足もとまで飛んで來た。拾つてみると韓君宛の私信で裏面にＭ生と書いてあつた。一見して女の筆跡と分る。私は何かのつながりを探るやうに裏と表を二、三度見返してみた、一體第三者の想像力はこの種の手紙に對してはより敏感であり、飛躍し勝ちなものではあるけれど机の前にしがみついてゐる彼の姿を想ふと、私には却つて皮肉にも滑稽にも思はれるのだつた。

手紙を持つて私が韓君の部屋に入ると、どうしたのか彼は机の前に坐つてはゐなかつた。兩足を机の上に投げ出して兩の手を頭に下に組んで兩ひぢを張つて、仰向けに寢轉んでゐた。が電氣に打たれたやうにむつくり起き上つて、私から手紙を受取つた。私は彼に幾度も／＼頭を下げられて狐につまゝれた心地で私の部屋へ戾つた。

內儀さんの話によると其後もひんぴんとして例の手紙が來るさうである。別に私は詮索した譯ではないが、矢張り內儀さんの報告によると、相手の女と云ふのは、喫茶店に働いてゐるらしく、內儀さんが現に二、三度その喫茶店の前でその女と韓少年が立話をしてゐたのを見たのですからきつとあの女に間違ひないですよ、けどね、女も女だわ、滿人の韓さんにね、本當に二人ともどんな氣持でゐるんでせう、まさか、そこまで協和するつもりぢやないでせうがねホヽヽ、

第三者として私はこれ以上　つまりＭ子なる日本娘が韓少年の彼女として韓君の胸中に君臨し、又韓がＭ子なる日本娘の彼氏としてＭ子の心臟を愛撫するに至つたその發端、經路及びその方面等には興味を持つ事を躊躇してはゐたが、自然內儀さんの必要以上の詮索や關心を淺間しく思ひつゝも、つい韓少年の試驗の結果がはたして如何なつたかも忘れてしまつてゐるのであつた。

早やすでに街はナス景氣とそれを當てこんでのあはたゞしい賣出し騷ぎに滿ちて來、私の出張日數もあと僅かに迫つて來たゝめか私の氣持も妙に忙しくなり、セカ／＼しながら、歲末の雜踏の中にまぎれ込みあれやこれと、子供達の土產物にかなり手間取つて歸へる途中、ふと、すれ違つた、マーチヨに、韓少年が、人目をひく美しい滿人娘と同乘してゐるのを見てハッとした。韓君も私を認めた視線を輕く外してしまつたが私は思はず立止つて次第に小さくなつて行くマーチョの後を見送つた。昨日から少々風邪氣味であつた私は歸宅するとすぐ、階段を上らうとする處を內儀さんに呼び止められた。流石に私も今日だけは靜かにやすみたかつた。話もしたくなかつたし聞きたくもなかつた。殊に內儀さんに無目を大きくぐるりと廻された時にはうんざりした。强ひて話題に誇張した興味を暗示しようとする彼女の表情には、今では嫌惡を感じてゐる私なのだ。しかしいゝ鹽梅に私か風邪氣味で少々頭痛するか　と何氣なく云ふと內儀さんも話をぶつゝり切つて呉れた。機會をはづさず私は部屋に歸るとすぐ寢床にもぐつた。なか／＼眠れなかつた。眠つてもすぐ目が覺め、唇が乾いてどうにもならなかつた。私はトランクから用心のため持つて來た風邪藥を取りだしてのみ、それから熱い瞼を閉ぢた。

目をつむると階下で內儀さんは、まあ韓さんはどうしたんでせう、何時もならもう下宿代も拂つて呉れるのだけれどまだ、そんな素振りも見せないのよ。それに今月はボーナスもたんまり入つたんでせうにね　とこぼしながら私に示した二通の手紙と一通の書留が浮んで來て困つた。白い封筒の方は、私には見覺えのある筆跡で勿論Ｍ子からのレターであるが、もう一通は濃厚な綠色の封筒で、私も初めて見る手蹟で、裏面には宮津生と書いてあるが、矢張り女の手蹟であつた。

書留の方は彼の親から來たもので、かなり分厚な手紙が入つてゐるらしかつた

私はうと／＼としながらその白と綠の二通の封筒の中に秘められた、ほのかな女の香や、女の筆跡のなよなよとした媚態の强弱、濃淡等々を比較してゐる內に何と云ふ事だ。

白と綠の封筒が一通の書留を中に挾んで必死に奪ひ合つてゐるのだ。私はあまりの恐しさに目を掩ひたい位であつたが、三度四度、書留の朱印がそり返つたり縮んだりしたと思ふと、封筒もろとも二つに引きさかれた手紙と小爲替がバサリと疊の上に落ちた。

私はとにかく寢床から這ひ出た。そして自分の妄想から逃れるやうにフラ／＼と窓の方に歩いて行つた。私は暫くの間、窓の冷たいガラスに熱い額を寄せてゐた。

次第々々に明るみを增して來る大陸の夜明け、一點の雲すらない大空は、みるみる光にかゞやいて行くのであつた。

僅か二ヶ月に滿たない間にしては驚くべき韓少年の變化である。今となつては私が彼の試驗の結果を案じないやうに彼自身にとつても、そんな事はどうだつていゝに違ひない。否それよりも、今彼は第二の試練に向つてばく進してゐるのだその相手は內儀さんの云ふ日本娘であらうと、私が昨日みたやうな、滿人娘であらうと、どうでもよいのだたゞ韓少年の魂が、大陸のあけぼのの如く、ぐん／＼と明朗に輝き成長して行く事を私は願ふばかりである

記憶すべきあの晩以來、依然として韓少年の部屋と私の部屋の境界は松葉模樣を散した古すゝけた唐紙によつて斷たれてはゐるが、それも時の問題であらう。

すべてに時代の巨大な流れが、解決するのだ。私は協和服に胸を通しながら、珍らしくも、少年のやうに晴れやかな氣持になり、何かしら胸中に希望が湧いて來る思ひがしてならなかつた。（完）

▲……橙　坂口一草

康吉の立志（一）

筍　豐子

彼の本當の名は李裕石、牛島の江原道が故鄉である。貧しい父母の許から、新京の伯父の店に引取られた時、康德五年だから、康吉にしようか、五助にしようかと言はれたから一も二もなく康吉と答へて以來、本名は全く忘れられてしまつた。彼自身、始めは頗る康吉が氣に入つて居たが、此の頃はそろ／＼それにあきて、靑木秀一と言ひたいと伯父に相談した所が、生意氣な！、田中商店の康吉でも分にすぎて居るとこつぴどく叱られてしまつた。滿一年半、滿語も少し覺えたし、喧しく言はれて來た國語は全く上達した。田中で通して居る彼の伯父は、國語はまるで內地人に變らぬばかりか、彼の目から見れば驚くべき學者であつたなかなか立派な嚴格な顏をして居るので、初對面の時は畏れをなしたが、行つてから二三ヶ月程は實に優しくて寬容だつたので、何時か本當に肉親である親しみを感じて、心配して居るであらう母親の所へ、こちらの自慢をうんと書いてやつたのも、あながち安心させる爲ばかりではなかつた。しかし、それは子供の甘い見方で、そろ／＼伯父も本式た躾けをしはじめたし、浮世の辛さがどうやら骨身にこたへて來はじめた。

大體、伯父の「田中さん」は、洋服屋といふ商賣がらモダンで近代的な樣子のくせに、頭は相當かたいのである。人々から言はせるとなか／＼商才のある頭のいゝ男ださうだが、反面頑張り出したらどこまでも自說を主張するので嫌はれる所も多い。とも角、新京で商賣を始めた時は、二十圓しか持つてゐなかつたのが僅か二年半でこれだけの洋服屋を持つたのだから偉いにはちがひなかつた。店の內面はまだ／＼相當苦しいらしかつたが……

今年の冬は康吉に協和服と外套をつくつてくれた。新しくてなか／＼立派である。康吉は有頂天に嬉しがつたが、さうなると、靴が氣になり出した。皮は皮だが、ひどく傷んで、見れば見る程、情けなくなる代物だからだ。彼は店に居る時はその靴を絕對はかない、そこらにある履物をつッかけて間にあはす。田中さんはそれをよく誡める。大體一年半位でそんな靴をいためるやうな人間では駄目だ、と立腹である。或時、誡めたついでにこんな話をしてくれた。

「昔、或る所に大變貧乏な兩班が居た。其處に一人の友達が遊びに來た。御飯時になつたので其の兩班が、歸ると言ふ友達をしきりと引き止めて、どうしても御飯を食べて行けとすゝめた。隣の部屋できいて居た奧さんはお客さんに出すお米がないのに困つた事を言ふ人だと思ひながら心配して居ると、とうとう友達が「そんなら……」と言ふわけで腰をまた据ゑる事になつた。そこで奧さんは仕方なしに、近所にお米を借りに行かうと思つて裏から外へ出ると、丁度部屋の前にはお客樣の履物しかなく、夫がお便所に入つて居るらしい。そこで細君は、早速、お便所の前に行つて「本當に貴方も困つた人ですね。折角お引止めしても、御馳走するお米すらないではありませんか」などと散々愚痴を並べた。お便所の中の主人はうんともすんとも言へず默つて居る。それでまあ奧さんはすこし胸をはらしてお米を借りに出かけた。ところが、何ぞはからん、便所の主は、當のお客さん自身で、一寸主人公の履物を失敬して出た爲めに、とんだ失敗を演じたわけだつた。そこでお客は部屋に戾るなりどうしても歸ると頑張り出した。なにも知らぬ御主人、そんな馬鹿な話があるか。どうしても歸さないとばかりお客の履物をかくしてしまつた。そこへ奧さんがお米を持つて歸つて來たが、ふと見ると、お客の履物がない。てつきり歸つたものと思ひこんで、客間の前に行つて「貴方と言ふ人は全くあきれた人だ。人が折角お米を借りて來たら、もうお歸ししたなんて、そんならそれで、さつき、何んとかおつしやつて下さつてよさゝうなものなのに……。」と又愚痴をこぼした。さあ、部屋の中の主人公もお客さんも、赤面してしまつて、どうしていゝか、わからない。後でさうと理由がわかると、奧さんは知らないでとは言へ、他の男と口をきいたり、そんな恥かしい事を言つたと言ふので、自殺してしまつた。お客はお客で自分の粗忽の爲に人を殺して濟まないと思つて、これも自殺した。主人も二人が死んだのに、自分ばかりが生きても居れないと言つて、とうとう三人とも死んでしまつたと言ふ事だ。だから決して人の履物なんか履くものぢやない。」

康吉は暫く感心した顏付でつく／＼きいて居たが、眞面目な顏で

「それ、本當のはなしですか。」

「本當の話だ。」

「履物なんかで命を捨てては、つまらないです。」

「つまらないとも。だから……。」

「死なゝくてもいゝのに……。」

「そりや昔の人は名譽をとても重んじたからさ。昔の兩班は淸貧を尙ぶと言つて、貧乏はして居ても名だけは重んじたのだ。だから詰らない事でも恥だと思つたら、死なざるを得なかつたのだらう。」

ふうんと納得したやうな顏付だつたが

「伯父さん。伯父さんも兩班でせう。」

「さうだ。」

「僕の家は何故ちがふんですか。」

「三代、お役人にならなかつたからだ。」

「三代ならなければ、兩班ぢやなくなるんですか。」

「三代も官職につかなければ、何か他の商賣をしなくちや、生活出來ないだらう。」

「あゝ。他の商賣したら常民ですね。」

「さうさ。內地で言へば町人だ。」

「でも常民でも偉くなつた人、澤山居るでせう。」

「そりや居るさ。常民でも何でも、出世して國の爲に盡せば偉くなるさ」

この話は康吉に深く響いた。以來、どうしたら偉くなるかと考へて見る。

と言つて他人の履物をはく癖が全然止んだわけでもない。殊に下駄は突かけるのに便利だから、どうしても足が其處に行く。

賀正 皇紀二千六百年

南滿洲瓦斯株式會社
大連市常盤町

滿洲電業株式會社大連支店
大連市常盤町

大連都市交通株式會社
大連市常盤町

滿洲化學工業株式會社
大連市甘井子

滿洲石油株式會社
大連市甘井子

國際運輸株式會社
大連市大山通り

森永製品滿洲販賣株式會社
大連市常盤町三番地
電話(3)四九四四番

横濱ゴム製造株式會社
工業用ゴム製品滿洲北支總代理店
福幸公司
本店 大連市監部通五二番
電話(2)六一三一番
支店 奉天、新京、哈爾濱、齊々哈爾、天津、北京

滿洲曹達株式會社
大連市甘井子

滿洲特產專管公社
大連支店
大連市山縣通二二四番地

大連製氷株式會社
大連市常盤町二三番地
支店 新京、青島、旅順

營業部門・機械部・煖房部・水道部・時計部
株式會社西川商店
本店 大連市紀伊町二〇一番地
出張所 北京、天津、青島、東京

西川商工業株式會社
本店 奉天大和通榕濃町十三番地
支店 新京豐樂路七〇五號地

株式會社福昌公司
大連市山縣通二一三番地

大連株式商品取引所取引人
滿洲證券取引所取引人
射越屋商店
大連營業所 大連市愛宕町二番地
電話(2)[illegible]
奉天營業所 奉天 加茂町十三番地
電話(2)[illegible]

アサヒビール・サッポロビール
大日本麥酒株式會社
滿洲出張所
大連市山縣通東拓ビル

高岡組
社長 高岡又一郎
大連市山縣通五十番地

滿洲電信電話株式會社
大連管理局

陸海軍御用達
製菓卸問屋 木村屋
木村正名商店
大連市若狭町一九九番地
電話(2)六八六八番
第二工場 大連市若狭町一九七番地
第三工場 大連市青雲台六六番地

福昌華工株式會社
大連市埠頭構內

大連醬油株式會社
社長 松田淸三郎
大連市台山町二番地

日滿商事株式會社大連支店
大連市東公園町

三井物產株式會社大連支店
大連市山縣通り

日本タイプライター株式會社
大連支店
大連市山縣通一〇五番地

國產自動車用品並に
機械工具類理研錄音機
株式會社ヤマト商會
本社 大連市常盤橋
支店 奉天、新京、哈爾濱、承德

瓜谷長造商店
大連市山縣通二二四番地

天滿屋ホテル
大連市常盤町
電話(2)七一五五番

福井高梨組
福井猪和太
高梨勉一
大連市東公園町

大連市長 別宮秀夫
副市長 田中稔

福本順三郎

鋼製金庫
東來洋行
大連市山縣通一六六番地
電話(2)二八一八番

株式會社大信洋行
大連市監部通
奉天、新京、哈爾濱、錦州、天津、青島、鞍山、吉林、赤峰、扶餘、承德、阜新、大阪、東京

機械類 自動車
泰東洋行
新京、大連、奉天、哈爾濱

丸岡洋行
大連市山縣通一五五番地
電話(2)二五四七番

機械工具 ポンプ
芦田洋行
大連市山縣通六三番地

關東軍酒保 各本部隊司令部酒保 御用達
寫眞機材料 双眼鏡時計
株式會社樫村洋行
本店 大連市浪速町四丁目
支店 新京、奉天

大連石炭商組合

株式會社大連連鎖街

大阪商船株式會社
大連出張所
大連市山縣通

阿波國共同汽船株式會社
大連支店
大連市山縣通二〇〇

松浦汽船株式會社
大連市加賀町

滿洲國通信社大連支社
大連市東公園町三二番地

東拓土地建物株式會社
大連市山縣通一四二番地

滿洲明治製菓株式會社
大連市彌生町八番地

遼東ホテル
大連市大山通
電話(2)三一七一番

岡組
大連市東公園町六五番地

長谷川組
大連市神明町六番地

合資會社第一工業公司
代表社員 田島喜錄
大連市山縣通

濱恒材木店
大連市淡路町一〇番地

白絞油、滿洲總發賣元
恒裕洋行
常深隆二
大連市山縣通一八

滿洲久保田鑄鐵管株式會社
大連市東公園町三五番地

東祐公司
首藤定
大連市山縣通大倉ビル

夏木瀬印刷所
大連市岩代町四一番
電話(2)六三三七番

株式會社乾卯商店大連支店
大連市山縣通六七番地

逢阪町遊廓取締事務所

大連三業組合

新京日日新聞 其六

戰爭とヂャーナリズム

滿洲弘報協會理事長 森田久

戰爭とヂャーナリズムで誰しも思ひ起すことは一八九八年の米西戰爭である、あの戰爭はアメリカとしてはモンロー主義から帝國主義への歷史的轉換期を劃するものであつた、南北戰爭を經てからのアメリカは國力漸く充實し、昔のやうに英國や歐大陸を矢鱈に怖がる必要はなくなつて來た、たまたまスペインがキューバやフイリッピンで惡政をやり出した、そこでアメリカ一流の正義人道觀から遂に戰火に訴へるに至つたといふのが歷史の本筋になつてゐる、これは今度の支那事變にアメリカが正義呼ばはりで日本に楯ついたり、ドイツのポーランド攻略やソ聯のフインランド侵入にいきり立つてゐるのと思ひ合せて誠に興味深いが、今日でも戰爭に對して國民の感情をそゝりたゝしめるのに、ヂャーナリズムが大きな推進力をなしてゐるやうに四十年前の米西戰爭こそヂャーナリズムが戰爭に發揮した威力の代表的なものといつてよからう。

□　□

ヂャーナリズムの歷史でみると、米西戰爭はハースト主催若くは紐育ヂャーナル主催といふことになつてゐる、甚だ奇矯ないゝくさの様だが事實は正にその通りだつたのである、一八九三年以來キューバで虐殺が行はれ始めた、白人による土人殺戮は殖民政策にはつき物である、大英帝國が建設されるまでにはかうした例は枚擧に遑があるまい、しかし烱眼ハーストはヂャーナリズム煽揚の手段として斷乎としてこれを取り上げた、「比類なきスペインの非道」「しかもこの非人道が正義と自由の國アメリカのまん前で行はれてゐるのだ、アメリカは正義と人道の名に於いてキューバを救ひ、スペインを膺懲すべし」とばかり開戰に至るまで四五年に亘り、その主宰する紐育ヂャーナルをして怒鳴りつゞけしめた、所謂非人道を實證するためにニュースに寫眞に事實以上に誇大に報道されたことはいふまでもない。

偶々「キューバ大統領の親戚に當る十七才の美しき一少女シスナロスなる政治犯としてアメリカ海岸に廿年間の幽閉を受けることゝなつた」といふニュースがハーストの手に入るや、大衆の興奮をかり立てるに絕好の材料とし直ちに紐育ヂャーナル紙上に發表すると同時に、アメリカ女性のセンチメンタリズムに訴へこの憐れなる少女の助命嘆願書をスペインの攝政女皇に提出する爲にこれがサインを求める運動をはじめた、數千名のアメリカ婦人が直ちに呼應したのは勿論である、かくして國民の興論は婦人を中心に熱狂しはじめた、汐時よしと見たハーストは私かにこの少女の強力救出といふ大膽不敵なプランを部下のデッカーなる記者に授けた、命令一下デッカー記者は直ちに當時少女が幽閉されてゐたハバナに赴き、僅かに二週間にしてこの冒險的計畫に成功した、紐育ヂャーナルがこの記事によつていかに大衆の興奮を一層湧き立たせたかについては說明するまでもあるまい。

救ひ出されたシスネロス嬢は男装させられ、人知れず某外國汽船に依り紐育に運ばれた、數奇な運命を持つ男装の美少女を迎へた紐育の興奮は絕頂に達した、ヂャーナリズムの正道は客觀性にある、しかるにハーストのヂャーナリズムはそれ自身が行動して煽情主義のファンで煽り立て自身のプランを到達點にまで持つて行かうといふのである。

□　□

このシスネロス嬢救出に先立ちハーストは敏腕のスケッチ記者をキューバに派遣し、煽情的スケッチを送るやうに命じたが、程經て同記者より「現地に來てゐるが案外平靜で戰爭の起る模様はない故歸社してよいか」と指令を仰いで來たに對し、ハーストは即座に返電して曰く「今暫く現地に止れ、貴殿はスケッチを送れ、戰爭は當方より提供する」……これはハーストに關する代表的逸話であるが當時に於けるハーストの面目を語つて剩す所なしであつた。

あらゆる手段で、大衆の感情を戰爭へ戰爭へと湧き立たせるに、相當の效果を收めたが、當時の大統領マッキンレーだけは流石に一國の元首だけあつて、冷靜に構えてハーストのセンセーショナリズムに動かされやうとしない、偶々一八九八年二月中旬、ハバナ港に碇泊してゐた米國軍艦メイン號が不明の原因に依つて爆破された。

ハーストがこれを見逃す筈はない、二月十七日の紐育ヂャーナル紙上に「メイン號爆破犯人を報告したるものに五萬弗の懸賞提供」の社告が現はれ、同時に同紙上によると疑もなく敵の行爲であるといふ事に印象づける事を忘れなかつた、かうなると戰爭の爆藥は點火されたも同様である、しかしマッキンレー大統領はなほ自重して動かないと見るや、ハーストの巨砲はマッキンレー大統領に向けられた、「現政府が起たないのは、ウォール街を儲けさせる爲めである、すぐに開戰となつては思惑の餘地がなくなるからだ」—といふ意味をヂャーナル紙上に連日吠え立てさせる、興奮した大衆は盛んにこれに拍手を送る、何時の間にかマッキンレー内閣即ちウオール街内閣が流用言葉となつてしまつた、かうなつてはマッキンレー大統領も敵はない、遂に四月二十五日スペインに對するアメリカ宣戰は布告されたのである、開戰となるやハースト自ら記者數十名を引率してキューバに從軍した話は長くなるから省略する。この經過から見ると、米西戰爭は紐育ヂャーナル主催であり、ハーストは戰爭の發頭人となるわけである

しかして米西戰爭がモンロー主義よりアメリカ帝國主義への轉換を劃する意味において、ハーストのヂャーナリズムはアメリカの歷史を動かしたことに當る、米西戰爭に對しハーストに國家の前途を洞見する愛國的動機が少しもなかつたといふのは酷評に失するかもしれないが、ハーストが加州のサンフランシスコ・エキザミナー紙を親爺にねだつて經營を引受けて以來、米國の新聞王として君臨するに至るまでの遣り方から考へるとただ新聞を賣らんがために道德とか國家觀とかはお預けの形にして煽情主義一點張り、事實は歪められ誇張され、時には捏造まで敢てして大衆の興奮を引ずつて行つたのであるから、後世米西戰爭の製造者扱ひを受けても文句はいへないのである。

□　□

米西戰爭を煽り初めるまでの發行部數は精々二、三十萬を出でなかつた紐育ヂャーナルが戰爭中は平均百五十萬部を發行し、後年ハースト・グループとして全米に二十いくつかの新聞を經營するに至る基礎を築いた事からいつても米西戰爭はハーストグループの金儲けに利用された恰好にもなる、米西戰爭煽動に對するハーストの狂氣沙汰に對しては有識者方面からは深刻な非難が放たれ「イエロー・ペーパー」は悪德低級の代名詞として蔑視されたが、ハーストの打ち出す紙の爆藥の前には暴風の中の蚊の羽音位ゐの反響もなかつた。しかしハーストの歩いた道は所詮覇道であつた、いかに爆急性に富む米國といへども歪曲誇大、捏造のニュースには飽きが來る、最近までハースト新聞王國の中心をなしてゐた紐育アメリカンは年に百萬弗からの缺損を出すに及んで一九三七年廢刊となり、約五十年にわたり、天馬空を馳ける慨をもつて米國新聞界を風靡したハーストの晩年やゝ寂寥の感がある。

ヂャーナリズムは近代自由主義文化が生んだ大きな魔力である、戰爭は國家間の利害と感情の衝突から起る、ラヂオが發達するまでは戰爭に對する國民の感情と興奮を統一する機關は活字の外なかつた、この活字の魅力と紙の爆破力は一新聞社長の創意と努力で米西戰爭を誘發し得たのである、しかし儲けんがため賣らんがためのセンセーショナリズムは本場のアメリカですら既に顧みられなくなりつゝある。ヂャーナリズムの正道は或る程度の客觀性を保持しつゝその目標は國家的に統合されなければならない、戰時のヂャーナリズムの行く道は、自由主義文化時代に培養された威力を、國家的目的のために統合強化することでなければならぬ、世界各國共にこの方向に邁進しつゝあるのが現代のヂャーナリズムである。

【寫眞は筆者】

躍新國都の盛觀（大同大街）

謹迎東亞建設之春

長春縣公署
長春縣農事合作社

滿洲特殊製紙株式會社

天寶山鑛業株式會社

滿洲乾電池株式會社
新京事務所
新京大同大街康德會館二六號

日本水産株式會社滿洲支店
取締役支店長　三浦一計

櫻ホテル本館
安達街五〇一號
電話代表②一八一五・一八一六番

櫻ホテル別館
豊樂路五〇八號
電話②一五四三・一五四四番

新滿商事
新京六馬路一〇七
電話②四六四二〇番
振替新京二八〇一

御料理　大辰
西五馬路
電話②五三六〇番

娯樂と趣味

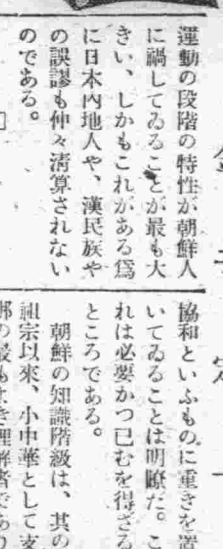
四臺設備
ミフジ撞球場
日本橋通四十七番地
電話（3）二七九二番

近代式　總椅子席
アサヒ囲碁将棋クラブ
祝町二丁目（銀座新道）

在滿洲鮮系の立場

金子定一

本年は日滿支三國、東亞大陸、半島と島との日本を結ぶ關係、これを律するところの新秩序の成立を見るのであるが此の新秩序が成つても三國の人民の資質の程度が舊態依然としてゐてはあまり立派とは言へない此際大切なことは我々が個々の質の向上によつて東亞といふものの價値を高めて行く事である。今のところ殘念ながら西洋の方に幾多の優秀な點を讓らなければならないのが東西兩洋の人民の個々の比較の結果に於ける實情である。

私は、日本内地人の程度を以て決して十分とは思はない。然し、朝鮮の人々が近來メキ／＼と示しつゝある進境に對しては双手をあげて感謝し歡喜するものである。同時に滿系も、蒙系も早くさうなつてほしいと切望するものだ。

これは決して各民族に對してお世辭や外交辭令に言つてゐるのではない。かくなければ東亞が立ち遅れる、さなきだに遅れてゐる東亞がとりかへしのつかないことになることを惧れるからである。

□

滿洲に於ける民族協和の進行は今のところ荒削りの時代だ。細工のこまかいところに行つてゐない。

之が爲にイヤな思ひをしてゐるのは朝鮮民族を筆頭にしたところの内地系日本人と漢民族以外の人々だ。之は滿洲國の使命が現在のところ、支那に對して「日漢兩民族提携の可能性」を示す爲に、滿洲で其の手本を作る事を急とし又之を重しとしてゐるせゐである。

この日漢兩民族本位の協和運動の爲に朝鮮民族を初め其の他の人々が幾分閑却されてゐる有樣だ。尤も日本内地人の朝鮮問題無關心、甚だしきは朝鮮を植民地視したり、朝鮮人を異民族視したりする樣な認識不足や漢民族の歴史的な舊附屬輕蔑の遺傳的觀念や蒙古人などとの多少の利害衝突もあるにはあるが、現在の協和運動の段階の特性が朝鮮人に偏してゐることが最も大きい、しかもこれがある爲に日本内地人や、漢民族やの誤謬も仲々清算されないのである。

□

私は敢て言ひたい、在滿朝鮮の同胞よ、大きく現段階を諦め觀て、こゝに安住の地と、進展の前途とを自ら切り拓いて貰ひたい、難事であり苦業であるけれども致方がない。開拓民を見よ、彼等はそれを實行してゐるではないか。

私は同胞諸君に向つて日本精神を説かない、國體をも説かない。それは今日ではもはや私共内地人の役目ではなくなつた。半島同胞に幾多の私共以上の適任者が生れて來たのである、是よりも芽出度いことはない、たゞ一つ、お互滿洲に居て朝鮮人と言はず内地人と言はず、自分の良心の働くがまゝに公德、私德を守り行ひ、お互同士の信賴感を高め、同胞愛を增進すると共に大陸の原住民たる漢民族其他の人々をして内鮮日本人を敬愛せしめたいと思ふ

お互東洋人同士の公德、私德は其の根本に於てよく相通ずる、決して齟齬する樣な事はない。禮式作法の形式には多少異なるものがあつても其の精神は同じことだ。

□

私は最後に在滿朝鮮人の有識者に對して一のお願をしたいと思ふ。

それは、滿洲國に於ける民族協和の現段階に於て、朝鮮人士に重要な後割を演じて頂きたいことである。

滿洲に於ける民族協和の現段階は事實上、日、漢の協和といふものに重きを置いてゐることは明瞭だ。これは必要かつ已むを得ざるところである。

朝鮮の知識階級は、其の祖宗以來、小中華として支那の最もよき理解者であり其の文化を學んで屢々出藍の譽があつたのだ。

そして現在では、日本の國體、日本精神に就ての研鑽、精進、動もすれば内地人を凌駕する人々を見ること稀ではない、たとへそれ程の自信のない人と雖も、日本内地人自ら説く日本道よりも、朝鮮人によつて説かれる方が大陸人の耳に入り易く、心を動かさせ易いことがあらうと思ふ。

私は朝鮮人士がかうして日漢の楔となつて東亞の爲に大きな使命を果して頂きたいと思ふ。

このことは民族協和の次の段階に於て、更に大きな意義を持つことになることを信じて疑はないのである

□

或は、我々が一一日系と漢民族との間に立つて御説法もして居られないではないか、第一我々だつて生活がある、それも無視して運動に沒頭することは出來ない相談であるといふ向があるかも知れぬと思ふ。これは一應尤もなことであるからだ。

私は決してそれを反駁しようとは思はない、そして次の樣に申したいのである「然らば皆さんの日常生活としてこの態度心事を表現して貰へば結構である。曾て故朴榮喆氏が京城駐在の名譽總領事として新京に見えたとき、一ことも日本精神を説かず、半句も支那文化を謳歌しなかつたが、其の漢詩の應酬と滿系大官との歡談との間に於て、立派に半島生れの近代的日本人たり東亞大陸の紳士道體得者たることを示し得て、滿系大官の間に非常な敬意を博し得られたのである。

有名人の例以外でも、私は幾多の場合を實地にあげ得る。要は自ら日本道を歩みつゝ其の胸裡に大陸的なものに對する理解、敬愛がたくはへられてゐることにある。このことの實現は若干の成念を以てすれば在滿の鮮系の指導的地位にある在滿の鮮系の方々として易々たることの樣に考へられるが、どういふものであらうか。」【寫眞は筆者】

康德七年元旦

興亞

李紹庚

唯德可以服人

康德七年　熙洽

謹迎東亞建設之春

滿洲土木建築業協會

新京醫師會

東光書苑
大同大街東京海上ビル一階
電・樂路二一一一

マルイシ商店
石黒繁治
新京入船町二ノ二
電話（３）三六六七番

日本タイプライター株式會社
新京出張所
朝日通り八十一番地
電話（３）三三三八番・五六八四番

滿洲電信電話株式會社
新京ラヂオ營業所
所長　土岐治雄

滿洲川井電氣株式會社
新京朝日通八十一番地

生そば御料理　丸善
日本橋通り（興銀前）
電話（３）三一二四番

カフエー　ミス神戸
豐樂路七〇八
電話（２）二一〇五番

炭安商店
新京室町二丁目九
電話（３）三〇〇五番

有價證券賣買並金融　富士屋株式店
新京中央通り五番地
電話（３）二三八四番・四八七五番

貸室貸家經營主
錦ビル　山口正太
錦町三丁目五

寶洋行
新京朝日通六九
電話（３）五七二六番

洪龍洋行
新京六馬路一〇七
電話（２）四六四二番

日本橋茶房
日本橋通四五
電話（３）三一二八番

高級酒場　ゆりかご
祝町二丁目七
電話③三九三〇番

丸ビル旅館
入船町二丁目一
電話③六三六一番

丸ビルグリル
電話③五五五五番

新年お芽出度う御座います
本年も相變らずの御引立を
カフエー　イナリ
赤川夏江
富士町二丁目
電話（３）四五二六一五番

お正月の福壽司の御用命は
割烹　いなり亭
赤川靜子
東二條通り五
電話（３）四五五一三番

范家屯之部

范家屯尋常高等小學校長
佐藤秋男

滿洲興業銀行范家屯支店
加藤猛

范家屯郵政局長
提利平

范家屯電信電話局長
新豐彌兵衛

范家屯驛長
松本佳三

懷德縣
農事合作社
范家屯交易場　濱村又治郎
古賀辰男
范家屯家畜市場　加治佐榮次

懷德縣
范家屯街公所
街長　范治林
副街長　中川廣輔
職員一同

（大正九年十二月十四日第三種郵便物認可）

新京日日新聞

新年特輯

發行所　新京日日新聞社　新京永樂町四ノ一　電話三二二五・三三〇〇

發行人　十河榮忠
編輯人　和波薫
印刷人　水之越内介

皇紀二千六百年の春

理想配給組織の下躍進する國都映画界

大正14年9月

→國都映畫界の草分け、長春座の存在は今の長春座の前身現阿川洋行（日本橋通）に開館した時に始る、明治四十四年、收容人員約四百名といふ長春時代のさゝやかなこの娯樂場の開設が實に今日の隆々たる國都映畫界の濫觴である。これが當時の有志達の協力によつて現在の株式會社長春座（三十萬圓、但當初は二十萬圓）の開館となつた、大正九年十一月のことで芝居、映畫とも巡業者の手を經て行はれた、間もなく經營不振に陷り、昭和九年十一月現在の湯淺長四郎氏が專務として乘込み、松竹映畫を契約して陣容を建直し、今日の好調の因を築いた、昭和十年座席を椅子席に改め發聲映寫裝置もウエスタン、スーパーシムプレックスを採用するに到つた、現在の陣容は湯淺氏の下に會計古賀鹿一郎、宣傳企劃櫻間滕男、横井正一、技師榮谷藤吾の諸氏で、階下の椅子席け昭和十二年十月舞臺を切り落して擴張され定員一、五五〇名といふ新京最大の收容力を有してゐる。［寫眞は長春座と湯淺專務（圓内）］

←新京キネマの開館は昭和八年十二月であるが、經營主岸本朝次郎氏の映畫界へのスタートは大正十四年十二月現在の三笠町二丁目二の場所に演藝館［寫眞上］を蓋開けした時に始る、收容人員約七百名、慈善興行を行つてゐたが、昭和五年に到り映畫常設となり、現新キネが工費十五萬圓を投じて建築され、收容人員九〇〇名、椅子席を設備したことは長春座より一足先きで長春座と共に舊附屬地ファンの間に拔くべからざる地盤を確保してゐる、現在の陣容は表面には岸本氏長男功氏が起ち、これを扶けて鹿野千代夫氏が支配人の席を占め、發聲映寫裝置はウエスタン、ローヤル、十二年八月表を改裝、今日に及んでゐる。［寫眞は新京キネマと岸本朝次郎氏（圓内）］

大正9年11月

昭和12年4月

昭和10年4月

→銀座キネマの開館は昭和十一年十二月であるが、ここは最初、色物本位の演藝館として發足したが、開館間もなく經營不振のため閉鎖の已むなきに到り、この間約一ヶ年色々な話題を提供したが、結局現在の銀座キネマとして甦生、渡邊ひさきさんが亡夫の遺志を繼いで健闘してゐる、支配人中原愼藏、企畫花柳みどり宣傳松村博の三君をよき協力者として家族的な親しみに結ばれた現在の陣容は他館には見られない美しい狀景である。最初はマキノトーキー、フォックス、帝都が東寶封切場となつてからは新興映畫の封切場となり現在はこれに大都番組を加へてゐる、發聲裝置はローラー（技師永井勝利氏）收容人員は八百名［寫眞は銀座キネマと渡邊ひさきさん（圓内）］

昭和十一年十二月

昭和10年12月

昭和10年12月

昭和十一年十月

←長春座、新京キネマの好況に刺戟されて十五萬圓の合資、總資本二十八萬圓を要して設立されたのが帝都キネマである、昭和十年四月開館した最初の建築［寫眞上］は不幸同年十月火災に見舞はれ烏有に歸したが、直に復興目指し同年十二月には早くも再開館した現在の建物［寫眞下］がそれで收容人員一、一三五名、發聲映寫裝置はウエスタン、スーパーシムプレックス（技士中丸健一氏）、陣容は專務に代田幹三氏を置き宣傳部に及川勇氏、事務所に川本隣市、島井俊二郎の兩氏を置く、最初の開館當時は新興、洋畫の併立封切であつたが、不利な足場の中で代田專務一流の強行政策が行はれた、前記二館が積極的に取上げなかつた洋畫プロに力を入れ、新京今日の洋畫ファンの温床となり、洋畫館としての根強い地盤を確保した、なほ新興を現在の東寶に乘替へたのは昭和十二年十月である。［寫眞圓内は代田專務］

→新市街發展に伴ふ映畫館の進出は昭和十年十二月豐樂劇場の開館によつて行はれた、合資廿萬圓（現在十五萬）、收容人員一、四〇〇名、當時全滿一の偉容を誇るこの劇場も開館約一年餘といふものは帝キネ以上足場の惡さから客足は集らず閑古鳥が鳴くといふ狀態、映畫はPCLとフォックス、ユニバーサルを主軸とする洋畫プロの混合編成で、同十一年七月岸本チェーン傘下に入り日活映畫を新キネと掛持するやうになるまでは隨分苦しい時代が續いた前支配人佐野市藏氏（現寶山）を惜ました頃も今となつては懐しい思出である、翌十二年滿映の設立により現在の松竹、東寶番組となつたが、以來好況の一途を辿り現在に到る、現陣容は支配人に栗林要氏、宣傳部に吉見哲氏、事務所に丸山治一氏、映寫室に廣橋晃氏を置く、發聲映寫設備はRCAスーパーシムプレックスである。寫眞は豐樂劇場と栗林支配人（圓内）

→豐劇とは條件を異にするが岸本チェーンの一翼が朝日座に根を下したのは昭和十一年十月である、工費二十萬圓を要し定員一、二〇〇名の豐劇に次ぐ收容力を有つ。純然たる二番館として開館されたもので、滿映設立後は日活、松竹新興、東寶四社の再映プロを主軸に多彩な二番館としての特徴を發揮してゐる、現陣容は支配人に山本貞治氏、宣傳部に芝木武氏を置き、發聲映寫裝置はRCAローヤルである［寫眞は朝日座と山本支配人（圓内）］

映画の出来るまで

六

（14）化粧直し　一回休み

（13）**演員故障**　主役が病氣等で倒れた場合代役を必要とする時があります。三、四、五が出たら代役を求めて9へ戻りませう。

（12）ノB　**雨降り　バス事故**　豫期せぬ故障や天候不順のため撮影進行の豫定表が狂ひます。

（12）**セット撮影**　ステーヂ内にセットが組立てられ小道具の配置が濟むとキャメラの位置を定め演技のテスト、照明研究、マイクロフオンの位置決定等があつて本撮影に入ります。

（12）ノA　**ロケバス**　（ロケーシヨン撮影）ロケーシヨンは近郊地の場合はバスが使用されます、同時録音が必要なら録音裝置を一緒に運んで行かなければなりません。

⑪ 俄雨撮影中止　一回休

セット

ロケーシヨン

（10）**撮影開始**　撮影はステーヂ内の撮影、オープンセット撮影、ロケーシヨン、トリック撮影等の場合に分れます。ロケーシヨン撮影の場合はセット撮影の合間を利用して必要な人員だけを集めロケハンで決定しておいた地へ赴いて撮影を行ひます。

止り　一度全部10以前の場所で振り出した數が10以上に進出來る場合（一例9に合て六を振り出した場合）でも一度こゝで止り、次の番で偶數が出たらロケーシヨン奇數が出たらセットのコースを進みます、但偶數の場合は振り出した數の二分の一の數だけ前進、奇數の場合は振り出した數だけ進めますが、双方とも偶數のコースは偶數奇數のコースは奇數が出た時にのみしか前進出來ません。

A上り　滿映作品　國境之花　（一）　王麗君・王福春

B上り　白　東寶・滿映提携作品　長谷川…　（五）（四）

（9）**演員訓練**　未熟な演技ではいゝ作品が出來ません。懸命の勉强、堪えざる精進が必要です。
本讀みへ戻る　も一度各自の役柄について検討を重ねませう。

（8）**宣傳寫眞**　企劃で決定と同時に發表する作品の前宣傳を行はねばなりません、主役なり主要場面の特寫が行はれます。スナップなどもこれに利用されます。

（7）**小道具調べ**　衣裳以外のもの、靴とか、帽子とか、部屋の調度類を揃へます。これも場所時代に相應しいものでなければなりません。
一回休み　これも綿密にするために一回休み。

（6）**衣裳調べ**　出演者は役柄出場所によつてそれに相應した衣裳を身につけねばなりません。なかには衣裳など着ていい場合はないから出來上らぬこれません。そこで衣裳調べが行はれます。
一回休み　美術考證同様入念にやりませう。

（5）**美術考證**　何時頃の時代に取材したストオリイか、時代によつて風俗習慣を異にするのですから、その時代に即した風俗習慣を知るための調査が必要となつてきます。
一回休み　入念に調査をするため一回休みます。

…の他に豫め實地調査が行はれま…

（A）「**背信**」滿映直輸入の佛ウディフ映畫、ダニエル・ダリュウの主演物で「曉に歸る」と同様夫君のアンリ・ドコアンが監督に當つた、聰明なる女學生リヂアが誠實な心を持ち乍ら何故に背信の道を歩まねばならなかつたか…、ダリュウを繞つて「禁男の家」のヴアランテイーヌ・テシエ「我等の仲間」のシャルル・ヴアネル「曉に歸る」のピエール・マンガン等佛蘭西映畫界一流の贅澤な助演陣を有つ。

（B）「**空の彼方へ**」日活映畫、吉屋信子女史の一昔前の甘い小説の映畫化、吉村廉の監督により花柳小菊、日暮里子が主演、第一二部よりなる。

（C）「**御存知東男**」東寶映畫、岡鬼太郎原作の旣に幾度も映畫化されたお馴染み旗本五人男の物語、此村大吉に岡讓二が歸還初出演、座光寺源三郎に長谷川一夫これに錫立のぼるを配して演出は瀧澤英輔。

（D）「**長脇差團十郎**」新興映畫、市川右太衛門が役者で俠客で實は旗本の總領といふ儲け役をやる川口松太郎原作の映畫化、八尋不二のシナリオにより牛原虛彥が演出する、劇壇から河原崎權十郎、大泉から眞山くみ子が特別出演してゐる。

（E）「**暖流**」大船映畫、原作は東朝に連載の岸田國士のもの、池田忠雄が脚色に當り誠實と闘志のある青年を繞り近代女性の異つた二面を代表する二人の女性の持つ感情の交流を描いたもの、佐分利信、高峰三枝子、水戸光子共演。監督は好調の吉村公三郎。

（F）「**エノケンの彌次喜多**」東寶映畫、エノケン、二村定一、高勢實乘のお笑ひ、八住利雄脚色、中川信夫演出。

（G）「**鍔鳴浪人**」日活映畫、讀賣連載の角田喜久雄作、監督は荒井良平で阪妻、市川春代、新人社の川上朱美が共演する、維新の混亂に乘じ漁夫の利を占めんとする外人と、同じ野心を抱く怪人一味に夢國の士楓月太郎、美女千鶴の悲戀を絡ませた娯樂物。

（I）「**闇太郎懺悔**」松竹京都映畫、ヒット映畫「雪之丞變化」の後日譚かどうかは知らぬが阪東好太郎の闇太郎が御用提燈を向ふの大殺陣がお娯しみ、伏見信子が助演する、演出は大曾根辰夫。